

令和7年度シラバス（国語）

学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科(科目)	国語(現代の国語)	単位数	2単位	学年	1学年(普通科)
使用教科書	数研出版『現代の国語』				
副教材等	数研出版『現代の国語準拠ワーク』 浜島書店『新訂版最新国語便覧』 いいずな書店『現代文単語 改訂版』 尚文出版『品詞別 頻出漢字マスター3000』 尚文出版『現代の国語の基礎学習』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。 ②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。 ③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。 ②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。 ③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。 ④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。 ⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) ことばが持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

- ① 語句の意味、用法を理解し、語彙を豊かにすることで、論理的な文章の話題や筆者の主張、論拠を的確にとらえられるようになること。
- ② 人間社会、自然科学など専門性の高いテーマの背景を知ること、筆者と問題意識を共有し、自分なりの問題意識や考えを持つようになること。
- ③ 自らの考えを論理的に組み立て整理し、深みと説得力のある文章で表現できるようになること。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	・ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに創造したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	・ 言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、ことばが持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

5 評価方法

評価方法	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査、小テストの分析 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査、小テストの分析 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。
<p>内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。 成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に 4：4：2となります。</p>			

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	社会と文化	4 A、C	内田樹 「コミュニケーション能力とは何か」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的・婉曲的表現について理解する。 ・ 文章中の情報を関係付けながら整理し、筆者の意図をくみ取り、自分の考えを深める。 ・ 二つの文章を読み解き、学習課題に沿って説明する。 	4	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) 課題プリント (行動の確認)
5	社会と文化	6 A、B、C	山崎正和 「水の東西」 【ズームアップ】文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 筆者の主張や論拠、文章の構成、論理の展開を的確にとらえ、要点を把握する。 ・ 要約文を各自書き、互いの要約を読み比べる。 ・ 【表現編】「書き言葉の技術」・文章トレーニングに取り組み、説得力のある文章の特徴について考え、発表する。 ・ 「文化」の意味を確認し、そこから現代社会の諸問題を捉え、話し合う。 	6	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) 課題プリント 発表の様子 (行動の確認)
6	問題を提起する	6 B	山極寿一 「感情暴走 社会の由来」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解する。 ・ 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫する。 ・ 課題テーマについて積極的に自分の考えをまとめ、筆者の文章を参考にしながら、学習課題に沿って適切にまとめる。 	6	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の確認) レポート (記述の点検)

7	新しい視点	6 A、C	梶井厚志 「わらしべ長者」の経済学 【ズームアップ】情報とメディア	<ul style="list-style-type: none"> ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解する。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要旨や要点を把握する。 ・自分の考えが適切に伝わるように、主張や論拠の説明を補足しながら意見交換を行い、自分の考えをさらに深める。 	6	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の確認) 発表や意見交換の様子 (行動の確認)
7	期末考査					
8 9	ことばの働き	9 A、C	鈴木孝夫 「ものごとことば」 【ズームアップ】どこにも蝶などいないー言語論入門ー	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、認識や思考を考える働きがあることを理解する。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要旨や要点を把握する。 ・筆者の意見や参考資料をもとに実社会の問題について考察し、適切に説明する。 ・テーマに関連する書籍を読むなど、読書の意義と効用について理解を深める。 	9	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の確認) 発表や意見交換の様子 (行動の確認)
10	賛否を述べる	8 B	柳澤桂子 「命は誰のものなのか」 【ズームアップ】科学と生命を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解する。 ・読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度を考えて、文章の構成や展開を工夫する。 ・筆者の主張を的確に理解したうえで積極的に自分の考えを深め、論述する。 ・実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深める。 	8	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の確認) レポート (記述の点検)
11	意見を述べる	8 B	森岡 正博 「無痛化する社会のゆくえ」	<ul style="list-style-type: none"> ・引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うことができる。 ・読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度を考えて、文章の構成や展開を工夫することができる。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 	8	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) 課題プリント (行動の確認)
12	期末考査					
	人間と時間	7 A、C	内山節 「時間と自由の関係について」	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深める。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要旨や要点を把握する。 ・同じテーマの文章を読み解き、自分の考えを発表する。 	7	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) 課題プリント (行動の確認)

1	認識の枠組み	6 A、C	國分功一郎 「消費を妨げる社会」 【ズームアップ】自己と他者の理解とは	・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句や語彙の構造や特色、用法などを理解し、語彙を豊かにする。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要旨や要点を把握する。 ・筆者が論じる問題を自分に引きつけて考察し、適切に説明しようとする。	6	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) 課題プリント (行動の確認)
2 3	実用の文章	4 B	資料を分析して考えをまとめる	・情報の妥当性の吟味の仕方について理解を深め使う。 ・目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を集め、集めた情報の妥当性を吟味して、伝えたいことを明確にする。 ・課題資料を踏まえて身近な礼を考え、具体的にまとめる。	4	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の確認) レポート (記述の点検)

計64時間 (55分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「話すこと・聞くこと」 20 時間	B「書くこと」 24 時間	C「読むこと」 20 時間
-----------------	-----------------------	------------------	------------------

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

7 課題・提出物等

- ・朝学習では『現代語単語』の小テストに取り組み、当日提出することとなります。
- ・週課題は『現代の国語の基礎学習』を中心に取り組み、火曜日に提出することとなります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。
- ・定期考査は教科書、週課題の範囲、『頻出漢字マスター3000』から主に出题します。

8 担当者からの一言

「現代の国語」は、実社会・実生活に生きて働く国語の能力を育成する科目です。実社会に必要な国語の知識や技能を身につけたり、言葉による見方考え方を働かせ、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像する力を伸ばしたり、言葉が持つ価値への認識を深めたりすることなどを目指します。「現代の国語」及び「言語文化」で学ぶことは、高校3年間だけでなく、皆さんの生涯にわたる基礎となります。授業では、基礎・基本を大切にするとともに、実際に話したり書いたりする学習活動を通して、応用力を高めていきます。楽しみながら、力を伸ばしていきましょう。

教科(科目)	国語(言語文化)	単位数	2単位	学年	1学年
使用教科書	数研出版『言語文化』				
副教材等	数研出版『言語文化準拠ワーク』 啓隆社『新修古典文法 二訂版』 啓隆社『新修古典文法 二訂版 ドリル編』 啓隆社『イラストとシーンでおぼえる Look@古文単語 337 改訂版』 いいずな書店『知識から文脈へ理解を深める精説漢文』 いいずな書店『知識から文脈へ理解を深める精説漢文完成ノート』 尚文出版『言語文化の基礎学習』 浜島書店『新訂版最新国語便覧』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。 ②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。 ③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。 ②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。 ③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。 ④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。 ⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

①自分の考えを持ち、相手の立場を考えながら表現方法を工夫して伝えることができるようにする。 ②文章の内容を的確に読み取り要約できるようにするとともに、自分の考えを述べられるようにする。 ③言語文化に特徴的な語句や表現の技法と効果について理解する。 ④基本的な言語事項や漢字を習得する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに創造したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	・言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、ことばが持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

5 評価方法

評価方法	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表での表現の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシート（ワークシート）の記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシート（ワークシート）の記述の分析 などから、評価します。
<p>内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。 成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に 4：4：2となります。</p>			

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	古文：説話	5 B「読むこと」	児のそら寝(『宇治拾遺物語』)	<ul style="list-style-type: none"> ・文語のきまりを理解し、古文に親しむ。 ・歴史的仮名遣いの読み方を理解し、古文を音読する。 ・古文特有の表現や古典常識・文学史について、辞書や資料を活用しながら理解する。 ・説話のおもしろさを味わい、登場人物の心情の変化と結末の描写について考える。 	5	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
	古文：文法	3 B「読むこと」	動詞 形容詞 形容動詞	<ul style="list-style-type: none"> ・古語の品詞や活用について理解し、古語辞典の引き方に慣れる。 	3	授業の取り組み姿勢 応答と発問 ワークシート
5	小説：近代小説	10 A「書くこと」 C「読むこと」	芥川龍之介『羅生門』 比べ読み(今昔物語集)	<ul style="list-style-type: none"> ・近代日本文学への入門的な短編を通して、内容や展開を的確に捉えることを学ぶ。 ・常用漢字を文章中で適切に用いる。 ・舞台設定・構成・描写に注目する。 ・本文と『今昔物語集』、初版の改稿前の末部を比較し、考察する。 ・「下人」の行動やその後について議論し、考えを深める。 	10	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
6	漢文：入門	4 B「読むこと」	入門一 入門二	<ul style="list-style-type: none"> ・格言や短い漢文を読み、漢文に親しむ。 ・訓読のきまりや熟語の構造を理解し、文章の内容を叙述に即して読み取る。 	8	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
	漢文：故事	4 B「読むこと」	「狐借虎威」(『戦国策』)	<ul style="list-style-type: none"> ・故事成語の由来や意味と、現代の言葉とのつながりを理解する。 ・漢和辞典や国語便覧を用い、熟語やその他の故事成語を調べる。 		
	定期テスト					
7	古文：歌物語	7 B「読むこと」	「芥川」(『伊勢物語』)	<ul style="list-style-type: none"> ・平安貴族の生活や恋愛に関して理解し、歌物語や古文常識に親しむ。 ・想像力を働かせ、人物の心情を考え 	7	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問

8 9	古文：歌物語	10 A「書くこと」 B「読むこと」	「東下り」(『伊勢物語』)	る。 ・敬語の基本的知識をつける。 ・後人の注について分析し話し合う。 ・和歌の修辞技巧について理解する。 ・折句などの修辞技巧を用いて和歌を作ってみる。	10	予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
10	漢文：史伝	4 B「読むこと」	「鶏口牛後」(『十八史略』)	・史伝の背景を理解し、漢文の世界に親しむ。 ・登場人物の言動・心情・考え方を的確に捉える。 ・史伝に描かれた人物の言動や生き方から学び、自己の生き方の糧にしようとしている。	4	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
	定期テスト					
11 ・ 12	古文：日記文学	6 B「読むこと」	「門出」(『土佐日記』)	・日記文学の特徴や成立の背景を理解する。 ・当時の暦法や時刻について理解する。 ・諧謔などの表現の工夫を味わう。	6	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
1 ・ 2	漢文：思想	8 B「読むこと」	「論語」 「孟子」	・古代中国の思想の流れについて理解する。 ・「論語」「孟子」を学ぶことで、自己のものの見方・考え方を豊かにする。	8	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート等
2	定期テスト					
3	漢文：漢詩	3 A「書くこと」 B「読むこと」	中国の詩	・漢詩のきまりと表現の特色について学び、漢詩に親しむ。 ・描かれた状況や心情を考えながら、漢詩文を読み味わう。 ・日本語や日本文学への影響について調べ、考察する。	3	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ ワークシート等

計64時間 (55分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「書くこと」 10 時間	B「読むこと」古典 40 時間	B「読むこと」近代以降の文章 14 時間
-----------------	------------------	--------------------	-------------------------

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

7 課題・提出物等

- ・ 単元ごとに、振り返りシート（ワークシート）を記入し、提出することとなります。
- ・ 副教材の問題集を用いた週課題を課します。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

「言語文化」は、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する科目です。生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけたり、言葉による見方考え方を働かせ、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像する力を伸ばしたり、言葉が持つ価値への認識を深めたりすることなどを目指します。「現代の国語」及び「言語文化」で学ぶことは、高校3年間だけでなく、皆さんの生涯にわたる基礎となります。授業では、基礎・基本を大切にするとともに、実際に話したり書いたりする学習活動を通して、応用力を高めていきます。楽しみながら、力を伸ばしていきましょう。

教科(科目)	国語(論理国語)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	数研出版『論理国語』				
副教材等	数研出版『プレミアムカラー 国語便覧』 いいずな書店『現代文単語』 尚文出版『品詞別 頻出漢字マスター3000』 ラーンズ『進研WINSTEP Core 2』 尚文出版『テーマ別論理国語 ベストクリア2』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。 ②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。 ③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。 ②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。 ③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。 ④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。 ⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
--

3 指導の重点

④ 語句の意味、用法を理解し、語彙を豊かにすることで、論理的な文章の話題や筆者の主張、論拠を的確にとらえられるようになること。 ⑤ 人間、社会、自然など専門性の高いテーマの背景を知ること、筆者と問題意識を共有し、自分なりの問題意識や考えを持つようになること。 ⑥ 自らの考えを論理的に組み立て整理し、深みと説得力のある文章で表現できるようになること。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	・ 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	・ 言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査、小テストの分析 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査、小テストの分析 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査、小テストの分析 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。
評価方法	<p>内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。</p> <p>成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：4：2となります。</p>		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	逆説	5 A、B	清岡卓行 「手の変幻」 【ズームアップ】芸術作品の「多面性」	・ 文章の構成や展開の仕方について理解を深める。 ・ 文章の内容や解釈を評価し、自分の考えを深める。 ・ 筆者の主張を読み解き、学習課題に沿って要旨をまとめる。	5	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) 課題プリント (行動の確認)
5	中間考査	1			1	
5 6	逆説	6 A、B	内田樹 「胆力について」	・ 辞書を活用し、語彙を豊かにする。 ・ 筆者の逆説的な言説を理解したうえで、異なる事例を考え、表現する。 ・ 学習課題に沿って積極的に慣用表現について調べ、理解を深める。	6	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) 課題プリント 発表の様子 (行動の確認)
	具体と抽象	6 A、B	森博嗣 『「具体」から「抽象」へ』	・ 「抽象的思考」の利点について理解し、説明する。 ・ 筆者の主張を読み解き、学習課題に沿って「具体」と「抽象」の違いを適切に説明する。	6	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の確認) 課題プリント (行動の確認)
7	期末考査	1			1	
7	表現	6	小論文を書く	読み手を意識して、わかりやすい構成、表現で文章を書く。	6	ワークシート (記述の点検)

8 9	近代と現代の視点	5 A、B	岩井克人 「未来世代への責任」 【ズームアップ】地球環境問題	<ul style="list-style-type: none"> ・主張とその前提や反証など情報と情報の関係について理解を深める。 ・人間、社会、自然などについて文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深める。 ・筆者の考えを踏まえて自分の意見を書く。 	5	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の確認) 発表や意見交換の様子 (行動の確認)
9	近代と現代の視点	6 A、B	村上陽一郎 「科学・技術の歴史の中での社会」 【ズームアップ】近代科学の功罪	<ul style="list-style-type: none"> ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解を深める。 ・科学・技術の歴史を読解し、『『道具』としての意味合いを持った科学』の内容を的確に捉える。 ・科学と社会との関わりについて自分の考えを深める。 	6	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の確認) 課題プリント (行動の確認)
10	中間考査	1			1	
10	情報と社会	6 A、B	疑似群衆の時代	<ul style="list-style-type: none"> ・「ポスト情報化社会」における「群衆」の変化を理解する。 ・・筆者の考えを的確に理解したうえで、本文全体を要約する。 	6	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の確認) 課題プリント (行動の確認)
11	情報と社会	5 A、B	多木浩二 「消費されるスポーツ」	<ul style="list-style-type: none"> ・本文中の比喩表現や強調表現の内容を理解する。 ・本文の内容をWEB記事の内容と関連づけて考察する。 ・筆者の考えを的確に理解したうえで、課題について話し合う。 	5	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の確認) 発表や意見交換の様子(行動の確認)
12	期末考査	1			1	
12	言葉と想像	4 A、B	長田弘「国境を越える言葉」	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉が「国境を越える」とはどういうことか、筆者の主張をまとめる。 ・テーマについて自分の考えを深め、学習課題に沿って適切にまとめる。 	4	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検)
1	文章の背景	6 A、B	『野生の「クジラ」と人間の「鯨」』	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成や展開の仕方について理解を深める。 ・環境問題の解決について「食」の問題と関連付けながら説明する。 ・現代社会の状況を分析し、文章構成を工夫して自分の意見を述べる。 	6	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) 課題プリント (行動の確認)
2	文章の背景	4 A、B	【探究の扉】 夏目漱石「現代日本の開化」・北川扶生子「漱石が生きた時代」	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成や展開の仕方について理解を深める。 ・関連する文章を比較して読み、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈する。 ・時代背景が人間や作品に与える影響について考え、適切にまとめる。 	4	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) (行動の確認)

学年末考 査	1			1	
-----------	---	--	--	---	--

計64時間 (55分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A 「書くこと」 23 時間	B 「読むこと」 41 時間
-----------------	----------------	----------------

7 課題・提出物等

- ・朝学習では『現代語単語』の小テストに取り組み、当日提出することとなります。
- ・週課題は『進研WINSTEPCore2』、『テーマ別論理国語 ベストクリア2』を中心に取り組み、提出することとなります。
- ・長期休業中の課題、休み明けの課題考査の範囲は別途指示します。
- ・定期考査の範囲は、教科書、『進研WINSTEPCore2』、『テーマ別論理国語 ベストクリア2』から主に出題します。

8 担当者からの一言

「論理国語」は、実社会において必要となる、論理的に書いたり批判的に読んだりする資質・能力を育成する科目です。論理的な文章の読解を通して、物事を筋道立てて説明する力を身に付けていきましょう。「論理国語」で身に付けた力は皆さんの生涯に役立ちます。授業を通して、社会に活かせる力をつけていきましょう。

教科(科目)	国語(文学国語)	単位数	2単位	学年	2学年(文系)
使用教科書	数研出版『文学国語』				
副教材等	数研出版『文学国語準拠ワーク』 数研出版『プレミアムカラー 国語便覧』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>次の項目を指導の重点とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文学的な文章を読むことを通して、人物、情景、心情などを的確にとらえ、表現を味わうこと。 ・我が国の近代以降の文学作品を鑑賞することで、我が国の言語文化に対する理解を深め、必要とされる知識や教養を身につけること。 ・語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自らも表現できるようにすること。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。</p>	<p>・「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。</p>	<p>・言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。</p>

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、小テストの分析 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、小テストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 <p>などから、評価します。</p>
<p>内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。</p> <p>成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：4：2となります。</p>			

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5 6	文学の扉	18 A、B	中島敦 「山月記」 比べ読み 「人虎伝」	・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解する。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉える。 ・人間が虎になるという設定の効果について粘り強く考察する。	18	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) 課題プリント (行動の確認)
7	期末考査	1			1	
7	詩歌	6 A、B	宮澤賢治 「永訣の朝」	・宮澤賢治の詩について、表現の特徴と効果を理解する。 ・作品に表れている作者のものの見方や感じ方を捉え、鑑賞文を作成する。	6	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検)
8 9 10 11	大正の小説	21 A、B	夏目漱石 「こころ」	・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。 ・「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈する。 ・作品の主題について粘り強く考察し、これまでの学習を生かして話し合う。	21	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の確認) 発表や意見交換の様子 (行動の確認)
12	期末考査	1			1	
12	古典と現代語訳	7 A、B	源氏物語	・それぞれの現代語訳の表現上の違いを整理する。 ・各現代語訳の表現上の特徴から、その背景にある訳者の意図をまとめる。 ・自分でも現代語訳をし、教科書掲載の現代語訳と比較する。	7	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の確認)
1 2	平成の小説	10 A、B	原田マハ 「無用の人」	・情景の豊かさや心情の機微を表す語句を理解し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈する。	10	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の確認)

計 64 時間 (55 分授業)

領域ごとの 授業時数合計	A「書くこと」 14時間	B「読むこと」 50時間
-----------------	-----------------	-----------------

7 課題・提出物等

- ・長期休業中の課題、休み明け課題考査の範囲は別途指示します。
- ・定期考査の範囲は教科書から主に出題します。

8 担当者からの一言

「文学国語」は、近代以降の文学的文章を中心に学習する科目です。文学的文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めると同時に、作者の世界観に深く共感したり、作品の世界を豊かに想像したりして、感性や情緒を育んでいきましょう。

教科(科目)	国語(古典探究)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	数研出版『高等学校古典探究』				
副教材等	数研出版『高等学校古典探求準拠ワーク』 いいずな書店『改訂版これでわかる明快古典文法』 いいずな書店『改訂版これでわかる明快古典文法必修ノート』 いいずな書店『知識から文脈へ理解を深める精説漢文』 いいずな書店『知識から文脈へ理解を深める精説漢文完成ノート』 いいずな書店『わかる・読める・解けるKey&Point 古文単語330 三訂版』 いいずな書店『四訂版 プロGRESS【読解・構図・鑑賞】古典総演習・標準編』 ラーンズ『進研WINSTEP Core 国語2 文学的文章編』 啓隆社『カラー 小倉百人一首 二訂版』 数研出版『プレミアムカラー国語便覧』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。 ②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。 ③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。 ②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。 ③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。 ④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。 ⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

次の項目を指導の重点とする。 ・ 古典を読むことを通して、作者の主張や人物、情景、心情などを的確にとらえ、表現を味わうこと。 ・ 古典作品を鑑賞することで、我が国の言語文化に対する理解を深め、必要とされる知識や教養を身につけること。 ・ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自らの表現力に深みを持たせるようにすること。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めようとしている。	・ 「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	・ 言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

5 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査、小テストの分析 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査、小テストの分析 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。
	<p>内容のまとめりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。</p> <p>成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：4：2となります。</p>		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	古文：説話	4 A	大江山 (『十訓抄』)	・ 古典を読むために必要な文語のきまりのきまりについて理解する。 ・ 「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現について評価する。 ・ 説話が示す教訓性について考察し、学習課題に沿って話し合いに参加する。	4	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
	漢文：故事	2 A	漱石枕流 (『歴代名画記』)	・ 時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解する。 ・ 「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的、多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりする。 ・ 朗読から受ける印象の違いを話し合う活動において、積極的に話し合いに参加する。	2	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
5	中間考査	1			1	
5	古文：日記文学	6 A	「東路の道の果て」(『更級日記』)	・ 古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深める。 ・ 「読むこと」において、文章の種類を踏まえ、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える。 ・ 作者の心情を的確に捉え、分かりやすく説明する。	6	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等

6	漢文：思想	6 A	「論語」 (長沮・桀溺) 「孟子」 (性善)	・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、理解を深める。 ・「読むこと」において、古典作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりする。 ・諸子百家の文章から現代に通じる考え方を粘り強く見だし、文章に表す。	6	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
7	期末考査	1			1	
7	古文：随筆	5 A	ゆく河の流れ (『方丈記』)	・古典作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現について理解を深める。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える。 ・作品内容を解釈し、学習課題に沿って作者の考えを説明する。	5	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
8 9	漢文：史伝	9 A	鴻門之会 「剣舞」 「頭髮上指す」 (『史記』)	・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深める。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典の特有の表現に注意して内容を的確に捉える。 ・本文から読み取った項羽や劉邦の人物像を踏まえて、作中の行動の経緯・理由を粘り強く考察し、主体性を持って話し合いに参加する。	9	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
10	中間考査	1			1	
10 11	古文：物語	10 A	「小柴垣のもと」 (源氏物語)	・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深める。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える。 ・登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明する。	10	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
12	期末考査	1			1	
12	古文：随筆	4	九月二十日のころ (徒然草)	・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深める。 ・「読むこと」において、古典作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりする。 ・主体性をもって作品内容を解釈し、学習課題に沿って話し合いに参加する。	4	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等

1	古文：物語	6 A	「南院の 競射」 (大鏡)	<ul style="list-style-type: none"> ・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深める。 ・「読むこと」において、古典作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりする。 ・登場人物の心情と、そこから浮かび上がる人物像について粘り強く考察し、今までの学習を生かして話し合いに参加する。 	6	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
1	漢文：史伝	3 A	四面楚歌 『史記』	<ul style="list-style-type: none"> ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深める。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典の特有の表現に注意して内容を的確に捉える。 ・本文から読み取った項羽や劉邦の人物像を踏まえて、作中の行動の経緯・理由を粘り強く考察し、主体性を持って話し合いに参加する。 	3	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
2	漢文：思想	4 A	「韓非子」	<ul style="list-style-type: none"> ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、理解を深める。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりする。 ・諸子百家の文章から現代に通じる考え方を粘り強く見だし、積極的に文章に表す。 	4	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
2	学年末考査	1			1	

計64時間 (55分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A 「読むこと」 64 時間
-----------------	-------------------

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

7 課題・提出物等

- ・朝学習では『明快古典文法必修ノート』『精説漢文完成ノート』の小テストに取り組み、当日提出することとなります。
- ・週末課題は『Core 国語2 文学的文章編』『プロGRESS 古典総演習・標準編』を中心に取り組み、週明けに提出することとなります。
- ・長期休業中の課題、休み明け課題考査の範囲は別途指示します。
- ・定期考査の範囲は教科書、文法書、週末課題から主に出题します。

8 担当者からの一言

「古典探究」は、古典を中心に学習する科目です。古典などを読むことを通して、我が国の言語文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めると同時に、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響についても理解を深めていきましょう。そして、先人たちのものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分の中に脈打っているものを再発見していきましょう。

教科(科目)	国語(論理国語)	単位数	2単位	学年(コース)	3学年
使用教科書	数研出版『論理国語』				
副教材等	数研出版『プレミアムカラー 国語便覧』、桐原書店『大学入試国語対策知識問題演習』、尚文出版『速読&読解チャレンジ10』、ラーズ『進研WINSTEPPlus』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

- ⑦ 語句の意味、用法を理解し、語彙を豊かにすることで、論理的な文章の話題や筆者の主張、論拠を的確にとらえられるようになること。
- ⑧ 人間、社会、自然など専門性の高いテーマの背景を知ること、筆者と問題意識を共有し、自分なりの問題意識や考えを持つようになること。
- ⑨ 自らの考えを論理的に組み立て整理し、深みと説得力のある文章で表現できるようになること。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査、小テストの分析 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査、小テストの分析 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査、小テストの分析 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。
	<p>内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。</p> <p>成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：4：2となります</p>		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	文化の認識	6 A、B	岡真理 「文化が違う」とは何を意味するのか？ 【ズームアップ】文化相対主義	・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。 ・筆者の主張を読み解き、学習課題に沿って要旨をまとめようとしている。	6	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) 課題プリント (行動の確認)
5	社会の枠組み	3 A、B	丸山真男 『「である」ことと『する』こと』 【ズームアップ】「近代」とは何か？	・文章の構成や展開のしかたについて理解を深めている。 ・各段落の要旨をまとめ、「民主主義」についての筆者の考えを的確に捉えている。 ・文章の内容に適した具体例を粘り強く検討し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	3	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) 課題プリント 発表の様子 (行動の確認)
5	中間考査					
5 6	社会の枠組み	6 A、B	丸山真男 『「である」ことと『する』こと』 【ズームアップ】「近代」とは何か？	・文章の構成や展開のしかたについて理解を深めている。 ・各段落の要旨をまとめ、「民主主義」についての筆者の考えを的確に捉えている。 ・文章の内容に適した具体例を粘り強く検討し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	6	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の確認) 課題プリント 発表の様子 (行動の確認)

6	社会の枠組み	7 A、B	小浜逸郎 「人はなぜ働かなくてはならないのか」	<ul style="list-style-type: none"> 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 筆者の主張に対する自分の考えを根拠とともに論述している。 文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。 	7	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の確認) 課題プリント (行動の確認)
7	期末考査					
7 8	情報と知性	7 A、B	松田雄馬 「人工知能はなぜ椅子に座れないのか」 【ズームアップ】AI と正しく向き合う	<ul style="list-style-type: none"> 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 抽象的な表現で述べられた筆者の主張を具体的に説明している。 文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。 	7	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の確認) 発表や意見交換の様子 (行動の確認)
9	環境と人間	7 A、B	國分功一郎 「意志と選択」 【ズームアップ】近代科学の功罪	<ul style="list-style-type: none"> 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。 「意志」と「選択」についての筆者の問題提起と主張を的確に捉えている。 意志と選択を混同している例を具体的に考えようとしている。 	7	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の確認) 課題プリント (行動の確認)
10	中間考査					
10	環境と人間	8 B	河野哲也 「環境と心の問題」	<ul style="list-style-type: none"> 機械論的自然観、原子論的な還元主義、物心二元論といった哲学的概念の理解を深めている。 「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。 文章の内容に関することを調べ、考えたことを話し合おうとしている。 	8	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の確認) 発表や意見交換の様子 (行動の確認)
11	思索の深化	8 A、B	鷲田清一 「顔の所有」 【ズームアップ】「精神」と「身体」は分離できない	<ul style="list-style-type: none"> 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。 論の展開を踏まえ、逆説的な表現の内容を説明したり、筆者の主張の根拠をまとめたりしている。 文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。 	8	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) 課題プリント (行動の確認)
12	期末考査					

12 1 2	総合演習	1 2 A、B	共通テスト・ 2次試験対 策演習	<ul style="list-style-type: none"> 文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。 複数の文章から読み取った情報を粘り強く吟味し、関連付け、解釈しようとしている。 	1 2	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) 課題プリント (行動の確認)
--------------	------	------------	------------------------	---	-----	---

計64時間 (55分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計 (国語の各科目のみ記載、他の科目は削除してください。)

領域ごとの 授業時数合計	A「話すこと・聞くこと」 8時間	B「書くこと」 8時間	C「読むこと」 48時間
-----------------	---------------------	----------------	-----------------

7 課題・提出物等

- 週課題は『進研WINSTEPPlus』を中心に取り組み、提出することとなります。
- 長期休業中の課題、休み明けの課題考査の範囲は別途指示します。
- 定期考査の範囲は、教科書、『進研WINSTEPPlus』から主に出题します。

8 担当者からの一言

「論理国語」は、実社会において必要となる、論理的に書いたり批判的に読んだりする資質・能力を育成する科目です。論理的な文章の読解を通して、物事を筋道立てて説明する力を身に付けていきましょう。「論理国語」で身に付けた力は皆さんの生涯に役立ちます。授業を通して、社会に活かせる力をつけていきましょう。

教科(科目)	国語(文学国語)	単位数	2単位	学年(コース)	3学年(普通科文系)
使用教科書	数研出版『文学国語』				
副教材等	数研出版『プレミアムカラー 国語便覧』、桐原書店『大学入試国語対策知識問題演習』、尚文出版『品詞別 頻出漢字マスター3000』、ラーンズ『進研WINSTEPP1us』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

(2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

次の項目を指導の重点とする。

- ・ 文学的な文章を読むことを通して、人物、情景、心情などを的確にとらえ、表現を味わうこと。
- ・ 我が国の近代以降の文学作品を鑑賞することで、我が国の言語文化に対する理解を深め、必要とされる知識や教養を身につけること。
- ・ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自らも表現できるようにすること。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査、小テストの分析 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査、小テストの分析 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。
	<p>内容のまとめりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。 成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：4：2となります</p>		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5	平成の小 説	10 A、B	山田詠美 「ひよこの 眼」	<ul style="list-style-type: none"> 一人称回想形式の語りである点に留意して、はっきりと語られていない事柄においても理解できている。 読み解くべき謎の解明を目指して読んでいる。 語り手がこの物語を語っている理由について各自の考えを深めようとしている。 	10	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) 課題プリント (行動の確認)
6	昭和中期 の小説	14 A、B	安部公房 「赤い繭」	<ul style="list-style-type: none"> 非現実的な作品設定に惑わされることなく、作者の発想の豊かさを感じ取りながら解釈できている。 一つ一つの表現に隠された寓意を丹念に読み取ることができている。 作品全体にこめられた批判精神やメッセージについて考えようとしている。 	14	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) 課題プリント 発表の様子 (行動の確認)
	期末考査					
7 8	大正の小 説	8 A、B	梶井基次郎 「檸檬」	<ul style="list-style-type: none"> 「私」の思考や行動に見られる特徴を読み取り、心情を理解することができる。 「私」の心の内の「不可思議さ」と自らの心の「不可思議さ」を比較しながら理解を深めようとしている。 「私」にとっての「美しいもの」、自分にとっての「美しいもの」とは何かについて追究しようとしている。 	8	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の確認) 発表や意見交換の様子 (行動の確認)

9 10 11	明治の小 説	20 A、B	森鷗外 「舞姫」	・擬古文体で書かれた作品世界を時代背景も含めて理解しようと努めている。 ・語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。 ・作品の主題を粘り強く考察し、これまでの学習を生かして自らの考えを深めようとしている。	20	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の確認) レポート (記述の点検)
	期末考査					
12 1 2 3	海外の小 説	12 A、B	魯迅「藤野先生」	・登場人物の見方、考え方を理解した上で内容を理解している。 ・当時の社会状況を把握し、典拠も確認しながら翻訳小説の鑑賞ができています。	12	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の確認) レポート (記述の点検)

計64時間

※ 領域ごとの授業時数合計 (国語の各科目のみ記載、他の科目は削除してください。)

領域ごとの 授業時数合計	A「話すこと・聞くこと」 10時間	B「書くこと」 10時間	C「読むこと」 44時間
-----------------	----------------------	-----------------	-----------------

7 課題・提出物等

- ・朝学習では「文学国語」と併せて『大学入試国語対策知識問題演習』の小テストに取り組み、提出してもらいます。
- ・週末課題は「文学国語」と併せて『進研WINSTEPPlus』を中心に取り組み、週明けに提出してもらいます。
- ・長期休業中の課題、休み明け課題考査の範囲は別途指示します。
- ・定期考査の範囲は教科書、『進研WINSTEPPlus』、『大学入試国語対策知識問題演習』から主に出題します。

8 担当者からの一言

「文学国語」は、近代以降の文学的文章を中心に学習する科目です。文学的文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めると同時に、作者の世界観に深く共感したり豊かに想像したりして、感性や情緒をさらに育んでいきましょう。そして、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあるということを理解し、語感を磨き、語彙をいっそう豊かにしていきましょう。

教科(科目)	国語(古典探究)	単位数	2単位	学年(コース)	3学年
使用教科書	数研出版『高等学校古典探究』				
副教材等	数研出版『読解をたいせつにする要点プラス 体系古典文法 改訂版』 数研出版『体系漢文』 いいずな書店『わかる・読める・解ける Key&Point 古文単語 330 三訂版』 ラーンズ『進研WINSUTE Plus』 数研出版『プレミアムカラー国語便覧』 桐原書店『大学入試国語対策知識問題演習』 尚文出版『速読&速解チャレンジ古典10』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。 ②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。 ③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。 ②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。 ③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。 ④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。 ⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

次の項目を指導の重点とする。 ・ 古典を読むことを通して、筆者の主張や人物、情景、心情などを的確にとらえ、表現を味わうこと。 ・ 古典作品を鑑賞することで、我が国の言語文化に対する理解を深め、必要とされる知識や教養を身につけること。 ・ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自らの表現力に深みを持たせるようにすること。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	・ 「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに創造したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	・ 言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査、小テストの分析 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査、小テストの分析 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。
	<p>内容のまとめりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。</p> <p>成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：4：2となります。</p>		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	古文：随筆	4 A	二月つごもりごろに(枕草子)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・ 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・ 積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。 	4	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
	漢文：逸話	2 A	知音(呂氏春秋)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・ 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・ 伯牙が琴を弾くことをやめた理由について進んで考察し、学習課題に沿って本文を解釈しようとしている。いる。 	2	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
5	漢文：逸話	3 A	梁上君子(後漢書)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・ 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・ 県の人々が陳寔のどのような人柄に感銘を受けたかについて進んで考察し、学習課題に沿って本文を解釈しようとしている。 	3	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
5	中間考査					

5 6	古文：日記文学	7 A	うつろひ たる菊 (蜻蛉 日記)	<ul style="list-style-type: none"> ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・積極的に作者の心情をとらえ、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。 	7	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
6 7	漢文：小説	9 A	人面桃花 (本事 詩)	<ul style="list-style-type: none"> ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典の特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・本文中の漢詩にあらわされた崔護の心情について進んで考察し、学習課題に沿って本文を解釈しようとしている。 	9	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
7	期末考査					
7 8 9	古文：日記 評論 説話	10 A	「同僚女 房評」 (紫式部 日記) 「清少納 言と紫式 部」(無 名草子) 「菅原道 真」(古 今著聞 集)	<ul style="list-style-type: none"> ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典の特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・積極的に登場人物の行動や語り手の心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。 	1 0	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
10	中間考査					
10	古文：物語	8 A	「紫の上 の死」 (源氏物 語)	<ul style="list-style-type: none"> ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりしている。 ・積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。 	8	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等

10 11	漢文：史伝	9 A	「廉頗 ・藺相 如」	・古典を読むために必要な文語のきまり や訓読のきまりについて理解を深めて いる。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏 まえて、古典特有の表現に注意して内容 を的確に捉えている。 ・廉頗と藺相如がお互いに対してどのよ うな態度をとったかについて進んで考 察し、学習課題に沿って本文を解釈しよ うとしている。	9	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ 小テスト・定期考査の成績 ワークシート 等
12	期末考査					
12 1 2	総合演習（古文・ 漢文）	1 2 A	共通テス ト・2次 試験対策 演習	・古典を読むために必要な文語のきまり や訓読のきまりについて理解を深めて いる。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏 まえて、古典の特有の表現に注意して内 容を的確に捉えている。 ・積極的に登場人物の行動や心情をとら え、学習課題に沿って自分の考えを説明 しようとしている。	12	授業の取り組み姿勢 テキストの音読 応答と発問 予習・復習と課題の提出 ノートの整理 意見発表の意欲と的確さ ワークシート等

計64時間（55分授業）

※ 領域ごとの授業時数合計（国語の各科目のみ記載、他の科目は削除してください。）

領域ごとの 授業時数合計	A「話すこと・聞くこと」 8時間	B「書くこと」 8時間	C「読むこと」 4 6時間
-----------------	---------------------	----------------	------------------

7 課題・提出物等

- ・週課題は『進研WINSUTEPP1us』を中心に取り組み、提出することとなります。
- ・長期休業中の課題、休み明け課題考査の範囲は別途指示します。
- ・定期考査の範囲は教科書、『進研WINSUTEPP1us』から主に出題します。

8 担当者からの一言

「古典探究」は、古典を中心に学習する科目です。古典を読むことを通して、我が国の言語文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めると同時に、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響についても理解を深めていきましょう。そして、先人たちのものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分の中に脈打っているものを再発見していきましょう。

教科(科目)	地理歴史（歴史総合）	単位数	2単位	学年	1学年(普通科)
使用教科書	山川出版社『歴史総合 近代から現代へ』				
副教材等	浜島書店『新詳 歴史総合』、山川出版社『歴史総合 近代から現代へ ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。そのために以下の習得を目標とする。</p> <p>(1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけようとしている。</p> <p>(2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論しようとする。</p> <p>(3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めようとしている。</p>

3 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> ・今日の日本および国際社会で発生する事象や諸問題と基本原理・基本理論とのかかわりについて理解できるようになること。 ・現代の日本社会・国際社会が直面する諸課題について、望ましい解決のあり方を積極的に考察。 ・特に経済分野については、統計資料やグラフ資料の分析力を高める。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知識：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解している。</p> <p>技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。</p>	<p>近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり議論したりする力を、身につけている。</p>	<p>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。</p>

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査の内容の確認 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査、授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認、提出物の状況 <p>などから、評価します。</p>
<p>内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。</p> <p>内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。</p> <p>成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：4：2となります。</p>			

6 学習計画

月	単元	学習内容	時間	評価方法
4	第1部 近代化と私たち 第1章 結びつく世界	・18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。 ・ヨーロッパで成立した主権国家と主権国家体制について、その特徴を理解し、ヨーロッパ人の海外進出について理解し、その影響について考察する。	3	【1学期】 定期考査 レポート (記述の確認)
5	第2章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	・産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基にアジア諸国と欧米諸国の関係を考察し、工業化と世界市場の形成を理解する。 ・18世紀前半のウィーン体制のもとで、政治体制はどのように変化したか理解する。 ・18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向などを基に、政治変革や国民国家の特徴、社会の変容などを考察し、立憲体制と国民国家の形成を理解する。 ・アメリカ合衆国の発展、ラテンアメリカ諸国の独立、西アジアの変容、南アジア・東南アジアの植民地化について理解する。	10	授業での取り組み、 提出物の状況 (行動の確認)
6	第3章 明治維新と日本の立憲体制	・明治維新や大日本帝国憲法の制定、対外関係、自由民権運動の展開と立憲体制の成立を基に明治新政府がどのような国家の在り方を目指して改革したか理解する。	7	
7	第4章 帝国主義の展開とアジア	・列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容を考察し、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。 ・産業革命によって日本の経済と社会は、どのようにかわったのか考察する。	8	【2学期】 定期考査 レポート (記述の確認)
8,9	第5章 8 第一次世界大戦と大衆社会	・第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソ連の成立とアメリカの台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、第一次世界大戦の性格と惨禍、社会主義革命の意味や影響、大戦後の国際協調体制の特徴などを考察する。 ・大衆の政治参加と女性の地位向上、政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動との関連を考察し、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。	12	授業での取り組み、 提出物の状況 (行動の確認)
10 11	第6章 6 経済危機と第二次世界大戦	・世界恐慌、ファシズムの伸長、日本の対外政策、第二次世界大戦の勃発などを基に、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを考察し、国際協調体制の動揺や第二次世界大戦勃発の背景に関する事柄を理解する。	8	
12	第7章 5 戦後の国際秩序と日本の改革	・第二次世界大戦後の、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。	4	【3学期】 定期考査 レポート (記述の確認)
1	第8章 10 冷戦と世界経済	・脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の経済政策の特徴、欧米やソ連の政策などを多面的・多角的に考察し、国際政治の変容を理解する。 ・西ヨーロッパや東南アジアの地域連携、計画経済とその波及、日本の高度経済成長などを基に、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを考察し、世界経済の拡大と経済成長下の日本社会を理解する。	8	授業での取り組み、 提出物の状況 (行動の確認)
2 3	第9章 5 グローバル化する世界	・石油危機、アジアの諸地域の経済発展、冷戦の終結などを基に市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割を考察し、市場経済の変容と課題を理解する。 ・民主化の進展、地域統合の拡大と変容、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展、地域紛争の拡散とその対応などを基に、冷戦後の国際政治を理解する。	4	

計 64 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

・毎学期各2回程度のレポート提出やワークの提出など。

8 担当者からの一言

・歴史的事象を暗記するのではなく、近現代の歴史の変化に関わる事象について学ぶことで、現在を生きる私たちがよりよい社会を実現するために何を考え、どう行動していくことが大切なのか主体的に学習に取り組んでみよう。
・授業に集中し、わからないところはどんどん質問しよう。
・興味のあるテーマについては、書籍などを読み、理解と考察を深めよう。

教科(科目)	地理歴史(地理総合)	単位数	2単位	学年	2学年(普通科)
使用教科書	二宮書店『地理総合 世界に学び地域へつなぐ』 二宮書店『詳解現代地図』				
副教材等	第一学習社『最新地理図表 GEO』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。 ②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。 ③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。 ②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。 ③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。 ④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。 ⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

(3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

3 指導の重点

- ・今日の日本および国際社会で発生する事象や諸問題と基本原理・基本理論とのかかわりについて理解できるようになること。
- ・現代の日本社会・国際社会が直面する諸課題について、望ましい解決のあり方を積極的に考察。
- ・特に経済分野については、統計資料やグラフ資料の分析力を高める。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知識：地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解している。</p> <p>技能：地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</p>	<p>地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を有している。</p>	<p>地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深めようとしている。</p>

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	評価の観点を踏まえ、 ・ 定期考査の内容の確認 などから、評価します。	評価の観点を踏まえ、 ・ 定期考査、授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認 などから、評価します。	評価の観点を踏まえ、 ・ 授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認、提出物の状況 などから、評価します。
<p>内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。 成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、 4：4：2となります。</p>			

6 学習計画

月	単元	学習内容	時間	評価方法
4	第1章 地図とGISの活用 1 球面上の世界 2 世界から見た日本の位置と領域	<ul style="list-style-type: none"> 地球上の位置情報の基礎として、球体としての地球、緯度・経度の基本的なしくみ、地球上での位置の示し方を理解する。 経度の違いから時差の概念を捉え、日常生活における時差計算の技能を身につけ、球面として成り立つ世界認識をもつ。 図法によって異なる世界地図の特色を捉え、スケール、視点、図法などを変化させながら、世界における日本の位置を理解する。 グローバルな立場から日本の領域を理解するために、国境や国家の領域の世界的な基準を捉えながら、日本が抱える周辺諸国間との領有権の問題や海洋資源の利用について考える。 	4	<p>【1学期】 ab 定期考査 abc レポート (記述の確認) c 授業での取り組み、提出物の状況 (行動の確認)</p> <p>【2学期】 ab 定期考査 abc レポート (記述の確認) c 授業での取り組み、提出物の状況 (行動の確認)</p>
5	3 国内や国家間の結びつき 4 暮らしのなかの地図とGIS	<ul style="list-style-type: none"> グローバル化が進む世界において、国家間の協調や不均衡を理解するために、世界の実態を捉えるための道具としての統計地図やグラフのつくり方を理解する。 交通・通信、貿易・物流、観光の視点から、人やもの、情報、資本・サービスの移動のようすについて、統計地図やグラフなどの資料から読み取る技能を身につける。 グローバルな視点から持続可能な社会の形成のために、資料を根拠として示しながら課題解決のための方策を多面的・多角的に考える。 身近な地図を集め、それらの地図の特徴を捉え、地図情報の有用性を理解する。 地図情報を活用する方法として、紙地図と電子地図としてのGISがあることを理解し、地理院地図や地形図を通して認識する。 GISが日常生活にも利用されている実例を捉え、大量の地理情報を処理できるGISの特徴や利用方法、そのしくみについて理解する。 GISで作成した地図を重ね合わせ、地域の特徴を分析する方法と技能を身につける。 	6	<p>【3学期】 ab 定期考査 abc レポート (記述の確認) c 授業での取り組み、提出物の状況 (行動の確認)</p>
6	第2章地理的環境の特色 1 地形と生活文化	<ul style="list-style-type: none"> 世界の大地形の広がりやプレートテクトニクスにもとづくプレート境界と関連し、変動帯に位置する場所では山岳地域や高原を形成し、地震あるいは場所によって火山を伴うことを理解する。 河川、海岸などの外的営力による地形の形成とその広がり、およびそれらの地形と対応した人々の生活と地形を取り巻く環境の変化について、写真や地形図などの資料を通して考える。 	6	
7	2 気候と生活文化	<ul style="list-style-type: none"> 世界的な視野から大気や海流が循環するしくみを捉え、地球上ではそれらの影響を反映した気候の地域性が生まれていることを理解する。 降水量と気温の特徴をふまえながら世界の気候をケッペンの気候区分から捉え、植生や農業などの人々の生活文化に多様な影響を与えていることを理解する。 熱帯、乾燥帯、温帯、亜寒帯、寒帯の各気候は人々の生活文化とどのような関わりをもつのか、どのような生活の工夫があるのか、写真や雨温図などの資料から考える。 	6	
8	3 産業と生活文化	<ul style="list-style-type: none"> 世界の生活文化が各地域の環境に基づいて発達する産業を基盤に成り立つ現状を 		

9	4 宗教・言語と生活文化	<p>捉え、世界スケールにおける第1次産業、第2次産業、第3次産業の地域的な特徴をグローバル化の観点で理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業の発達と生活文化がどのようにかわるのか、産業はどのように変化しているのか、主題図などの資料を通じて理解を深める。 ・世界でみられる生活文化の多様性について、宗教、言語の分布や人々との関わりを主題図や写真などの資料を通じて理解するとともに分布を示す要因について理解する。 ・世界の少数民族、移民、難民の問題を捉えながら、マイノリティなどをふまえた多様な人々に配慮し、自他の文化を尊重する社会の実現を考える。 	8
10	第3章 世界各地の生活文化	<ul style="list-style-type: none"> ・社会経済システムの変化に焦点を当て、東アジアの中国と韓国を例に両国の特徴を主題図やグラフなどの資料を通じて捉える。 	14
11	1 経済発展と生活文化の変化～東アジア 2 宗教の多様性と生活文化～ASEAN 諸国	<ul style="list-style-type: none"> ・特に世界や日本、中国、韓国の3か国とのつながりから両国の経済発展の発達過程について理解し、経済発展の結果として起きている様々な問題について生活文化と対応させながら考える。 ・多民族社会と地域統合に焦点を当て、様々な言語や宗教をもつ東南アジア諸国の人々の生活文化にはどのような特色がみられるのか、主題図や写真などの資料をもとに理解する。 ・特に仏教、イスラーム、キリスト教の各文化圏における生活文化の多様性や多言語・多民族社会の様子、また豊かな資源を背景に経済発展を遂げるASEAN諸国の現状と課題について考える。 	
	3 水の恵みと生活文化～南アジア	<ul style="list-style-type: none"> ・水資源に焦点を当て、地形、気候などの自然環境を捉えながら、水資源と宗教、農業、文化や産業の成立の関わりを主題図やグラフなどの資料を通じて理解する。 	
	4 イスラーム社会の多様性と生活文化～イスラーム圏	<ul style="list-style-type: none"> ・経済成長を背景とした水資源の課題を周辺国とのつながりから考える ・イスラームに焦点を当て、気候条件、宗派の違い、聖地メッカからの距離、エネルギー資源の有無などを基盤とした経済水準の違いについて理解する。 ・ムスリムの生活文化に差異をもたらしている要因を主題図や写真などの資料をもとに考える。 ・社会問題の例として、パレスチナやエルサレムの問題、少数民族の問題を民族・言語の分布から理解する。 	
	5 多様な気候と生活文化～アフリカ	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境と生活文化の対応とその多様性に焦点を当て、モノカルチャー経済の構造は残りながらも、多様性に富む自然環境や食文化をもち、資源開発などを背景とした近年の経済成長について主題図や写真などの資料を通じて理解する。 ・経済成長や開発などを背景としたアフリカの課題を自然環境と生活文化の関わりから考える。 	
	6 経済統合による生活文化の変化～EUと周辺諸国	<ul style="list-style-type: none"> ・産業の発達と地域統合に焦点を当て、ヨーロッパを例に多様性と一体化をもつ産業の特徴やその歴史的背景を捉え、気候、言語・宗教の分布などを関連させながら主題図やグラフなどの資料をもとに理解する。 ・地域統合の長所とともにイギリスのEU離脱や加盟各国の移民排斥の動きの強まりなどの課題を整理する。 ・地域間格差が生じている現状を捉え、これからのヨーロッパのよりよい社会を目指して課題について考える。 	
	7 寒冷な気候と生活文化～ロシア	<ul style="list-style-type: none"> ・寒冷な自然環境に焦点を当て、ロシアを例に主題図やグラフなどの資料をもとに気候に制約を受ける農業など、自然環境と人々の生活との対応を理解する。 ・豊富な鉱物資源を背景にしたヨーロッパ諸国や日本など東アジアとの結びつきや近年の開発による自然環境への影響を考える。 ・社会経済システムのグローバル化に焦点を当て、主題図や写真などの資料を通じて、民族構成から多様な社会と歴史的背景を理解する。 	
	8 グローバル化による生活文化の変化～アメリカ・カナダ	<ul style="list-style-type: none"> ・社会経済システムのグローバル化に焦点を当て、主題図や写真などの資料を通じて、民族構成から多様な社会と歴史的背景を理解する。 ・企業的農業の発達とアメリカ合衆国の外食産業やICT産業などの多国籍企業が世界の経済や生活文化に影響を与えている現状を捉える。 	
	9 土地の開発による生活文化の形成～ラテンアメリカ	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ合衆国の貿易の問題についてグローバルな視点で考える。 ・開発に焦点を当て、ラテンアメリカで様々な人々が生活している理由やプランテーションをはじめ農業や鉱業などの産業の多様性がみられる理由について、主題図 	

		やグラフなどの資料をもとに多様な自然環境や植民地時代の開発の影響、そして近年の社会経済システムの変化から捉える。	
10	植民と移民による生活文化の形成～オセアニア	・鉱工業が発展していく中で生じている貧富の差の現状を捉え、その解決に向けた取り組みを考える。	
11	第4章 地球的課題と国際協力	・開発に焦点を当て、オーストラリアとニュージーランドの自然環境の違いを比較し、主題図や写真などの資料から植民の歴史とそこに展開する産業を捉え、両国の生活文化の違いを理解する。	4
	1 地球環境問題	・オーストラリアとニュージーランドの生活文化の歴史的背景や現状と将来について、周辺国とのつながりや多文化社会と関連づけて考える。	
	2 資源・エネルギー問題	・持続可能な地球社会を考えるうえで、地球規模で起きている環境問題は、一国だけで対応できるものではないこと、多面的・多角的に考えていくことが必要であること、自らとかわる問題であることをSDGsをふまえて認識する。	
12	3 人口・食料問題	・深刻な地球環境問題となっている大気汚染、森林減少、砂漠化、気候変動について事例をあげて捉え、それぞれの影響と将来の予測から解決の取り組みについて考える。	6
	4 居住・都市問題	・地球規模で起こる資源の問題について主題図などの資料をもとに考え、偏在して分布することで保有国と非保有国の間に格差があることを認識する。	
1	第5章 生活圏の諸課題	・エネルギー資源の変化を捉えながら資源の大量消費によって枯渇の恐れがあることを認識し、これらの解決のための取り組みをSDGsと関連づけて考える。	6
	1 日本の自然環境と防災	・人口が急増している世界の現状を捉えるとともに、人口ピラミッドや相関図などの資料から人口問題の構造と地域差を捉え、人口問題の背景や問題点を整理する。	
	2 生活圏の諸課題と	・持続可能な社会をつくるために、飢餓とその要因である人口問題、食料問題について、主題図やグラフなどの資料を集め、グローバル、ローカルのそれぞれ異なる視点から根拠をもとにSDGsと関連づけ対応策を構想する。	4
	3 地域調査	・世界では都市に人口が集まる現象がみられることを主題図やグラフから読み取り、人口が集まる都市内部の構造を景観をふまえて理解する。	
		・途上国の大都市を中心に人口集中に伴う問題が生じていることを捉え、問題の要因を理解しながら、都市の問題の改善を目指した都市計画を取り上げ、SDGsと関連づけ都市問題の解決策を考える。	
		・日本列島の地形と気候の特徴を主題図、グラフ、写真などの資料をもとに、多様性や自然の恩恵があることを認識しながら、自然災害を与える要素があることを理解する。	
		・日本各地では毎年のように様々な自然災害が起きていることを理解するため、風水害、火山、地震・津波、都市型の災害の具体的な事例について、新旧の地形図、ハザードマップ、気象情報、電子地図などを利用する技能とともに捉える。	
		・自然災害はどのような自然環境と関係しているのか、それに対する備えはどうか、それに対する備えはどうか、居住地域での防災・減災意識の向上につなげる。	
		・日本が抱える地域的な課題について、身近な地域を例に取り上げ、人口の少子高齢化、過疎化について景観観察や聞き取りを通じた調査の技能を身につける。	
		・現地調査と統計資料によって得られた結果を主題図などにまとめ、他地域と比較して考察する技能を身につける。	
		・調査結果をもとに、地域の活性化に向けたまちづくりのプランを発表する。	

計64時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

・毎学期各2回程度のレポート提出やワークの提出など。

8 担当者からの一言

・地理は世界の地形や都市・産業などをただ暗記すればよい、という科目ではありません。それらの学習を通して、地球上の様々な地域で暮らす人々の生活や、そこに存在する多様な価値観を理解し、世界の諸問題を見つめ、解決していく力を養っていく科目です。柏高生である皆さんの志がより高きものとなり、本校の校歌の一節にある「世は我が起つを待てるなり」に応えようとする皆さんの大いなる活躍を願って、授業を行います。

・授業に集中し、わからないところはどんどん質問しよう。

・興味のあるテーマについては、書籍などを読み、理解と考察を深めよう。

令和7年度 シラバス（地理歴史） 学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科（科目）	地理歴史 (日本史探究)	単位数	2単位	学年	2学年
教科書	山川出版社『詳説日本史』				
副教材	第一学習社『最新日本史図表』 東京法令出版『ウィニングコンパス 日本史の整理と演習』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラムポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。 ②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。 ③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。 ②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。 ③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。 ④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。 ⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。

2 学習目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

3 指導の重点

- ①各時代の特色や変遷を考察することによって、歴史的思考力を養うとともに、国際社会に主体的に生きる資質を養う。
- ②歴史への関心を高め、歴史的な見方や考え方を身につける。
- ③文字史料や図版などの資料に触れることで、日本全体の歴史の流れと近隣諸国との関わりや地域社会の歴史への理解を深めるとともに、日本の文化や文化財保護の重要性を理解する。
- ④日々の学習で基本的な歴史的用語を理解・習得し、歴史の変遷の枠組みを把握できる力を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査、授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認、提出物の状況 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。 成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：4：2となります。		

6 学習計画

月	単元	学習内容	時間	評価の観点と評価方法
4	第I部 第1章 日本文化のあけぼの	<ul style="list-style-type: none"> ・人類文化の発生を考え、日本の旧石器・縄文文化の社会を理解する。 ・打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、竪穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気づく。 ・大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて、弥生文化の形成を考察する。 ・集落・墓の変容から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連づけて考察する。 ・原始社会の特色の考察を踏まえ、時代を通観する問いを表現する。 	5	【1学期】 定期考査 レポート (記述の確認) 授業での 取り組み、 提出物の状況 (行動の確認)
5	第2章 古墳とヤマト政権	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の首長の出現から統一国家への過程を古墳の変容からとらえる。 ・ヤマト政権による国家の形成過程を東アジアとの関係から考察する。 ・古墳時代後期から終末期の変容とヤマト政権の政治制度を理解する。 ・ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取から、飛鳥時代を考察する。 	5	
	第3章 律令国家の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。 ・律令にもとづく国内統治体制について理解する。 ・律令体制の完成する奈良時代を多角的・多面的にとらえて考察する。 ・平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する。 ・律令国家の成立期に当たる白鳳文化の形成過程について考察する。 ・天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。 ・平安前期の東北経営や政治改革、地方統治から律令制の変質を考察する 		
	第4章 貴族政治の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジアとの関係を踏まえて、弘仁・貞観文化を理解する。 ・撰関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。 ・日本と東アジアの関係が民間の貿易や交流が中心だったことを捉える ・大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。 ・撰関政治の在り方と文化の展開の関係を考察する。 		
6	第II部 第5章 院政と武士の躍進	<ul style="list-style-type: none"> ・地方統治への対応が公領支配の変質、荘園拡大に至る経過を考察する ・地方の反乱やその鎮圧など、源氏を例に武士の成長過程を考察する。 ・土地支配の形態から、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ・外戚関係や人材登用など、後三条天皇が撰関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。 ・政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。 ・古代から中世への変化を考察し、時代を通観する問いを表現する。 	7	
7	第6章 武家政権の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的武家政権となる過程を理解する。 ・鎌倉幕府の成立時期について、諸説の根拠を明確にして考察する。 ・承久の乱後の公武関係の変化と、執権政治に至る過程を理解する。 ・土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握した過程を考察する。 ・モンゴル襲来による影響が、幕府衰退につながることを理解する。 ・非御家人への権限拡大など幕府勢力が西国に浸透したことを考察する ・庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。 	6	

	第7章 武家社会の成長	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な公家文化で、有職故実・古典研究が進展した背景を考察する ・南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定を、各地の動向から考察する ・琉球・蝦夷ヶ島を含む東アジアとの交流が日本に与えた影響を理解する ・庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。 		
8, 9	第Ⅲ部 第8章 近世の幕開け	<ul style="list-style-type: none"> ・諸産業の発達による庶民の台頭など多様な展開を幅広く理解する。 ・武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化および、大陸文化と伝統文化の関わりについて理解する。 ・庶民文化の萌芽や、文化の地方伝播、普及を理解する。 ・応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察する。 ・ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 ・信長・秀吉の統一事業から秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。 ・新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。 ・中世から近世への変化を考察し、時代を通観する問いを表現する。 	10	【2学期】 定期考査 レポート (記述の確認) 授業での 取り組み、 提出物の状況 (行動の確認)
10	第9章 幕藩体制の成立と展開	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。 ・江戸幕府の鎖国政策を、単なる対外貿易の遮断ではないことを理解し、鎖国後の貿易関係の影響と歴史的意義について考察する。 ・経済・社会を兵農分離や村落・都市支配から多面的・多角的に考える ・被支配身分の特質や周縁部分に生きる人々の社会的役割を理解する。 ・17世紀後半から18世紀前半までの平和と秩序の確立を考察する。 ・諸藩における政治の安定化や刷新について、その特色を理解する。 ・農業・商工業の発展を、諸産業相互の関係や社会的役割から考察する ・全国市場や商品流通の拡大から、特産物が生まれたことを理解する。 ・経済の発展と町人文化の形成を踏まえ、幕藩体制の安定を理解する。 ・儒学の特色を理解し、その発達が他の学問に与えた影響を考察する。 	6	
11	第10章 幕藩体制の動揺	<ul style="list-style-type: none"> ・幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩がおこなった諸改革を考察する。 ・百姓一揆や、都市の打ちこわしの実態について理解する。 ・洋学や国学、文学・芸能・美術を、幕藩体制の動揺とともに考察する ・武士の教育に加え、民間の私塾や寺子屋が開かれた背景を理解する。 ・欧米諸国のアジア進出や幕政の対処から幕府衰退の過程を理解する。 ・近代化の基盤の形成について、産業経済面や軍事面などに着目して、雄藩の浮上という地方からの視点から考察する。 ・化政文化を諸分野の新たな展開と地方との交流に着目して考察する。 	7	
	第Ⅳ部近代・現代 第11章 近世から近代へ	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、日本の開国を社会・経済面での変化と関わらせて考察する。 ・幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の一扫に至るまでの経過を理解する。 		
	第12章 近代国家の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・諸改革や富国強兵・殖産興業政策に着目し、国家形成過程を考察する 		
12				

3	第17章 高度経済成長の時代 第18章 激動する世界と日本	<ul style="list-style-type: none"> ・日本占領の終結と、その後の日米関係を各国の立場から考察する。 ・独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を考察する ・冷戦構造の中で日本が国際社会に復帰したことについて、国際連合への加盟、アメリカ・中国・韓国との関係に着目して考察する。 ・朝鮮特需による経済復興とその後的高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察する。 ・消費革命による社会の変貌と経済成長による社会問題を考察する。 ・ドル＝ショックなどから、主要先進国首脳会議開催の意義を考察する ・高度成長が終焉し、保守政権が動揺するなか、二度の石油危機を乗り越え、経済大国の道を歩んだ日本の状況を多面的・多角的に考察する ・冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえる ・科学技術・産業の発達によって派生する環境問題やエネルギー問題などの日本の課題とそれに対する日本の役割を認識する。 	5	
---	--	---	---	--

計64時間 (55分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A 第I部 原始・古代 13 時間	B 第II部 中世 15 時間	C 第III部 近世 16 時間	D 第IV部 近代・現代 20 時間
-----------------	----------------------	--------------------	---------------------	-----------------------

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

7 課題と提出物

・每学期各2回程度のレポート提出やワークの提出など。

8 担当者から一言

何よりも重要なのは、日々の授業への取り組みです。平常時は授業にきちんと取り組み、章や節の区切りに自分なりに整理をしておけば、考查前の学習が大変はかどります。各考查の学習を中心に記憶の軸を作っておくことで、3年次の受験対策もスムーズに取り組めるはずです。日本史の学びを通して、歴史的思考力を養いましょう。

教科(科目)	地理歴史（世界史探究）	単位数	2単位	学年	2学年（普通科）
使用準教科書	『詳説世界史』（山川出版社）、『詳説公共』（実教出版）				
副教材等	『グローバルワイド最新世界史図表』（第一学習社）、『フォーラム公共2024』（東京法令出版）				

1 学習目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

2 指導の重点

- ①世界史や現代社会の基礎的な知識・理解を基盤として、世界の今日的諸課題について主体的・多角的に思索できる能力の習得を目指す。
- ②グローバル化が進展する現代社会において、日本が国際社会の中でどのような責任を果たしていくべきかという点についても考察する。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識：歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる歴史を理解する。 技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めている。

4 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、定期考査の内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、定期考査、授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認、グループの発表内容などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認、提出物の状況、グループの発表の内容などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

5 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	第I部諸地域の歴史的特質の形成 1文明の成立と古代文明の特質 2中央ユーラシアと東アジア世界	20 abc	山川出版社『詳説世界史』 第一学習社『グローバルワイド最新世界史図表』	①オリエントの風土と歴史の関係を考察し表現する。 ②メソポタミア・エジプト文明の文化的遺産を理解する。 ③シリア・パレスチナ地方の民族興亡の背景を理解する。 ④エーゲ文明を比較しその違いを理解する。 ⑤アッシリア統一の背景を多面的多角的に考察し表現する。 ①インダス文明が栄えた場所の特徴を理解する。 ②アーリア人進入による変化を多面的多角的に考察し表現する ①殷と周の支配形態を比較し、共通点と相違点を理解する。 ②春秋時代と戦国時代を比較し、違いを見出す。 ③中南米先住民文明について理解する。	20	授業態度 課題の提出
5	3南アジアと東南アジア世界の展開			①騎馬遊牧民が強大な国家を築くことができた理由を多面的・多角的に考察し表現している。 ②遊牧国家興亡が大陸東西にもたらした変動を理解する。 ①新たに現れた「皇帝」の特質について理解する。 ②漢の支配体制の変遷を理解する。 ③統一国家出現の影響を多面的多角的に考察し表現する。 ①遊牧民族と魏晉南北朝の動乱の関係について理解する。 ②仏教や道教発展の要因や背景を考察し表現する。 ③中国の情勢が朝鮮や日本に与えた影響を理解する。 ①唐の制度文化が近隣諸国に与えた影響を理解する。 ②安史の乱前後の変化を多面的多角的に考察し表現する。 ①仏教やジャイナ教に共通する点について理解する。 ②マウリヤ朝のもとの仏教の発展について理解する。 ③クシャーナ朝と周辺を多面的多角的に考察し表現する。 ④グプタ朝における宗教や文化の展開を理解する。 ⑤ヒンドゥーが根付く背景を多面的多角的に考察し表現する。 ⑥東南アジアと南アジア・中国との関係を多面的・多角的に考察し表現する。		定期考査
6	4西アジアと地中海周辺の国家形成 5イスラム教の成立と欧世界の形成			①アケメネス朝が広大な領域に中央集権的支配を築ことができた背景や要因を理解している。 ②パルティアとササン朝の繁栄の背景や要因を理解する。 ①ポリスの特徴やそこでの人々の生活について理解する。 ②民主政発達の経緯、現代民主主義との相違点を理解する。 ③ギリシア文化の影響を多面的多角的に考察し表現する。 ④ローマ共和政の特徴を多面的多角的に考察し表現する。 ⑤ローマの内乱の発生から終息までの経緯を理解する。 ⑥「ローマの平和」の地中海世界への影響を理解する。 ⑦帝国の危機の要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑧キリスト教の成立の経緯を理解する。 ⑨キリスト教への対応を多面的多角的に考察し表現する。 ①イスラム教の成立とその伝播について理解する。 ②イスラム政権の特質を多面的多角的に考察し表現する ③イスラム文化の特徴を多面的・多角的に考察し表現する		

7				<ul style="list-style-type: none"> ①ヨーロッパ自然と人の移動との関係について理解する。 ②ビザンツ帝国を同時期の西欧と比較し理解する。 ③ローマ教会とフランクの関係を多面的多角的に考察表現する。 ④ノルマン人の西欧世界での歴史的役割を理解する。 ⑤西ヨーロッパに特有の封建社会の仕組みを理解する。 	24	定期考査
8 9	6イスラーム教の 伝播と西アジア の動向	24 abc		<ul style="list-style-type: none"> ①イスラーム化の中央アジアへの影響を理解する。 ②南アジアのイスラーム教の受容の経緯を理解する。 ③東南アジアのイスラーム化を考察し表現する。 ④アフリカのイスラーム化の要因を考察し表現する。 ⑤トルコ人の西アジアへの影響を考察し表現する。 	24	定期考査
	7ヨーロッパ世界 の変容と展開		<ul style="list-style-type: none"> ①中世西欧で教会が権威を持った背景を理解する。 ②十字軍の経緯を理解し、影響を多面的多角的に考察し表現する。 ③商業復活の理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ④中世の都市の自治について理解する。 ⑤ビザンツ衰退要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑥スラヴ人が各地域で自立していった経緯を理解する。 ⑦封建社会解体の背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑧教皇権の衰退と王権の伸張の関係について理解する。 ⑨各国の身分制議会の成立と王権伸張の関係を理解する。 ⑩百年戦争の英仏変容を多面的多角的に考察し表現する。 ⑪中世ヨーロッパ文化を多面的多角的に考察し表現する。 			
	8東アジア世界の 展開とモンゴル 帝国		<ul style="list-style-type: none"> ①10世紀前半政権交替の背景や諸国の共通点を理解する。 ②宋の対外関係の特徴を多面的多角的に考察し表現する。 ③宋における社会や経済の発展の様子を理解する。 ④宋代の文化の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤モンゴル帝国成立・支配・解体を考察し表現する。 ①明の国内統治の特徴を多面的多角的に考察し表現する。 ②明の朝貢関係の影響を多面的多角的に考察し表現する。 ③明後期の社会・経済と世界の商業の活発化の関係を多面的多角的に考察し表現する。 			
10	9大交易・大交流 の時代			<ul style="list-style-type: none"> ①西欧海洋進出の背景を多面的多角的に考察し表現する。 ②西欧の人々の進出のアジアへの影響や変化を理解する。 ③中南米がスペイン人に征服された要因を理解する。 		定期考査
	10アジアの諸帝 国の繁栄			<ul style="list-style-type: none"> ①オスマン帝国の勢力拡大の経緯を理解する。 ②帝国の統治の影響を多面的多角的に考察し表現する。 ③サファヴィー朝の支配がイラン社会に与えた影響を多面的多角的に考察し表現する。 ④ムガル帝国の基礎が築かれた経緯とヒンドゥー教徒とイスラーム教徒の関係を多面的多角的に考察し表現する。 ⑤清による他民族統治方法を理解する。 		

	<p>第Ⅱ部諸地域の交流・再編</p> <p>6イスラム教の伝播と西アジアの動向</p> <p>7ヨーロッパ世界の変容と展開</p>		<p>①イスラム化の中央アジアへの影響を理解する。</p> <p>②南アジアのイスラム教の受容の経緯を理解する。</p> <p>③東南アジアのイスラム化を考察し表現する。</p> <p>④アフリカのイスラム化の要因を考察し表現する。</p> <p>⑤トルコ人の西アジアへの影響を考察し表現する。</p> <p>①中世西欧で教会が権威を持った背景を理解する。</p> <p>②十字軍の経緯を理解し、影響を多面的多角的に考察し表現する。</p> <p>③商業復活の理由を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>④中世の都市の自治について理解する。</p> <p>⑤ビザンツ衰退要因を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>⑥スラヴ人が各地域で自立していった経緯を理解する。</p> <p>⑦封建社会解体の背景を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>⑧教皇権の衰退と王権の伸張の関係について理解する。</p> <p>⑨各国の身分制議会の成立と王権伸張の関係を理解する。</p> <p>⑩百年戦争の英仏変容を多面的多角的に考察し表現する。</p> <p>⑪中世ヨーロッパ文化を多面的多角的に考察し表現する。</p>	<p>授業態度 課題の提出</p>
11	<p>8東アジアの展開とモンゴル帝国</p> <p>9大交易・大交流の時代</p>		<p>①10世紀前半政権交替の背景や諸国の共通点を理解する。</p> <p>②宋の対外関係の特徴を多面的多角的に考察し表現する。</p> <p>③宋における社会や経済の発展の様子を理解する。</p> <p>④宋代の文化の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>⑤モンゴル帝国成立・支配・解体を考察し表現する。</p> <p>①明の国内統治の特徴を多面的多角的に考察し表現する。</p> <p>②明の朝貢関係の影響を多面的多角的に考察し表現する。</p> <p>③明後期の社会・経済と世界の商業の活発化の関係を多面的多角的に考察し表現する。</p> <p>①西欧海洋進出の背景を多面的多角的に考察し表現する。</p> <p>②西欧の人々の進出のアジアへの影響や変化を理解する。</p> <p>③中南米がスペイン人に征服された要因を理解する。</p> <p>①オスマン帝国の勢力拡大の経緯を理解する。</p> <p>②帝国の統治の影響を多面的多角的に考察し表現する。</p> <p>③サファヴィー朝の支配がイラン社会に与えた影響を多面的多角的に考察し表現する。</p> <p>④ムガル帝国の基礎が築かれた経緯とヒンドゥー教徒とイスラム教徒の関係を多面的多角的に考察し表現する。</p> <p>⑤清による他民族統治方法を理解する。</p> <p>⑥清と周辺国との関係を多面的多角的に考察し表現する。</p>	
12	<p>10アジアの諸帝国の繁栄</p> <p>11近代ヨーロッパ世界の動向</p>		<p>①ルネサンスの担い手や彼らの動機について理解する。</p> <p>②ルネサンスを支えた精神の特徴を理解し、それが後世に与えた影響を多面的多角的に考察し表現する。</p> <p>③教会改革と16世紀の宗教改革の違いを考察し表現する。</p> <p>④カルヴァンの特徴や英国教会の成立の意義を理解する。</p> <p>⑤カトリック改革が持つ意義を多面的多角的に考察し表現する。</p> <p>⑥主権国家体制の成立を多面的多角的に考察し表現する。</p>	

	1	<p>第Ⅲ部主地域の結合・変容</p> <p>12産業革命と環大西洋革命</p> <p>13イギリスの優位と欧米国民国家の形成</p> <p>14アジア諸地域の動揺</p> <p>15帝国主義とアジアの民族運動</p>	20 abc	<p>『詳述公共』(実教出版)</p> <p>『フォーラム公共2024』(東京法令出版)</p>	<p>⑦当時の「先進国」の体制と「後発国」の体制を多面的に考察し表現する。</p> <p>①海外貿易が近世欧経済の動向に与えた影響を理解する。</p> <p>②英産業革命の影響を多面的に考察し表現する。</p> <p>③「世界の一体化」と産業革命の関係について理解する。</p> <p>④北米大陸の欧諸国植民地の地理的分布と推移を理解する。</p> <p>⑤独立直後と今日を比較し、共通点と相違点を理解する。</p> <p>⑥革命中の仏国家体制の変遷や革命の影響を理解する。</p> <p>⑦人権宣言と独立宣言の共通点と相違点を理解する。</p> <p>⑧ナポレオンへの反応を多面的に考察し表現する。</p> <p>⑨中南米諸国の独立運動と欧との関係を理解する。</p> <p>①ウィーン会議とはどのような国際秩序かを理解する。</p> <p>②体制が動揺した要因を多面的に考察し表現する。</p> <p>③19世紀英政治変革の特徴を大陸諸国と比較し理解する。</p> <p>④英仏独の社会主義思想をそれぞれ比較し理解する。</p> <p>⑤1848年革命の影響を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>⑥クリミア戦争での露英仏のそれぞれの思惑を理解する。</p> <p>⑦19世紀後半の欧諸国の状況を理解する。</p> <p>⑧米の領土拡大の影響を多面的に考察し表現する。</p> <p>⑨南北戦争において北部が勝利した要因を理解する。</p> <p>⑩19世紀の欧米文化の特徴を多面的に考察し表現する。</p> <p>①オスマンの動揺要因を多面的に考察し表現する。</p> <p>②オスマンの列強への経済的な従属化の経緯を理解する。</p> <p>③オスマンの改革の成果と課題を理解する。</p> <p>④イギリスによるインドの直接統治の特徴を理解する。</p> <p>⑤東南アジアの植民地化の経緯を理解する。</p> <p>⑥清朝の危機の要因を多面的に考察し表現する。</p> <p>⑦欧米の進出と日本台頭の東アジアへの影響を考察表現する。</p> <p>①第2次産業革命と帝国主義について理解する。</p> <p>②列強の帝国主義政策を理解する。</p> <p>③日清日露戦争の影響を多面的に考察し表現する。</p> <p>④改革にもかかわらず清朝が倒れた原因を理解する。</p> <p>⑤インド民族運動の背景を多面的に考察し表現する。</p> <p>⑥東南アジア各地の民族運動に共通する傾向を理解する。</p> <p>⑦西アジア各地における民族運動の共通点を理解する。</p>	<p>定期考査</p> <p>20</p>
--	---	---	-----------	--	--	-----------------------

2	<p>16第一次世界大戦と世界の変容</p> <p>17第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成</p>		<p>①世界大戦の原因を多面的多角的に考察し表現する。</p> <p>②第一次大戦の影響を多面的多角的に考察し表現する。</p> <p>③ロシア革命の意義を多面的多角的に考察し表現する。</p> <p>④第一次大戦後の新たな国際秩序形成の経緯を理解する。</p> <p>⑤国際協調の1920年代前半と後半の変化を理解する。</p> <p>⑥1920年代のソ連・アメリカの国内情勢を理解する。</p> <p>⑦第一次大戦のアジアへの影響を多面多角的に考察し表現する。</p> <p>⑧日本拡大への中国・朝鮮の対応を考察し表現する。</p> <p>⑨南京国民政府による中国統一までの経緯を理解する。</p> <p>⑩世界恐慌の背景影響を多面的多角的に考察し表現する。</p> <p>⑪ニューディールブロック経済の特徴や影響を理解する。</p> <p>⑫ナチス＝ドイツが成立する経緯と政策内容を理解する。</p> <p>⑬日中戦争の背景を多面多角的に考察し表現する。</p> <p>⑭ヨーロッパの第二次世界大戦の開戦・展開を理解する。</p> <p>⑮第二次世界大戦の終戦までの経緯を理解する。</p> <p>⑯第二次大戦の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>⑰戦後国際秩序をいかなる構想で形成したかを理解する。</p> <p>⑱冷戦の世界への影響を理解する。</p>	<p>授業態度 課題の提出</p> <p>定期考査</p> <p>レポート</p>
3	<p>第IV部地球世界の課題</p> <p>18冷戦と第三世界の台頭</p> <p>19冷戦の終結と今日の世界</p>		<p>①米ソの同盟網の広がりや核開発競争の経緯を理解する。</p> <p>②西欧と日本の経済復興の背景をそれぞれ理解する。</p> <p>③「雪解け」の変化を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>④アフリカなど新興国の困難の内容と原因を理解する。</p> <p>⑤キューバ革命の背景を多面的多角的に考察し表現する。</p> <p>⑥米ソ代理戦争としてのベトナム戦争の性格を理解する。</p> <p>⑦1960年代の米ソの変容を多面的多角的に考察し表現する</p> <p>⑧開発独裁の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>⑨オイルショックの影響を多面多角的に考察し表現する。</p> <p>⑩1960～1970年代の中東における変容の経緯を理解する。</p> <p>⑪ソ連改革と東欧革命の関係を多面多角的に考察し表現する。</p>	

計 64時間 (55分授業)

6 課題・提出物等

- ①小单元ごとに小テストを実施し、成績に加味する。
- ②定期考査ごとにノート・プリント等の点検を実施する。
(各テーマの考察結果をしっかりとまとめておくこと。)
- ③長期休業中の課題は別途指示する。

7 担当者からの一言

世界は観る角度や知識の量などによって観え方が大きく変わります。観るための材料(知識)や角度(客観性)を増やし、客観的に観て・考えることを学びましょう。そして客観的に観ることの難しさや限界を知ったうえで、それを乗り越えて、他者とお互いの立場を尊重し合える関係を築くための準備をしましょう。

教科 (科目)	地理歴史 (地理探究)	単位数	3単位	学年	3学年文系 (普通科)
教科書	二宮書店『地理探究』 二宮書店『詳解現代地図』				
副教材	第一学習社『最新地理図表 GEO』 東京法令出版『ウイニングコンパス 地理の整理と演習』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

3 指導の重点

- ・今日の日本および国際社会で発生する事象や諸問題と基本原理・基本理論とのかかわりについて理解できるようになること。
- ・現代の日本社会・国際社会が直面する諸課題について、望ましい解決のあり方を積極的に考察。
- ・特に経済分野については、統計資料やグラフ資料の分析力を高める。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知識:地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解することができる。</p> <p>技能:地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。</p>	<p>地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身につけている。</p>	<p>地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深めようとしている。</p>

5 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査の内容の確認 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査、授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認、提出物の状況 <p>などから、評価します。</p>

<p>内容のまとめりに、各観点</p> <p>「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。</p> <p>内容のまとめりの評価規準は授業で説明します。</p> <p>成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：4：2となります。</p>

6 学習計画

月	単元	学習内容（指導内容）	時間	評価方法
4 ・5 ・6 ・7	第1編 現代世界の系統 ・地理的考察 第1章 自然環境 ①地形	<ul style="list-style-type: none"> ・地形に関わる諸事象の規則性、傾向性や、人間による利用などについて理解する。地形の分布や成因などに注目して、「平野の地形」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・気候と生態系に関わる諸事象の規則性、傾向性や、気候の地域性などについて理解する。大気循環のしくみや影響などに注目して、「気候の地域性」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。 	2	【1学期】 ab定期考査 abcレポート (記述の確認) c授業での取り組み、提出物の状況 (行動の確認)
	②気候と生態系	<ul style="list-style-type: none"> ・世界各地の自然と生活に関わる諸事象の規則性、傾向性や、気候区分の方法などについて理解する。気候の特徴と人々の暮らしとの関係性に注目して、「各気候帯での人々の暮らし」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。 	2	【2学期】 ab定期考査 abcレポート (記述の確認) c授業での取り組み、提出物の状況 (行動の確認)
	③世界各地の自然と生活	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の自然環境に関わる諸事象の規則性、傾向性や、自然災害などについて理解する。日本の自然環境と自然災害の関係などに注目して、「自然災害と防災」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。 	2	【3学期】 ab定期考査 abcレポート (記述の確認) c授業での取り組み、提出物の状況 (行動の確認)
	④日本の自然環境と防災	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題に関わる諸事象の規則性、傾向性や、持続可能な地球環境の開発のあり方などについて理解する。気候や環境の変化などに注目して、「気候変動の影響」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。 	2	
	⑤地球環境問題			
	第2章 資源と産業 ①農林水産業	<ul style="list-style-type: none"> ・農林水産業に関わる諸事象の規則性、傾向性や、食料問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。農林水産業の条件や変化などに注目して、「食料問題」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。 	2	
	②資源・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・資源・エネルギーに関わる諸事象の規則性、傾向性や、資源・エネルギー問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。資源産地の分布や消費地との結びつきなどに注目して、「エネルギー資源の課題」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。 	2	
	③工業	<ul style="list-style-type: none"> ・工業に関わる諸事象の規則性、傾向性や、工業生産のグローバル化に伴う諸課題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。工業立地や変化などに注目して、「工業生産のグローバル化」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。 	2	
	④第3次産業	<ul style="list-style-type: none"> ・第3次産業に関わる諸事象の規則性、傾向性や、サービス経済化の現状や要因、解決に向けた取組について理解する。産業構造の変化に注目して、「サービス経済化」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。 	2	

8・9・10・11・12・1	第3章 人・モノ・金のつながり	・交通・通信に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。交通・通信手段の発達や利用に関わる課題などに着目して、「交通と通信の課題」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	2
	①交通・通信	・運輸、観光に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、貿易・観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。貿易の構造や人・物・資金の流れなどに着目して、「経済連携」や「観光の多様化」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	2
	②貿易・観光		2
	第4章 人口、村落・都市	・人口に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、人口問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。人口の推移、分布、移動などに注目して、「少子高齢化」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	2
	①人口	・村落・都市に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。集落の機能や形態などに注目して、「世界の居住問題」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	2
	②村落・都市		
	第5章 文化と国家	・生活文化と言語・宗教に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、民族問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。世界の衣食住や言語・宗教の地域性などに着目して、「生活文化の多様性」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	2
	①生活文化と言語・宗教	・国家とその領域に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、領土問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。国家の特徴や国家の結びつきなどに着目して、「世界の民族・領土問題」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	8
	②国家とその領域	・地域区分について理解し、現代世界が自然、文化、国家群、経済などの指標によって様々な区分ができることを習得させ、それぞれの区分からわかる地域の特徴や、複数の区分によって把握できる地域の特徴を考察させる。	2
	第II編 現代世界の地誌的考察		6
第1章 地域区分	・世界の大国としての中国について、歴史的背景や経済体制、政策、工業、人口、民族、自然、農牧業、資源・エネルギー、貿易、投資・援助といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを経済成長と関連づけながら地域的特色を考察・理解させ、日本をはじめ世界各国に与える影響や、今後構築すべきより良い国際関係について探究させる。	5	
第2章 現代世界の諸地域			
①中国	・隣国としての韓国について、自然や文化、歴史的背景、経済発展、都市・人口問題、貿易といった項目を整理しながら基本的な知識を習得		

3	②朝鮮半島	し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させる。 ・経済発展の著しい東南アジアについて、歴史的背景や民族、自然、農業、工業、都市問題、地域間連携といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを多彩な文化と関連づけながら地域的特色を考察・理解させ、今後の発展的变化や、それに伴う日本や中国をはじめとする周辺地域との関係について探究させる。	5	
	③東南アジア	・近年急成長するインドを中心とした南アジアについて、自然、人口、文化・生活、民族問題、農牧業、工業、国際的な経済連携といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させ、今後の発展や、それに伴う日本をはじめ世界各国に与える影響について探究させる。	6	
	④南アジア	・乾燥地帯に位置する西アジア・中央アジアについて、農牧業、イスラームの教えやそれに基づく生活、言語・民族、資源を背景に発達した経済、地域紛争といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて二つの地域を類似性に着目して比較しながら地域的特色を考察・理解させる。	8	
	⑤西アジア・中央アジア	・広大な大陸に位置するアフリカについて、自然や農牧業、歴史的背景・民族、産業・経済構造、地域紛争、国際関係といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて北アフリカ・サブサハラアフリカの二つの地域を対照性に着目して比較しながら地域的特色を考察・理解させる	2	
	⑥北アフリカ・サブサハラアフリカ	・地域統合の進んだヨーロッパについて、EUとその歴史的背景、民族、自然、農牧業、工業とエネルギー、貿易と交通、経済格差といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを地域統合と関連づけながら地域的特色を考察・理解させ、今後の変化や、日本をはじめとする世界各国への影響について探究させる。	5	
	⑦ヨーロッパ	・世界最大の面積を持つロシアについて、自然と歴史的背景、民族、体制の転換と産業の変化、地域格差、交通といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させる。	2	
	⑧ロシア	・広大な面積を持つアングロアメリカの2か国について、自然、歴史的背景、民族・文化、農業、鉱工業、世界との結びつき、都市・居住問題といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させ、今後、関係の深い日本をはじめ世界各国に与える影響について探究させる。	8	
	⑨アングロアメリカ	・南北に長いラテンアメリカについて、自然、農業、歴史的背景と民族、社会問題、鉱工業、貿易、経済連携といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させる。		
	⑩ラテンアメリカ	・南半球に位置する大陸国家オーストラリアについて、自然と産業、歴史的背景と民族・文化、都市、世界との結びつきといった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させ、日本をはじめとするアジアやオセアニアなど各国との結びつきの変化について探究させる。 ・日本と同じ太平洋に面するニュージーランドとオセアニアの島嶼国について、自然、農業、歴史的背景と民族・文化といった項目を整理しな		

	⑪オーストラリア ⑫ニュージーランドと島嶼国 第III編 ①現代日本に求められる国土像	がら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させる。 ・今までの学習を基にして、自然災害に強い国土、変化する産業と持続可能な成長、人口減少社会の活性化、多文化共生社会の実現に関して、将来の日本の国土像について、日本がかわかえる地理的な課題を生徒自らに発見させ、その課題を多面的・多角的に考察、探究させる。探究を行う際は、まず自ら発見した課題を解決するための方法を身につけさせる。地理的技能を活かして資料を作成させるとともに、第I編で学んだ基本的な知識や、第II編で学んだ世界各地のさまざまな事例を活用して考察し、課題解決のための提言を行わせることによって、日本がかわかえる地理的課題の解決の方向性や将来の国土像について展望させる。	
--	--	---	--

計96時間（55分授業）

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A 第I編 現代世界の系統地理的考察 30 時間	B第II編 現代世界の地誌的考察 88 時間	第III編 現代日本に求められる国土像 6時間
-----------------	--------------------------------	------------------------------	-------------------------------

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

7 課題と提出物

- ・毎学期各2回程度のレポート提出やワークの提出など。

8 担当者から一言

- ・地理は世界の地形や都市・産業などをただ暗記すればよい、という科目ではありません。それらの学習を通して、地球上の様々な地域で暮らす人々の生活や、そこに存在する多様な価値観を理解し、世界の諸問題を見つめ、解決していく力を養っていく科目です。柏高生である皆さんの志がより高きものとなり、本校の校歌の一節にある「世は我が起つを待てるなり」に応えようとする皆さんの大いなる活躍を願って、授業を行います。
- ・授業に集中し、わからないところはどんどん質問しよう。
- ・興味のあるテーマについては、書籍などを読み、理解と考察を深めよう。

教科 (科目)	地理歴史 (地理探究)	単位数	4 単位	学年	3 学年理系 (普通科)
教科書	二宮書店『地理探究』 二宮書店『詳解現代地図』				
副教材	第一学習社『最新地理図表 GEO』 東京法令出版『ウイニングコンパス 地理の整理と演習』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

3 指導の重点

- ・今日の日本および国際社会で発生する事象や諸問題と基本原理・基本理論とのかかわりについて理解できるようになること。
- ・現代の日本社会・国際社会が直面する諸課題について、望ましい解決のあり方を積極的に考察。
- ・特に経済分野については、統計資料やグラフ資料の分析力を高める。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知識：地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解することができる。</p> <p>技能：地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。</p>	<p>地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身につけている。</p>	<p>地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深めようとしている。</p>

5 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査の内容の確認 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査、授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認、提出物の状況 <p>などから、評価します。</p>

<p>内容のまとめりに、各観点</p> <p>「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。</p> <p>内容のまとめりの評価規準は授業で説明します。</p> <p>成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：4：2となります。</p>

6 学習計画

月	単元	学習内容（指導内容）	時間	評価方法
4 ・5 ・6	第1編 現代世界の系統 ・地理的考察 第1章 自然環境 ①地形 ②気候と生態系 ③世界各地の自然と生活 ④日本の自然環境と防災 ⑤地球環境問題 第2章 資源と産業 ①農林水産業 ②資源・エネルギー ③工業 ④第3次産業	<p>・地形に関わる諸事象の規則性、傾向性や、人間による利用などについて理解する。地形の分布や成因などに注目して、「平野の地形」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>・気候と生態系に関わる諸事象の規則性、傾向性や、気候の地域性などについて理解する。大気大循環のしくみや影響などに注目して、「気候の地域性」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>・世界各地の自然と生活に関わる諸事象の規則性、傾向性や、気候区分の方法などについて理解する。気候の特徴と人々の暮らしとの関係性に注目して、「各気候帯での人々の暮らし」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>・日本の自然環境に関わる諸事象の規則性、傾向性や、自然災害などについて理解する。日本の自然環境と自然災害の関係などに注目して、「自然災害と防災」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>・地球環境問題に関わる諸事象の規則性、傾向性や、持続可能な地球環境の開発のあり方などについて理解する。気候や環境の変化などに注目して、「気候変動の影響」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>・農林水産業に関わる諸事象の規則性、傾向性や、食料問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。農林水産業の条件や変化などに注目して、「食料問題」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>・資源・エネルギーに関わる諸事象の規則性、傾向性や、資源・エネルギー問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。資源産地の分布や消費地との結びつきなどに注目して、「エネルギー資源の課題」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>・工業に関わる諸事象の規則性、傾向性や、工業生産のグローバル化に伴う諸課題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。工業立地や変化などに注目して、「工業生産のグローバル化」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>・第3次産業に関わる諸事象の規則性、傾向性や、サービス経済化の現状や要因、解決に向けた取組について理解する。産業構造の変化に注目して、「サービス経済化」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。</p>	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	<p>【1学期】</p> <p>ab定期考査</p> <p>abcレポート</p> <p>(記述の確認)</p> <p>c授業での取り組み、提出物の状況</p> <p>(行動の確認)</p> <p>【2学期】</p> <p>ab定期考査</p> <p>abcレポート</p> <p>(記述の確認)</p> <p>c授業での取り組み、提出物の状況</p> <p>(行動の確認)</p> <p>【3学期】</p> <p>ab定期考査</p> <p>abcレポート</p> <p>(記述の確認)</p> <p>c授業での取り組み、提出物の状況</p> <p>(行動の確認)</p>

7. 8. 9. 10. 11. 12. 1. 2	第3章 人・モノ・金の つながり			
	①交通・通信	・交通・通信に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。交通・通信手段の発達や利用に関わる課題などに着目して、「交通と通信の課題」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	2	
	②貿易・観光	・運輸、観光に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、貿易・観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。貿易の構造や人・物・資金の流れなどに着目して、「経済連携」や「観光の多様化」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	2	
	第4章 人口、村落・都市			
	①人口	・人口に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、人口問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。人口の推移、分布、移動などに注目して、「少子高齢化」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	2	
	②村落・都市	・村落・都市に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。集落の機能や形態などに注目して、「世界の居住問題」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	2	
	第5章 文化と国家			
	①生活文化と言語・宗教	・生活文化と言語・宗教に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、民族問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。世界の衣食住や言語・宗教の地域性などに着目して、「生活文化の多様性」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	2	
	②国家とその領域	・国家とその領域に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、領土問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。国家の特徴や国家の結びつきなどに着目して、「世界の民族・領土問題」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	10	
	第II編 現代世界の地誌 的考察			
第1章 地域区分				
①現代世界の地域区分	・地域区分について理解し、現代世界が自然、文化、国家群、経済などの指標によって様々な区分ができることを習得させ、それぞれの区分からわかる地域の特徴や、複数の区分によって把握できる地域の特徴を考察させる。	4		
第2章 現代世界の諸地域				
①中国	・世界の大国としての中国について、歴史的背景や経済体制、政策、工業、人口、民族、自然、農牧業、資源・エネルギー、貿易、投資・援助といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを経済成長と関連づけながら地域的特色を考察・理解させ、日本をはじめ世界各国に与える影響や、今後構築すべきより良い国際関係について探究させる。	8		
	・隣国としての韓国について、自然や文化、歴史的背景、経済発展、都市・人口問題、貿易といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させる。	8		

3	②朝鮮半島	・経済発展の著しい東南アジアについて、歴史的背景や民族、自然、農業、工業、都市問題、地域間連携といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを多彩な文化と関連づけながら地域的特色を考察・理解させ、今後の発展的变化や、それに伴う日本や中国をはじめとする周辺地域との関係について探究させる。	8
	③東南アジア	・近年急成長するインドを中心とした南アジアについて、自然、人口、文化・生活、民族問題、農牧業、工業、国際的な経済連携といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させ、今後の発展や、それに伴う日本をはじめ世界各国に与える影響について探究させる。	10
	④南アジア	・乾燥地帯に位置する西アジア・中央アジアについて、農牧業、イスラームの教えやそれに基づく生活、言語・民族、資源を背景に発達した経済、地域紛争といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて二つの地域を類似性に着目して比較しながら地域的特色を考察・理解させる。	4
	⑤西アジア・中央アジア	・広大な大陸に位置するアフリカについて、自然や農牧業、歴史的背景・民族、産業・経済構造、地域紛争、国際関係といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて北アフリカ・サブサハラアフリカの二つの地域を対照性に着目して比較しながら地域的特色を考察・理解させる	8
	⑥北アフリカ・サブサハラアフリカ	・地域統合の進んだヨーロッパについて、EUとその歴史的背景、民族、自然、農牧業、工業とエネルギー、貿易と交通、経済格差といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを地域統合と関連づけながら地域的特色を考察・理解させ、今後の変化や、日本をはじめとする世界各国への影響について探究させる。	8
	⑦ヨーロッパ	・世界最大の面積を持つロシアについて、自然と歴史的背景、民族、体制の転換と産業の変化、地域格差、交通といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させる。	6
	⑧ロシア	・広大な面積を持つアングロアメリカの2か国について、自然、歴史的背景、民族・文化、農業、鉱工業、世界との結びつき、都市・居住問題といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させ、今後、関係の深い日本をはじめ世界各国に与える影響について探究させる。	4
	⑨アングロアメリカ	・南北に長いラテンアメリカについて、自然、農業、歴史的背景と民族、社会問題、鉱工業、貿易、経済連携といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させる。	10
	⑩ラテンアメリカ	・南半球に位置する大陸国家オーストラリアについて、自然と産業、歴史的背景と民族・文化、都市、世界との結びつきといった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させ、日本をはじめとするアジアやオセアニアなど各国との結びつきの変化について探究させる。	
		・日本と同じ太平洋に面するニュージーランドとオセアニアの島嶼国について、自然、農業、歴史的背景と民族・文化といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理	

	①オーストラリア ②ニュージーランドと島嶼国 第III編 ①現代日本に求められる国土像	解させる。 ・今までの学習を基にして、自然災害に強い国土、変化する産業と持続可能な成長、人口減少社会の活性化、多文化共生社会の実現に関して、将来の日本の国土像について、日本がかかえる地理的な課題を生徒自らに発見させ、その課題を多面的・多角的に考察、探究させる。探究を行う際は、まず自ら発見した課題を解決するための方法を身につけさせる。地理的技能を活かして資料を作成させるとともに、第I編で学んだ基本的な知識や、第II編で学んだ世界各地のさまざまな事例を活用して考察し、課題解決のための提言を行わせることによって、日本がかかえる地理的課題の解決の方向性や将来の国土像について展望させる。	
--	--	---	--

計128時間 (55分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A 第I編 現代世界の系統地理的考察 30 時間	B第II編 現代世界の地誌的考察 88 時間	第III編 現代日本に求められる国土像 10 時間
-----------------	--------------------------------	------------------------------	---------------------------------

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

7 課題と提出物

・毎学期各2回程度のレポート提出やワークの提出など。

8 担当者から一言

・地理は世界の地形や都市・産業などをただ暗記すればよい、という科目ではありません。それらの学習を通して、地球上の様々な地域で暮らす人々の生活や、そこに存在する多様な価値観を理解し、世界の諸問題を見つめ、解決していく力を養っていく科目です。柏高生である皆さんの志がより高きものとなり、本校の校歌の一節にある「世は我が起つを待てるなり」に応えようとする皆さんの大いなる活躍を願って、授業を行います。

・授業に集中し、わからないところはどんどん質問しよう。

・興味のあるテーマについては、書籍などを読み、理解と考察を深めよう。

教科(科目)	地理歴史 (日本史セミナー)	単位数	3単位	学年	3学年 (普通科)
使用準教科書	『詳説日本史』(山川出版社)、 『地理総合 世界に学び地域へつなぐ』(二宮書店)、『詳解現代地図』(二宮書店)				
副教材等	『最新日本史図表』(第一学習社)、『最新地理図表』(第一学習社)、『ゼミナール日本史』浜島書店				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラムポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。 ②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。 ③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。 ②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。 ③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。 ④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。 ⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。

2 学習目標

歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。 (2)我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、概念を活用して考察したり、課題の解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3)我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、課題を主体的に探究しようとする態度を養い、多面的・多角的な考察や深い理解を通して日本国民としての自覚、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3 指導の重点

①地理総合で身に付けた知識・理解を基に、歴史に見られる課題を多角的・多面的に理解する力を養う。 ②歴史に見られる課題の解決に向けて考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身につける。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的な知識や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、地理的な視点を活用して多面的・多角的に考察したり、課題解決を視野に入れて構想したりする力やそれらを効果的に説明したり議論している。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究したり、我が国と他国の歴史や文化を尊重する大切さについて自覚を深めようとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査・小テストの分析 ・ワークシートなどの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査・小テストの分析 ・ワークシートなどの内容の確認 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ワークシートなどの内容の確認 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察、発表資料 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。 成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：4：2となります。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5 6	(1) 近世から近代へ (2) 近代国家の成立	『詳説日本史』(山川出版社) 『地理総合 世界に学び地域へつなぐ』(二宮書店)、『詳解現代地図』(二宮書店) 『詳説日本史』(山川出版社) 『地理総合 世界に学び地域へつなぐ』(二宮書店)、『詳解現代地図』(二宮書店)	1) 東アジアと明治維新 ・列強によるアジアの植民地化や従属国化について、各地で起こった産業や社会、伝統文化の変容に注目して理解を深めるとともに、日本の近代国家への転換の過程を考察する。 ・近代国家建設に向けての諸改革、自由民権運動と立憲体制の成立などを理解する。 2) 東アジアの構造変動と日本 ・日清・日露戦争について、地図資料を用いて朝鮮・満州進出の動機や経過を理解する。	30	授業態度 ワークシートの提出 定期考査 小テスト 授業中の発言
7 8 9 10 11	(3) 近代国家の展開 (3) 近代国家の展開 (4) 近代の産業と生活 (5) 恐慌と第二次世界大戦	『詳説日本史』(山川出版社) 『地理総合 世界に学び地域へつなぐ』(二宮書店)、『詳解現代地図』(二宮書店)	3) 探究活動 ・日本が独立の維持や条約改正の実現、列強の仲間入りを果たした要因を、地理的な位置関係や国際関係の変化から考察する。 1) 第一次世界大戦と日本 ・大戦の勃発、総力戦としての性格などを考察し、1910年代の近代史を理解する。 ・大戦景気の背景や特徴について、戦時下の世界の産業・運輸などを調べて理解する。 2) デモクラシーと日本 ・戦後の国際秩序を中心に、1920年代の近代史の展開を理解させる。 ・デモクラシーの風潮や政党政治を理解するとともに、関東大震災の被害について、震災後の現況図などを手がかりに実態を捉える。 3) 第二次世界大戦と日本 ・ファシズムが台頭する1930年代から大戦が終結する1945年までの近代史を理解する。 4) 探究活動 ・日本の大陸進出と開戦にいたった要因や戦線の拡大の経過について、国内の産業構造とともに、中国・東南アジアの資源や地形を調べて考察し、発表する。	36	授業態度 ワークシートの提出 定期考査 小テスト 授業中の発言 発表や討論への取組
12 1 2 3	(6) 占領下の日本 (7) 高度成長の時代 (8) 激動する世界と日本		1) 占領政策と日本 ・戦後の占領統治から米ソの冷戦が本格化した1950年代までの戦後史の展開を理解する。 ・占領政策ともなう諸改革や占領政策の転換について、国際関係の変化から理解する。 2) 冷戦と日本 ・冷戦の展開とともに、アジア・アフリカ諸国の民族運動や独立について、地域的な特徴や歴史を踏まえて考察する。 ・国際政治の動向がもたらした日本の外交や政治・社会の動きについて、沖縄返還や日中国交正常化、高度経済成長、公害問題、安保問題などを通して理解する。 3) 現代社会と日本 ・地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギー問題など、地球規模で進行する課題を考察し、現代日本の社会の動向を理解する。 4) 探究活動 ・地球規模で深刻化する諸問題についてグループでテーマを設定し、歴史的背景や世界の諸地域の動向を調べるとともに、課題解決にむけた国際協力の方策を考察し、発表する。	30	授業態度 ワークシートの提出 定期考査 小テスト 授業中の発言 発表資料 発表や討論への取組

計96時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

授業で使用したワークシートと、考察した内容をレポートにまとめて提出する。

8 担当者からの一言

日本史セミナーでは近現代史を中心に、地理総合で学んだ知識や技能を活用して多角的に理解することを目指します。さらに現代につながる課題やその解決について、考察や議論をしながら考えを深めていきましょう。

教科(科目)	地理歴史（日本史セミナー）	単位数	2単位	学年	3学年（普通科）
使用準教科書	『詳説日本史』（山川出版社）、 『地理総合 世界に学び地域へつなぐ』（二宮書店）、『詳解現代地図』（二宮書店）				
副教材等	『最新日本史図表』（第一学習社）、『最新地理図表』（第一学習社）、『ゼミナール日本史』浜島書店				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。 ②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。 ③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。 ②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。 ③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。 ④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。 ⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

<p>歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。</p> <p>(2) 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、概念を活用して考察したり、課題の解決を視野に入れて構想したり、構想したことを分かりやすく表現したりする力を養う。</p> <p>(3) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、課題を主体的に探究しようとする態度を養い、多面的・多角的な考察や深い理解を通して日本国民としての自覚、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>
--

3 指導の重点

<p>①地理総合で身に付けた知識・理解を基に、歴史に見られる課題を多角的・多面的に理解する力を養う。</p> <p>②歴史に見られる課題の解決に向けて考察したことを、分かりやすく表現する力を身につける。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、世界の諸地域と比較して多面的・多角的に考察したり、課題解決を視野に入れて構想したりする力やそれらを効果的に説明したり議論している。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究したり、我が国と他国の歴史や文化を尊重する大切さについて自覚を深めようとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査・小テストの分析 ・ワークシートなどの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査・小テストの分析 ・ワークシートなどの内容の確認 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ワークシートなどの内容の確認 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 などから、評価します。
	<p>内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。 成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：4：2となります。</p>		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5 6 7	(1) 近世から近代へ (2) 近代国家の成立 (3) 近代国家の展開	『詳説日本史』(山川出版社) 『地理総合 世界に学び地域へつなぐ』(二宮書店)、 『詳解現代地図』(二宮書店)	1) 東アジアと明治維新 ・列強によるアジアの植民地化や従属国化について、各地で起こった変容を概観して理解を深めるとともに、日本の近代国家への転換の過程を考察する。 ・自由民権運動と立憲体制の成立を中心に、日本の近代化を理解する。 2) 東アジアの構造変動と日本 ・日清・日露戦争について、地図資料を用いながら日本の朝鮮・満州進出の動機や戦争の状況を理解する。 3) 探究活動 ・日本が独立の維持や条約改正の実現、列強の仲間入りを果たした要因を、地理的な位置関係や国際関係の変化から考察する。	20	授業態度 ワークシートの提出 定期考査 小テスト 授業中の発言
8 9 10 11	(3) 近代国家の展開 (4) 近代の産業と生活 (5) 恐慌と第二次世界大戦	『詳説日本史』(山川出版社) 『地理総合 世界に学び地域へつなぐ』(二宮書店)、 『詳解現代地図』(二宮書店)	1) 第一次世界大戦と日本 ・第一次世界大戦について、背景と特徴を中心に理解する。 ・大戦景気の影響や特徴について、戦時下の世界の産業・運輸などを調べて理解する。 2) デモクラシーと日本 ・戦後の政治や社会の動向について、デモクラシーの風潮や政党政治を理解するとともに、関東大震災を取り上げ、その被害を震災後の現況図などから考察する。 3) 第二次世界大戦と日本 ・第二次世界大戦にいたった要因を、各国の経済や産業の変化を調べながら理解を深める。 4) 探究活動 ・日本の大陸進出と開戦にいたった要因や戦線の拡大の経過について、国内の産業構造とともに、中国・東南アジアの資源や地形を調べて考察し、発表する。	24	授業態度 ワークシートの提出 定期考査 小テスト 授業中の発言 発表や討論への取組
12 1 2 3	(6) 占領下の日本 (7) 高度成長の時代 (8) 激動する世界と日本	『詳説日本史』(山川出版社) 『地理総合 世界に学び地域へつなぐ』(二宮書店)、 『詳解現代地図』(二宮書店)	1) 占領政策と日本 ・戦後の占領統治から米ソの冷戦が本格化した 1950 年代までの戦後史の展開を理解する。 ・占領政策にともなう諸改革や占領政策の転換について、国際関係の変化から理解する。 2) 冷戦と日本 ・冷戦の展開とともに、アジア・アフリカ諸国の民族運動や独立について、地域的な特徴や歴史を踏まえて考察する。 ・国際政治の動向がもたらした日本の外交や政治・社会の動きについて、沖縄返還や日中国交正常化、高度経済成長、公害問題、安保問題などを通して理解する。 3) 現代社会と日本 ・地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギー問題など、地球規模で進行する課題を考察し、現代日本の社会の動向を理解する。 4) 探究活動 ・地球規模で深刻化する諸問題についてグループでテーマを設定し、歴史的背景や世界の諸地域の動向を調べるとともに、課題解決に向けた国際協力の方策を考察し、発表する。	20	授業態度 ワークシートの提出 定期考査 小テスト 授業中の発言 発表や討論への取組

計 64 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

授業で使用したワークシートと、考察した内容をレポートにまとめて提出する。

8 担当者からの一言

日本史セミナーでは近現代史を中心に、地理総合で学んだ知識や技能を活用して多角的に理解することを目指します。さらに現代につながる課題やその解決について、考察や議論をしながら考えを深めていきましょう。

教科(科目)	地理歴史 (世界史セミナー)	単位数	3単位	学年	3学年 (普通科)
使用準教科書	『詳説世界史』 (山川出版社)、『高等学校公共』 (第一学習社)				
副教材等	『グローバルワイド最新世界史図表』 (第一学習社)、『フォーラム公共2023』 (東京法令出版)				

1 学習目標

現在起きている世界の様々な問題に対して興味関心を深めるとともに、その背景にある歴史的な事象を学習する。また、世界との相互理解を深めるために国家・民族等の多様な文化の存在を知るために、多面的・多角的に調べる力を養う。それらのことを通して歴史や各国の特質についての見方・考え方を身につけた上で問題の所在・論点を整理し、自らの考えを明確に説明できる表現力も身につける。

2 指導の重点

- ①世界史や現代社会の基礎的な知識・理解を基盤として、世界の今日的諸課題について主体的・多角的に思索できる能力の習得を目指す。
- ②グローバル化が進展する現代社会において、日本が国際社会の中でどのような責任を果たしていくべきかという点についても考察する。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知識：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。</p> <p>技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</p>	<p>近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。</p>	<p>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めている。</p>

4 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	<p>以上の観点を踏まえ、定期考査の内容の確認などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、定期考査、授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認、グループの発表内容などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認、提出物の状況、グループの発表の内容などから、評価します。</p>
	<p>内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。</p> <p>内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。</p> <p>成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：4：2となります。</p>		

5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
	(1)東西思想・宗教の歴史的背景と今日的課題	32 abc	山川出版社 『詳説世界史』 第一学習社 『高等学校公共』 東京法令出版 『フォーラム公共2022』 第一学習社 『グローバルワイド最新世界史図表』	1) 古代オリエント文明とその周辺 ・周辺に大きな影響を与えたオリエント世界に成立した多神教と一神教であるユダヤ教・キリスト教の成立の関係を考察する。 2) キリスト教とギリシア・ローマ世界 ・ギリシア・ローマ世界の風土とギリシア哲学・キリスト教成立の関係を考察する。 3) 仏教・ヒンドゥー教とインド世界 ・仏教思想やカースト制度に基づくインド世界の特徴を理解させ、インド・東南アジア地域の今日的課題を考察する。 4) 中国思想と東アジア世界 ・中国社会の変動と諸思想の成立の関係を考察する。 5) イスラーム教と西アジア世界 ・イスラーム世界の成立と拡大をふまえて現代のイスラーム諸国の諸事情を考察し、考察結果をグループごとに発表し意見交換を行う。	32	授業態度 課題の提出 定期考査
	(2)国際社会における日本の役割と歴史的背景	45 abc	山川出版社 『詳説世界史』 第一学習社 『高等学校公共』 東京法令出版 『フォーラム公共2022』 第一学習社 『グローバルワイド最新世界史図表』	1) 日本と東アジア ・大陸文化が日本の政治・文化に与えた影響を概観し、今後の日本と東アジア諸国とのよりよい関係を築くための方策を考察する。 2) 日本と内陸アジア ・モンゴルとの交渉、シルクロードを通しての交流等の歴史を振り返りつつ、内陸アジア諸国と日本との経済交流の展望を考察する。 3) 日本と世界の諸地域 ・特に東南アジア、ヨーロッパ諸国との交流の事例を通して、現代世界の経済交流のあり方を考察し、考察結果をグループごとに発表し意見交換を行う。	45	授業態度 課題の提出 定期考査

	(3)諸地域の 発展・対立、 地域紛争の歴 史的背景と今 日的課題	19 abc	山川出版社 『詳説世界 史』 第一学習社 『高等学校 公共』 東京法令出版 『フォーラム 公共2022』 第一学習社 『グローバル ワイド最新世 界史図表』	1) 中東戦争 中東戦争とその後の混乱をまとめ、 現在の状況とその課題を考察する。 2) 旧ユーゴスラヴィアの内戦 旧ユーゴスラヴィアの内戦の原因・ 過程と現在の状況をまとめ、その課 題を考察する。 3) 冷戦の終結とその後のロシア周辺の 民族紛争 冷戦の終結とその後のロシア周辺の 民族紛争をまとめ現在のクリミア半 島・ロシアによるウクライナ侵攻の 原因・問題点・解決方法などを多角 的に考察し、考察結果をグループご とに発表し意見交換を行う。 4) 日本のとるべき立場 国際紛争に対する日本のとるべき立 場について考察し、グループで意見 交換を行う。さらにグループごとに 発表し意見交換を行う。	19	授業態度 課題の提出 定期考査
--	---	-----------	--	--	----	-----------------------

計 96時間 (55分授業)

6 課題・提出物等

- ①小单元ごとに小テストを実施し、成績に加味する。
- ②定期考査ごとにノート・プリント等の点検を実施する。
(各テーマの考察結果をしっかりとめておくこと。)
- ③長期休業中の課題は別途指示する。

7 担当者からの一言

世界は観る角度や知識の量などによって観え方が大きく変わります。観るための材料（知識）や角度（客観性）を増やし、客観的に観て・考えることを学びましょう。そして客観的に観ることの難しさや限界を知ったうえで、それを乗り越えて、他者とお互いの立場を尊重し合える関係を築くための準備をしましょう。

教科(科目)	地理歴史 (世界史セミナー)	単位数	2単位	学年	3学年 (普通科)
使用準教科書	『詳説世界史』 (山川出版社)、『高等学校公共』 (第一学習社)				
副教材等	『グローバルワイド最新世界史図表』 (第一学習社)、『フォーラム公共2023』 (東京法令出版)				

1 学習目標

現在起きている世界の様々な問題に対して興味関心を深めるとともに、その背景にある歴史的事象を学習する。また、世界との相互理解を深めるために国家・民族等の多様な文化の存在を知るために、多面的・多角的に調べる力を養う。それらのことを通して歴史や各国の特質についての見方・考え方を身につけた上で、問題の所在・論点を整理し、自らの考えを明確に説明できる表現力も身につける。

2 指導の重点

- ①世界史や現代社会の基礎的な知識・理解を基盤として、世界の今日的諸課題について主体的・多角的に思索できる能力の習得を目指す。
- ②グローバル化が進展する現代社会において、日本が国際社会の中でどのような責任を果たしていくべきかという点についても考察する。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知識：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそれの中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。</p> <p>技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</p>	<p>近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。</p>	<p>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。</p>

4 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	<p>以上の観点を踏まえ、定期考査の内容の確認などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、定期考査、授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認、グループの発表内容などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認、提出物の状況、グループの発表の内容などから、評価します。</p>
	<p>内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。</p> <p>内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。</p> <p>成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：4：2となります。</p>		

5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
	(1)東西思想・宗教の歴史的背景と今日的課題	20 abc	山川出版社 『詳説世界史』 第一学習社 『高等学校公共』 東京法令出版 『フォーラム公共2022』 第一学習社 『グローバルワイド最新世界史図表』	1) 古代オリエント文明とその周辺 ・周辺に大きな影響を与えたオリエント世界に成立した多神教と一神教であるユダヤ教・キリスト教の成立の関係を考察する。 2) キリスト教とギリシア・ローマ世界 ・ギリシア・ローマ世界の風土とギリシア哲学・キリスト教成立の関係を考察する。 3) 仏教・ヒンドゥー教とインド世界 ・仏教思想やカースト制度に基づくインド世界の特徴を理解させ、インド・東南アジア地域の今日的課題を考察する。 4) 中国思想と東アジア世界 ・中国社会の変動と諸思想の成立の関係を考察する。 5) イスラーム教と西アジア世界 ・イスラーム世界の成立と拡大をふまえて現代のイスラーム諸国の諸事情を考察し、考察結果をグループごとに発表し意見交換を行う。	20	授業態度 課題の提出 定期考査
	(2)国際社会における日本の役割と歴史的背景	24 abc	山川出版社 『詳説世界史』 第一学習社 『高等学校公共』 東京法令出版 『フォーラム公共2022』 第一学習社 『グローバルワイド最新世界史図表』	1) 日本と東アジア ・大陸文化が日本の政治・文化に与えた影響を概観し、今後の日本と東アジア諸国とのよりよい関係を築くための方策を考察する。 2) 日本と内陸アジア ・モンゴルとの交渉、シルクロードを通じた交流等の歴史を振り返りつつ、内陸アジア諸国と日本との経済交流の展望を考察する。 3) 日本と世界の諸地域 ・特に東南アジア、ヨーロッパ諸国との交流の事例を通して、現代世界の経済交流のあり方を考察し、考察結果をグループごとに発表し意見交換を行う。	24	授業態度 課題の提出 定期考査

	(3) 諸地域の発展・対立、地域紛争の歴史的背景と今日的課題	20 abc	山川出版社 『詳説世界史』 第一学習社 『高等学校公共』 東京法令出版 『フォーラム公共2022』 第一学習社 『グローバルワイド最新世界史図表』	1) 中東戦争 中東戦争とその後の混乱をまとめ、現在の状況とその課題を考察する。 2) 旧ユーゴスラヴィアの内戦 旧ユーゴスラヴィアの内戦の原因・過程と現在の状況をまとめ、その課題を考察する。 3) 冷戦の終結とその後のロシア周辺の民族紛争 冷戦の終結とその後のロシア周辺の民族紛争をまとめ現在のクリミア半島・ロシアによるウクライナ侵攻の原因・問題点・解決方法などを多角的に考察し、考察結果をグループごとに発表し意見交換を行う。 4) 日本のとるべき立場 国際紛争に対する日本のとるべき立場について考察し、グループで意見交換を行う。	20	授業態度 課題の提出 定期考査
--	--------------------------------	-----------	--	---	----	-----------------------

計 64時間 (55分授業)

6 課題・提出物等

- ①小单元ごとに小テストを実施し、成績に加味する。
- ②定期考査ごとにノート・プリント等の点検を実施する。
(各テーマの考察結果をしっかりとめておくこと。)
- ③長期休業中の課題は別途指示する。

7 担当者からの一言

世界は観る角度や知識の量などによって観え方が大きく変わります。観るための材料(知識)や角度(客観性)を増やし、客観的に観て・考えることを学びましょう。そして客観的に観ることの難しさや限界を知ったうえで、それを乗り越えて、他者とお互いの立場を尊重し合える関係を築くための準備をしましょう。

教科(科目)	公民(公共)	単位数	2単位	学年	1学年(普通科)
使用教科書	実教出版『詳述 公共』				
副教材等	東京法令出版『フォーラム公共 2025』東京法令出版『ニューコンパ スノト公共 2025』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
- ・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

3 指導の重点

- ・今日の日本および国際社会で発生する事象や諸問題と基本原理・基本理論とのかかわりについて理解できるようになること。
- ・現代の日本社会・国際社会が直面する諸課題について、望ましい解決のあり方を積極的に考察。
- ・特に経済分野については、統計資料やグラフ資料の分析力を高める。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を身に付けている。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めようとしている。

5 評価方法

評 価 方 法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査、授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認、提出物の状況 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。 成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、 4：4：2となります。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	第1編 公共の扉	4	実教出版『詳 述 公共』	・社会に参画する自立した主体とは、他 者との協働により当事者として国家・社 会などの公共的な空間を作る存在であ ることを学ぶ。	4	【1学期】 定期考査 レポート (記述の確認) 授業での取り組み、提 出物の状況 (行動の確認)
5	第1章 公共的な空間を つくる私たち	4	東京法令出 版『フォーラ ム公共 2024』	・公共的な空間において社会に参画す る自立した主体となるために、何を考え 行動すればよいかを理解する。	4	
6	第2章 公共的な空間に おける人間とし てのあり方生き 方	8	東京法令出 版『ニューコンパ ス ノート 公 共 2024』	・古今東西の先人の取り組み、知恵など を踏まえ、社会に参画する際の選択・判 断するための手がかりとなる概念や理 論を理解する。 ・人権保障のあゆみや世界の政治体制、 日本国憲法などを通して、公共的な空間 における基本原理が、現代社会でどのよ うな形で生かされているかを理解する。	8	
7	第2編 自立した主体と してのよりよい 社会の形成に参 画する私たち	8	実教出版『詳 述 公共』	・安全で豊かに生き、法をよりよいもの にするための権利や、それを実現するた めの法・規範を理解する。	8	【2学期】 定期考査 レポート (記述の確認) 授業での取り組み、提 出物の状況 (行動の確認)
8	第1章 法的な主体とな る私たち	8	東京法令出 版『フォーラ ム公共 2024』	・なぜ裁判所が必要なのか、司法権の独 立や裁判所のしくみ、最高裁判所の違憲 審査権から理解する。	8	
9	第2章 政治的な主体と なる私たち	8	東京法令出 版『ニューコンパ ス ノート 公 共 2024』	・選挙の意義や課題、世論の形成や政党 の役割を理解する。主権者である国民と 国会・内閣の関係を理解する。	8	
10 11		6		・主権国家が並び立つ国際社会は、どの ように成り立っているのかを理解する。 ・経済の基本的なしくみを理解し、経済 的意思決定が将来の選択に役立つこと を理解する。 ・第二次世界大戦後から現代までの日 本経済のあゆみと、現代の経済の課題を 理解する。	6	

1 2	第3章 経済的な主体と なる私たち	4	実教出版『詳述 公共』	<ul style="list-style-type: none"> ・公正で自由な経済活動を通して、市場が効率的な資源配分を実現できるしくみを理解する。 ・経済において金融市場はどのような役割を果たしているかを理解する。 ・少子高齢化がすすむ中で、財政や社会保障が持続可能なものにするために、政府はどのような役割を果たしていくべきかを理解する。 ・経済がグローバル化していく中で、貧困や格差などの問題乗り越え、すべての人が幸福に暮らすためにどうあるべきか考える。 	4	【3学期】 定期考査 レポート (記述の確認) 授業での取り組み、提出物の状況 (行動の確認)
		4	東京法令出版 『フォーラム 公共 2024』		4	
		4	東京法令出版 『ニューコンパ スノート 公共 2024』		4	
3	第3編 持続可能な社会 づくりの主体と なる私たち	6	実教出版『詳述 公共』 東京法令出版 『フォーラム 公共 2024』 東京法令出版 『ニューコンパ スノート 公共 2024』	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な地域・国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究する。 	6	

計 64時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

・毎学期各2回程度のレポート提出とワークの提出。

8 担当者からの一言

- ・現実に社会で起きている事象に目を向け、関心を高めよう。
- ・授業に集中し、わからないところはどんどん質問しよう。
- ・興味のあるテーマについては、新書などを読み、理解と考察を深めよう。

教科(科目)	公民（倫理）	単位数	3単位	学年	3学年(普通科)
使用教科書	清水書院『高等学校 新倫理』				
副教材等	浜島書店『最新図説 倫理』 清水書院『高等学校 新倫理 ワークノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

- ・人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせる。
- ・現代の諸課題を追求したり解決に向けて構想したりする活動を行う。
- ・広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。

3 指導の重点

- 本校においては大学等に進学を希望する生徒が大多数であることから、
- ①大学入学共通テストに対応できる学力の確実な習得を目指します。
 - ②自己を取り巻く諸問題について、自らの思考を論理的に確立できる能力の習得を目指します。
 - ③自らの思索をさまざまな方法で表現できる能力の習得を目指します。
 - ④自らの思索をもとに、現代社会のさまざまな状況に主体的に関わっていく積極的な態度の習得を目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。</p> <p>・諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめている。</p>	<p>・自立した人間として、他者と共によりよく生きる自己の生き方について、より深く思索している。</p> <p>・現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、理論的に思考し、説明したり対話したりしている。</p>	<p>・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしている。</p> <p>・多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとしている。</p>

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査の内容の確認 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査、授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認、提出物の状況 <p>などから、評価します。</p>

内容のまとまりごとに、各観点
「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」
で評価します。
内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。
成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に4・4・2となります。

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	第1編現代を 生きる自己の 課題	6	清水書院『高 等学校 新 倫理』 浜島書店『最 新図説 倫 理』 清水書 院『高等学校 新倫理 ワ ークノート』	さまざまな人間観の理解を通して人間の多様な在り方に思索を向けさせるとともに、人間存在への問いから現代の諸課題を探究することを理解する。 心のあり方を科学的に探究してきた心理学の知見を手がかりに、個性やパーソナリティ、欲求や感情、認知、発達に着目して、青年期の課題を踏まえ豊かな自己形成に向けて、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深める。 ・西洋社会の根幹にあり、現代の合理主義の由来となる古代ギリシアの思想の知見を手掛かりに、幸福、愛、徳に着目して、人間としての在り方生き方についての思索を深める。 ・ソクラテスの思索が人間としての自覚の第一歩であることを自覚させ、各自の人生への問いと結び付けて考察する。 ・プラトン、アリストテレス、ヘレニズムの思想が人間の存在や価値をいかに論じたかを理解させ、良識ある公民とはいかに在るべきか、いかに生きるべきかという自己の課題について、多面的・多角的に考察する。	6 6	【1学期】 定期考査 レポート (記述の確認) 授業での取り組み、提出物の状況 (行動の確認)
5	第2編人間と しての自覚	6				
6		12	清水書院『高 等学校 新 倫理』 浜島書店『最 新図説 倫 理』 清水書 院『高等学校 新倫理 ワ ークノート』	・世界宗教としてのキリスト教とイスラーム教・仏教の知見を手掛かりに、幸福、愛、徳に着目して、人間としての在り方生き方について自己の課題と結び付けて考察する。 ・ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教の一神教が神と人間の関係をどのように捉えたか、相互の比較を通して理解する。 ・孔子や孟子の言行や宋学の思想の理解を通して、人間についての見方や、望ましい人間関係の在り方について自己の課題と結び付けて思索を深める。 ・老子や荘子の思想における人間観を理解し、人間としての在り方生き方についての思索を深める。 ・絵画や造形芸術、伝統文化などの作品や原典資料を手掛かりに、美の概念を自らの生き方と関わらせ、芸術とは何か、芸術が人生や社会に与える影響がどのようなものか、などについて思索を深める。	12	

7	第3編現代をかたちづくる倫理	1 2	清水書院『高等学校 新倫理』	・人間の尊厳を論じたルネサンス、宗教改革、モラリストの思想を通して、幸福、愛、徳に着目して、人生への問いや人間の存在や価値について、自己の課題と結び付けて考察させる。	12	
8		6	浜島書店『最新図説 倫理』	・自然と人間との関わりや世界を捉える知の在り方を論じた近代科学の思考法、経験論と合理論を通して、真理や存在に着目して、人間の認識と経験について考察する。	6	
9		1 2	清水書院『高等学校 新倫理 ワークノート』	・民主社会と人間の在り方や人間の尊厳、自己実現と幸福を論じた近代の諸思想や現代の諸思想を通して、善、正義、義務に着目して、自己の価値観を確立し、世界と人間の在り方について考察する。	12	
10		1 2			12	
11	第4編国際社会に生きる日本人としての自覚	1 2	清水書院『高等学校 新倫理』	・日本人の人間観、自然観、宗教観の特質を、日本人の心情や考え方や風土との関わり、また日本的な美意識や自然との関わりに着目して、日本人としての自己意識と結び付けて、理解する。	12	【2学期】 定期考査 レポート (記述の確認) 授業での取り組み、提出物の状況 (行動の確認)
12		1 2	浜島書店『最新図説 倫理』 清水書院『高等学校 新倫理 ワークノート』	・外来思想である仏教を、日本独自の受容やその思想の形成と発展を通して、それらが日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしたかを理解する。 ・古代の精神の究明に努めた国学が、古代の日本人の心情と考え方をどのように捉えたかを理解する。 ・近世庶民の思想や幕末の思想が、それらが日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしたかを理解する。 ・西洋文化を摂取し、新しい文化や思想を形成した思想家たちを通して、現代を生きる日本人の思想形成にどのような影響を与えているかを理解する。 ・日本人の人間観、自然観、宗教観の特質を、民俗学の知見を手掛かりに、日本人としての自己意識と結び付けて、理解する。	12	
	第5編現代における諸課題の探究	6	清水書院『高等学校 新倫理』	・先哲を含む他者との対話を通して、生命、自然、科学技術などと人間との関わりについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察する。	6	【3学期】 レポート (記述の確認) 授業での取り組み、提出物の状況 (行動の確認)
			浜島書店『最新図説 倫理』 清水書院『高等学校 新倫理 ワークノート』	・先哲を含む他者との対話を通して、福祉、文化と宗教、平和などについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察する。		

計 96時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

・毎学期各1回程度のレポート提出

8 担当者からの一言

授業では、紀元前の遠い過去から現代でも活躍中の思想家の思想や、皆さんと同年代の人たちの心のメカニズムなども学んでいきます。

時代や場所が変われば変わってゆくもの(流行)、時代や場所が変わっても変わらないもの(不易)、「倫理」の授業ではそのようなことに思いをはせてもらえればと思います。

教科(科目)	公民(政治・経済)	単位数	3単位	学年	3学年(普通科)
使用教科書	東京書籍『政治・経済』				
副教材等	第一学習社『最新政治・経済資料集2025』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

- ・民主主義の本質に関する理解を深める。
- ・現代における政治・経済・国際関係について客観的に理解する。
- ・政治・経済・国際関係に関する諸課題について、主体的に考察する態度を身に付けるとともに、公正に判断する能力や健全な批判力を養う。
- ・国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現、推進に向けて主体的に参加、協力する態度を身に付ける。

3 指導の重点

- ・現実の社会には様々な立場やいろいろな考え方があることを理解する。
- ・今日の日本および国際社会で発生する事象や諸問題と基本原理・基本理論とのかかわりについて考える。
- ・現代の日本社会・国際社会が直面する諸課題について、望ましい解決のあり方を積極的に考察する。
- ・特に経済分野については、統計資料やグラフ資料の分析力を高める。
- ・大学入学共通テストに向け、問題演習をとおして実践力を高める。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な事柄や本質、特質、動向をとらえる基本的な概念や理論を理解し、知識を身につけている。	学習事項から課題を見いだし、その本質や特質、望ましい解決のあり方について、多角的に考察するとともに、様々な立場、考え方を踏まえ判断しようとしている。考察の過程や結果を様々な方法で表現している。	学習事項に関する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、平和で民主的な社会生活の実現について客観的に考えようとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析、 ・ワークシートの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・レポートの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・レポートの内容の確認 ・振り返りシートの記事の確認 などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点
「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」
で評価します。
内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。
成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、
4：4：2となります。

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	民主政治の基本 原理	4	東京書籍『政治・経済』 第一学習社『最新政治・経済資料集2024』	民主主義の成り立ちを歴史的観点、比較政治的観点から理解する。 世界の主な政治体制を理解し、民主主義がどのように実現されているのか考察する。	4	【1学期】 定期考査 レポート ワークシート (記述の確認) 授業での取り組み、 振り返りシート (行動の確認)
5	日本国憲法の基本 原理	10	東京書籍『政治・経済』 第一学習社『最新政治・経済資料集2024』	日本国憲法の普遍性ならびに三大原理について、歴史的経緯をふまえてその特長を捉える。 日本国憲法の平和主義の理念をふまえたうえで、今後の国際社会において国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について考察する。 日本国憲法が保障する各種人権の意義と内容について理解する。	10	
6	日本の政治機 構	6	東京書籍『政治・経済』 第一学習社『最新政治・経済資料集2024』	三権の働きと互いの関係、地方自治制度について、そのしくみを捉え、課題について考察する。	6	
7	現代政治の特 質と課題	6	東京書籍『政治・経済』 第一学習社『最新政治・経済資料集2024』	マスコミ・選挙制度・政党政治の現状を理解したうえで、望ましい政治のあり方や国民の政治参加のあり方を考察する。	6	
7 8	現代の資本主 義経済	4	東京書籍『政治・経済』 第一学習社『最新政治・経済資料集2024』	資本主義経済の発展と変容、その特徴を、社会主義経済との対比をとおして理解する。	4	【2学期】 定期考査 レポート ワークシート (記述の確認) 授業での取り組み、 振り返りシート (行動の確認)
9	現代経済のし くみ	10	東京書籍『政治・経済』 第一学習社『最新政治・経済資料集2024』	資本主義経済の特徴である市場機構のしくみを理解し、問題点を考察する。 金融と財政の意義と役割について理解する。 各経済指標の特色、経済成長と景気循環の概念を理解する。	10	
	日本経済の発 展と現状	8	東京書籍『政治・経済』 第一学習社『最新政治・経済資料集2024』	戦後日本経済の発展と変容について理解する。	8	

	福祉社会と日本経済の課題	10	東京書籍『政治・経済』 第一学習社『最新政治・経済資料集2024』	中小企業問題・農業問題・公害・消費者問題について、公共で学んだ基礎知識をもとに理解を深める。 労働三権の意義と内容を理解する。 日本型雇用慣行とその変化を理解する。 世界各国と日本の社会保障制度を比較しながら内容や課題を理解する。	7	
10	現代の国際政治	10	東京書籍『政治・経済』 第一学習社『最新政治・経済資料集2024』	国際法の意義と役割について理解する。 国際連合のしくみについて、国際連盟と比較しながらその特色を理解する。二次世界大戦後の国際政治の動向について理解する。冷戦後の国際社会における諸課題を理解し、その解決について考察する。	10	
11						
12	現代の国際経済	10	東京書籍『政治・経済』 第一学習社『最新政治・経済資料集2024』	国際経済を貿易の面から捉え、国際分業と自由貿易の意義および国際収支と外国為替の基本的しくみを理解する。 第二次世界大戦後の国際経済秩序について、その成立と変容を理解する。 国際経済と日本経済の関係について理解するとともに、国際経済の中で日本が果たすべき役割について考察する。	10	
1	現代日本の諸課題	10	東京書籍『政治・経済』 第一学習社『最新政治・経済資料集2024』	少子高齢化問題、中小企業問題、財政問題、食料・農業問題について、現状を理解するとともに今後を展望し、対応策を考察する。	10	【3学期】 定期考査 レポート ワークシート (記述の確認) 授業での取り組み、 振り返りシート (行動の確認)
2	国際社会の諸課題	8	東京書籍『政治・経済』 第一学習社『最新政治・経済資料集2024』	地球環境問題および民族問題について、個々の問題の内容や現状を理解し、解決に向けての方策を考察する。	8	

計96時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

毎学期、2回程度のノート提出を求めます。
毎学期、1回程度のレポート提出を求めます。
毎学期末、振り返りシートの提出を求めます。

8 担当者からの一言

現実に社会で起きている事象に目を向け、関心を高めよう。そのためにも、毎日、新聞やニュースに触れましょう。興味のあるテーマについては、新書などを読み、理解と考察を深めよう。

教科(科目)	公民 (公共セミナー1)	単位数	2単位	学年	3学年 (普通科)
使用準教科書	高等学校新倫理 (清水書院)、高等学校公共 (第一学習社)、歴史総合近代から現代へ (山川出版社)				
副教材等	最新図説倫理 (浜島書店)				

1 学習目標

現代の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる概念や理論について理解するとともに、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究する活動を通して、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。広い視野に立って、グローバル化する国際社会に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

2 指導の重点

2年次までに学習した内容を総合的に復習することで理解を深め、他の科目と関連させた多角的な考察力を養う。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。 諸資料から、人間としての在り方生き方に関する情報を調べまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自立した人間として、他者と共によりよく生きる自己の生き方について、より深く思索している。 現代の倫理的諸課題を解決するために地歴・公民科に関する概念や理論などを活用して、理論的に思考し、説明したり対話したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成している。 多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深めている

4 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 レポートやワークシートなどの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 レポートやワークシートなどの内容の確認 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。 成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：4：2となります。		

5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5 6	国際社会 に生きる 日本人	14 abc	高等学校新倫理 (清水書院)、 高等学校公共(第 一学習社)、 歴史総合近代か ら現代へ(山川出 版社)、最新図説 倫理(浜島書店)	日本人の人間観、自然観、宗教観の特 質を、日本人の心情や考え方と風土 との関わり、また日本的な美意識や 自然との関わりに着目して、他科目 での既習事項と照らし合わせなが ら、日本人としての自己意識と結び 付けて、理解させる。	14	授業態度 課題の提出 定期考査
7 8 9	徳・愛・ 幸福につ いて	18 abc	高等学校新倫理 (清水書院)、 高等学校公共(第 一学習社)、 歴史総合近代か ら現代へ(山川出 版社)、最新図説 倫理(浜島書店)	幸福、愛、徳に着目し、他科目の既習 事項と絡めながら、人間としての在 り方生き方についての思索を深め る。	18	授業態度 課題の提出 定期考査
10 11 12	善、正義、義務 について	20 abc	高等学校新倫理 (清水書院)、 高等学校公共(第 一学習社)、 歴史総合近代か ら現代へ(山川出 版社)、最新図説 倫理(浜島書店)	善、正義、義務などに着目し、他科目 の既習事項と絡めながら、良識ある 公民とはいかに在るべきか、いかに 生きるべきかという自己の課題につ いて、多面的・多角的に考察させる。	20	授業態度 課題の提出 定期考査
1 2 3	現代にお ける諸課 題の探究	12 abc	高等学校新倫理 (清水書院)、 高等学校公共(第 一学習社)、 歴史総合近代か ら現代へ(山川出 版社)、最新図説 倫理(浜島書店)	現代における諸課題を取り上げ、科 目横断的に探究を行う。	12	授業態度 課題の提出 定期考査

計 64時間 (55分授業)

6 課題・提出物等

学期ごとのレポート、授業で使用するワークシートの提出を求めます。

7 担当者からの一言

これまで学んだ内容をつなげ、活用できるよう、他者との対話を通して知識を深めていきます。主体的に取り組んでください。

教科(科目)	公民 (公共セミナー2)	単位数	2単位	学年	3学年 (普通科)
使用準教科書	高等学校公共 (第一学習社)、政治・経済 (東京書籍)、歴史総合近代から現代へ (山川出版社)				
副教材等	最新政治経済資料集 (第一学習社)、フォーラム公共 (東京法令出版)				

1 学習目標

政治、経済、国際関係などを客観的に理解し、社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、世界の諸課題について世界市民の一人として主体的に考察する。また、世界との相互理解を深めるために、事象を多面的・多角的にとらえて公正に判断できる力を身に付ける。さらに、論点を整理し、問題の所在と解決の方向性を、自分の言葉で説明できる表現力を培う。

2 指導の重点

- ①公共や歴史総合で学習した基礎的な知識・理解を土台として、現代の諸課題について主体的に考察できる力を身に付けることをめざす。
- ②持続可能な地球社会の構築に向けて、日本が国際社会の中でどのような責任を果たしていくべきかという視点を交えて考察する。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
<ul style="list-style-type: none"> ・今日の諸課題について、歴史的事象と公民的知識を関連づけて理解している ・知識を体系化し、持続可能な社会の実現への課題について探究している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の諸問題を、幸福・正義・公正の視点から考察している。 ・考察結果をまとめ、自分の言葉で適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の様々な出来事や動きについて関心を持ち、意欲的に課題を追究している。 ・他の生徒と積極的に意見交換している。

4 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認 などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。 成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、 4：4：2となります。		

5 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5 6 7	(1) 二つの世界大戦と平和の構築 (2) 三つの世界と日本の役割	20 abc	高等学校公共(第一学習社)、政治・経済(東京書籍)、歴史総合近代から現代へ(山川出版社)	1) 国際社会と国際法 ・ウエストファリア条約の歴史的背景を概観しつつ、国際法の意義と今日的課題を考察する。 2) 国際機構 ・各種国際機構設立の歴史的背景を概観しつつ、国際機構の機能と今日的課題を考察する。 1) 三つの世界 ・東西冷戦、アジアとアフリカの自立を理解するとともに、核兵器問題や発展途上地域が抱える課題について考察する。 2) 国際政治の中の日本 ・戦後日本の外交、国際平和への貢献、日本のODAを理解するとともに、今後、日本が国際社会において果たすべき役割を考察する。 3) 探究活動 ・2)の考察結果をグループごとに発表し、意見交換をする。	20	授業態度 課題の提出 定期考査
8 9 10 11	(3) 地球社会への歩みと日本の役割	24 abc	高等学校公共(第一学習社)、政治・経済(東京書籍)、歴史総合近代から現代へ(山川出版社)	1) 国際経済のしくみと地域経済統合 ・貿易の発展の歴史を概観しつつ、国際収支や為替相場のしくみを理解する。 ・地域的経済統合の進展を理解するとともに、日本と諸外国の経済連携のあり方を考察する。 2) 国際経済格差と国際協力 ・南北問題、南南問題を歴史的背景を踏まえて理解するとともに、格差の解消に向けた国際協力、支援のあり方を考察する。 3) 探究活動 ・1)、2)の考察結果をグループごとに発表し、意見交換をする。	24	授業態度 課題の提出 定期考査
12 1 2 3	(4) 現代における諸課題の研究	20 abc	高等学校公共(第一学習社)、政治・経済(東京書籍)、歴史総合近代から現代へ(山川出版社)	1) 現代における諸課題 地球環境や資源・エネルギーをめぐる問題、生命倫理、情報、国際社会を歴史的経緯を踏まえて理解するとともに、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について、「結果」と「義務」の視点を元に考察する。 2) 探究活動 1)の考察結果をグループごとに発表し、グループ内でその課題に対する望ましい改善策を考案する。	20	授業態度 課題の提出 定期考査

計64時間(55分授業)

6 課題・提出物等

- ①テーマごとに、考察結果をレポートにまとめて提出する。
- ②各学期、1～2テーマについてグループ単位で考察し、考察結果をグループごとに発表し、意見交換を行う。
- ③長期休業中に、学習テーマに沿った新書を読んだり、テレビや新聞に掲載されている記事や情報を収集し、レポートを提出する。

7 担当者からの一言

現在の諸課題は、歴史的な背景深く結びついています。歴史的な背景を学ぶことで、その課題に対する理解が深まり、改善策の方向性も見えてきます。自分の考えを他者に伝えることで、さらに理解が深まります。表現する大切さを感じながら学習していきましょう。

教科(科目)	数学(数学I)	単位数	3単位	学年	1学年(普通科)
使用教科書	東京書籍『数学I Advanced』				
副教材等	東京書籍『STAGE 数学I+A』 東京書籍『NEW ACTION FRONTIER 数学I+A』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 数と式、2次関数、図形と計量、場合の数と確率、図形の性質およびデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>

3 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の徹底 基本的事項については、反復練習などによって全員が理解できるよう指導する。 ・学習習慣の確立 課題を細かく出して点検することによって、毎日の家庭学習の習慣を確立させる。 ・きめ細かな指導 基本的事項から発展的内容まで、個々に応じたきめ細かな指導を展開する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・数学と人間の活動の関係について認識を深めようとしている。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的に見たり目的に応じて適切に変形しようとしている。 ・関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察している。 ・不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断しようとしている。 ・数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察している。 ・社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 観察、実験、式やグラフでの表現の観察 レポートやワークシート、確認テスト、提出物などの内容の確認などから、評価します。 	<ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 レポートやワークシート、確認テスト、提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析などから、評価します。 	<ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析などから、評価します。
	<p>内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：3：3となります。</p>		

6 学習計画

月	単元名	授業時数	学習活動(指導内容)	評価方法
4	1章 数と式 1節 式の計算	3	<ul style="list-style-type: none"> 式についての用語の意味を理解する。また、特定の文字や式の次数への着目を通して、式について多様な見方をすることができる。 多項式の加法・減法、指数法則、多項式の乗法について基本的な計算ができる。また、2次の乗法公式を理解し、見直しをもって式を展開することができる。 乗法公式と関連付けながら因数分解の公式を理解し、たすき掛けを含む因数分解ができる。また、見直しをもって式を因数分解することができる。 	ワークシート (記述の確認) 振り返りシート (記述の点検) 確認テスト
4	1章 数と式 2節 実数	4	<ul style="list-style-type: none"> 中学校までに学習した数を分類、統合し、実数について理解する。また、絶対値の定義を数直線と関連づけて理解し、絶対値の性質について理解する。 平方根の定義を理解し、根号を含む式の計算をすることができる。また、分母の有理化を理解し、分母に根号を含む基本的な分数について有理化したり計算したりすることができる。 	授業・課題の取り組み状況 等をもとに総合的に評価します。
5	1章 数と式 3節 1次不等式	7	<ul style="list-style-type: none"> 不等式の意味を理解し、等式の性質と関連付けながら不等式の性質を考察することができる。 不等式を解くことの意味を理解する。また、不等式の性質をもとに1次不等式を解く方法を考察するとともに、その解を求めることができる。 連立不等式を解いたり、1次不等式を日常の事象の問題解決に活用したりすることができる。また、絶対値記号を含む基本的な方程式・不等式を解くことができる。 	
5	2章 集合と論証 1節 集合	7	<ul style="list-style-type: none"> 集合に関する基本的な概念を理解し、集合と要素の関係や集合どうしの関係について記号や図を用いて適切に表現することができる。また、ド・モルガンの法則を理解し、利用することができる。 	
5	定期考査	1		ペーパーテスト
6	3章 2次関数 1節 関数とグラフ	7	<ul style="list-style-type: none"> 関数についての基本的な概念を理解する。また、定義域が制限された1次関数の最大値・最小値を、グラフを利用して求めることができる。 中学校で学んだ$y=ax^2$のグラフをもとに、一般の2次関数$y=ax^2+bx+c$のグラフを書く方法を考察することができる。 定義域に応じて、2次関数の最大値・最小値を、グラフを利用して求めることができる。また、日常の事象の問題解決に2次関数を活用することができる。 2次関数のグラフについて、与えられた条件を満たす2次関数を求めることができる。 2次関数のグラフについて学んだことを振り返り、2次関数$y=ax^2+bx+c$の各係数の変化とグラフの変化の関係を多面的に考察し、その結果を説明することができる。 	ワークシート (記述の確認) 振り返りシート (記述の点検) 確認テスト 授業・課題の取り組み状況
6	3章 2次関数 2節 2次方程式・2次不等式	8	<ul style="list-style-type: none"> 因数分解や解の公式を用いて、2次方程式の解を求めることができる。 2次方程式$ax^2+bx+c=0$の実数解の個数と判別式$D=b^2-4ac$の符号との関係を理解する。 2次関数のグラフとx軸の共有点の個数と、判別式Dの符号との関係を理解する。 関数のグラフを利用して不等式を解く方法を理解し、2次不等式を2次関数のグラフを利用して解くことができる。 2次不等式を含む連立不等式を解くことができる。また、2次不等式を日常の事象の問題解決に活用することができる。 	等をもとに総合的に評価します。
7	定期考査	1		ペーパーテスト
7	2章 集合と論証 2節 命題と論証	8	<ul style="list-style-type: none"> 命題や条件に関する基本的な概念を理解する。また、命題の真偽や条件どうしの関係を、条件が満たすもの全体の集合の包含関係と関連付けて考えることができる。 命題の逆・裏・対偶を理解し、対偶を利用した証明法や背理法を用いて簡単な証明をすることができる。 	ワークシート 確認テスト 等

8	課題考査	1		ペーパーテスト
8	課題学習	2	・ここまでの数学Iで学習した「数と式」、「集合と論理」、「2次関数」と関連する身近な課題について主体的に学習し、数学のよさを認識する。	ワークシート
9	4章 図形と計量 1節 鋭角の三角比	4	・鋭角の三角比の意味を三角形の構成要素間の関係に関連付けて理解し、様々な場面に应用することができる。 ・三角比の相互関係や $90^\circ - A$ の三角比について理解する。	ワークシート 振り返りシート 確認テスト
9	4章 図形と計量 2節 三角比の拡張	7	・三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、 0° から 180° までの三角比を求める方法を理解する。また、三角比のとりに得る値の範囲や直線の傾きと正接の関係について理解する。 ・拡張した三角比の相互関係や $180^\circ - \theta$ の三角比について理解する。	授業・課題の取り組み状況 等をもとに総合的に評価します。
10	定期考査	1		ペーパーテスト
10	4章 図形と計量 3節 三角形への応用	7	・三角形の辺と角、外接円の半径の間に成り立つ関係を考え、正弦定理を導くことができる。また、三角形の決定条件と関連付けて正弦定理を理解し、利用することができる。 ・三平方の定理の拡張として、三角形の辺と角の間に成り立つ関係を考え、余弦定理を導くことができる。また、三角形の決定条件と関連付けて余弦定理を理解し、利用することができる。 ・三角形の面積を、三角比を用いて表す方法を理解する。また、円に内接する四角形の面積を求めることができる。 ・空間図形の構成要素に着目して、三角比を空間図形の計量に応用することができる。	ワークシート 振り返りシート 確認テスト 授業・課題の取り組み状況 等をもとに総合的に評価します。
11	5章 データの分析 1節 データの散らばりの大きさ	3	・ヒストグラムや箱ひげ図といったデータを整理する方法について理解し、それらからデータの傾向を把握することができる。 ・データの散らばり具合を数値で表す方法の考察を通して偏差、分散、標準偏差を理解し、それらの値を求めることができる。また、分散や標準偏差を利用して複数のデータの散らばりの大きさを比較することができる。 ・変量を変換した際に分散、標準偏差の値がどのように変化するかを考察し、それらの性質を利用することができる。	
12	定期考査	1		ペーパーテスト
12	5章 データの分析 2節 データの相関	5	・2つの変量の組からなるデータについて、散布図および相関係数を用いて相関関係を捉えることができる。また、外れ値を知り、外れ値の統計量への影響について理解する。	ワークシート 振り返りシート 確認テスト
1	5章 データの分析 3節 データの分析の応用	6	・統計的手法を用いた問題解決の枠組みについて知る。また、目的に応じて複数のデータを収集し、適切な統計量やグラフや手法を選択して分析を行い、データの傾向を把握して問題解決に利用することができる。	授業・課題の取り組み状況 等をもとに総合的に評価します。
2	5章 データの分析 4節 仮説検定の考え方	3	・仮説検定の考え方を理解し、仮説検定の考え方を利用して不確実な事象に関する主張の妥当性について考察することができる。	
2	定期考査	1		ペーパーテスト
3	5章 データの分析 4節 仮説検定の考え方	3	・仮説検定の考え方を理解し、仮説検定の考え方を利用して不確実な事象に関する主張の妥当性について考察することができる。	ワークシート 振り返りシート 確認テスト 授業・課題の取り組み状況 等

計 90時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

- ・単元ごとに確認テストを実施します。
- ・振り返りシートを適宜提出してもらいます。
- ・授業の中でレポート等を提出してもらうことがあります。
- ・授業の中でグループワークを行い、成果物の提出を求めることがあります。
- ・提出物は ①授業ごとの課題、②週末課題、③考査課題、④長期休業課題、⑤考査等解き直し 等があります。

8 担当者からの一言

数学は積み重ねが大切な科目です。

- ・授業内容が1番重要です。毎時間関心を持ち意欲的に取り組んでください。
- ・数学の内容はつながっています。授業後はしっかり復習して、内容を定着させましょう。
- ・チャイムが鳴るまでに着席して授業の準備をし、前回までの内容を思い出しておきましょう。
- ・余裕があれば、家庭学習で次回にやる内容の予習をしておきましょう。

以上のことを意識して、授業に臨んでください。数学は積み重ねの科目ですから、途中が抜けると積み重ねられません。わからないことは、「すぐに」「どんどん」質問してください。『聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥』です。

教科(科目)	数学(数学A)	単位数	2単位	学年	1学年(普通科)
使用教科書	東京書籍『数学A Advanced』				
副教材等	東京書籍『STAGE 数学I+A』 東京書籍『NEW ACTION FRONTIER 数学I+A』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 図形の構成要素間関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。(1)数と式、2次関数、図形と計量、場合の数と確率、図形の性質およびデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p>

3 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の徹底 基本的事項については、反復練習などによって全員が理解できるよう指導する。 ・学習習慣の確立 課題を細かく出して点検することによって、毎日の家庭学習の習慣を確立させる。 ・きめ細かな指導 基本的事項から発展的内容まで、個々に応じたきめ細かな指導を展開する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・数学と人間の活動の関係について認識を深めている。 ・事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の構成要素間関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察することができる。 ・不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断することができる。 ・数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し数学を活用しようしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 観察、実験、式やグラフでの表現の観察 レポートやワークシート、確認テスト、提出物などの内容の確認などから、評価します。 	<ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 レポートやワークシート、確認テスト、提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析などから、評価します。 	<ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析などから、評価します。
	<p>内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：3：3となります。</p>		

6 学習計画

月	単元名	授業時数	学習活動(指導内容)	評価方法
4	1章 場合の数と確率 1節 場合の数	12	<ul style="list-style-type: none"> 集合の要素の個数に関する基本的な関係を理解し、日常の事象の問題解決に活用することができる。 樹形図を用いた数え上げや、和の法則、積の法則という数え上げの原則を理解し、場合の数を求めることができる。 順列の意味を理解し、その総数を求めることができる。また、状況に応じて、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 組合せの意味を理解し、その総数を求めることができる。また、状況に応じて、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 	ワークシート (記述の確認) 振り返りシート (記述の点検) 確認テスト
5				授業・課題の取り組み状況 等をもとに総合的に評価します。
6	1章 場合の数と確率 2節 確率とその基本性質	6	<ul style="list-style-type: none"> 事象という観点から確率を捉え直し、確率の意味を理解する。 確率の基本性質について集合と関連付けながら理解し、性質を利用して確率を求めることができる。 	授業・課題の取り組み状況 等をもとに総合的に評価します。
7	定期考査	1		ペーパーテスト
7	1章 場合の数と確率 3節 いろいろな確率	10	<ul style="list-style-type: none"> 独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めることができる。また、状況に応じて、確率を求める方法を多面的に考察することができる。 反復試行の意味を理解し、反復試行の確率を求めることができる。また、状況に応じて、確率を求める方法を多面的に考察することができる。 条件付き確率の意味と確率の乗法定理について理解し、条件付き確率を求めることができる。また、状況に応じて、確率を求める方法を多面的に考察することができる。 期待値の意味を理解し、期待値を求めることができる。また、期待値を意思決定に活用することができる。 くじに当たる確率について学んだことを振り返り、くじを引く人の数が増えた場合の確率について、様々な方法で考察することができる。 	ワークシート (記述の確認) 振り返りシート (記述の点検) 確認テスト
8				授業・課題の取り組み状況 等をもとに総合的に評価します。
9				授業・課題の取り組み状況 等をもとに総合的に評価します。
10	定期考査	1		ペーパーテスト
10	2章 図形の性質 1節 三角形の性質	10	<ul style="list-style-type: none"> 内分や外分について理解する。また、三角形の重心の定理について理解する。 三角形の外心の定理、三角形の垂心の定理について理解する。また、三角形の重心・外心・垂心の関係について、論理的に考察し説明することができる。 角の二等分線と比の定理について理解する。また、三角形の内心の定理について理解する。 メネラウスの定理、チェバの定理について理解し、論理的に考察し説明することができる。 	ワークシート (記述の確認) 振り返りシート (記述の点検) 確認テスト
11	2章 図形の性質 2節 円の性質	10	<ul style="list-style-type: none"> 同一円周上にある点を結んでできる角についての様々な定理を理解し、利用することができる。また、これらの定理の関係について、統合的に考察することができる。 接線の長さの定理、方べきの定理とその逆について理解する。 2つの円の位置関係とそれらの共通接線について理解する。 平行線の作図、内分点の作図、平方根の作図について理解する。 	授業・課題の取り組み状況 等をもとに総合的に評価します。
12	定期考査	1		ペーパーテスト
1	2章 図形の性質 3節 空間図形	6	<ul style="list-style-type: none"> 空間における直線と平面の基本的な性質について理解する。また、直線と平面の垂直条件、三垂線の定理について理解する。 正四面体の性質について、論理的に考察し説明することができる。 	ワークシート 振り返りシート 確認テスト 等

2	3章 数学と人間の活動 1節 生きている数学	2	・日常の事象を数学の考えを用いて考察し、問題解決にそれらを利用することができる。また、平面や空間において点の位置を表す座標の考え方と人間の活動との関わりについて理解する。 ・歴史的な話題を通して数学と文化との関わりについての理解を深め、数量や図形に関する概念などと人間の活動との関わりについて理解したり、目的に応じて考察したりする。	ワークシート 振り返りシート 確認テスト 授業・課題の取り組み状況 等をもとに総合的に評価します。
2	定期考査	1		ペーパーテスト
3	3章 数学と人間の生活 2節 考える楽しみ	2	・パズルやゲームなどに数学的な要素を見だし、目的に応じて考察することができる。また、数理的なゲームやパズルを通して、数学と文化との関わりについての理解を深める。 ・約数や倍数、ユークリッドの互除法、2進法などの整数の性質と人間の活動との関わりについて理解する。また、それらの整数の性質について、関心に基づいて発展させ考察することができる。	ワークシート 振り返りシート 確認テスト 授業・課題の取り組み状況 等をもとに総合的に評価します。

計 64時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

- ・单元ごとに確認テストを実施します。
- ・振り返りシートを適宜提出してもらいます。
- ・授業の中でレポート等を提出してもらうことがあります。
- ・授業の中でグループワークを行い、成果物の提出を求めることがあります。
- ・提出物は ①授業ごとの課題、②週末課題、③考査課題、④長期休業課題、⑤考査等解き直し 等があります。

8 担当者からの一言

数学は積み重ねが大切な科目です。

- ・授業内容が1番重要です。毎時間関心を持ち意欲的に取り組んでください。
- ・数学の内容はつながっています。授業後はしっかり復習して、内容を定着させましょう。
- ・チャイムが鳴るまでに着席して授業の準備をし、前回までの内容を思い出しておきましょう。
- ・余裕があれば、家庭学習で次回にやる内容の予習をしておきましょう。

以上のことを意識して、授業に臨んでください。数学は積み重ねの科目ですから、途中が抜けると積み重ねられません。わからないことは、「すぐに」「どんどん」質問してください。『聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥』です

教科(科目)	数学（数学Ⅱ）	単位数	4単位	学年	2学年（普通科）
使用教科書	東京書籍『数学Ⅱ Advanced』				
副教材等	東京書籍『STAGE 数学Ⅱ+B』 東京書籍『NEW ACTION FRONTIER 数学Ⅱ+B』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。 ②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。 ③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。 ②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。 ③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。 ④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。 ⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2) 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統一的・発展的に考察したりする力を養う。

(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の徹底 ・学習習慣の確立 ・きめ細かな指導 	<p>基本的事項については、反復練習などによって全員が理解できるよう指導する。</p> <p>課題を細かく出して点検することによって、毎日の家庭学習の習慣を確立させる。</p> <p>基本的事項から発展的内容まで、個々に応じたきめ細かな指導を展開する。</p>
---	--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察している。 ・座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察している。 ・関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察している。 ・関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統一的・発展的に考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し数学を活用しようしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

5 評価方法

評 価 方 法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価する。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価する。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価する。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価する。 成績は100点法で評価する。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：3：3である。		

6 学習計画

月	単元名	授業 時数	学習活動(指導内容)	評価方法
4	1章 方程式・式と証明 1節 多項式の乗法・除法 と分数式	7	<ul style="list-style-type: none"> ・3次式の乗法公式と因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をすることができる。 ・二項定理について理解し、応用することができる。 ・多項式の除法について整数の除法と関連付けながら理解し、計算することができる。 ・分数式の四則計算の方法を理解し、簡単な場合について計算することができる。 	レポート ワークシート 提出物 ペーパーテスト などから、総合的に評価する。
4	2節 2次方程式	9	<ul style="list-style-type: none"> ・数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をすることができる。 ・解の範囲を複素数まで拡張したときの2次方程式の解の公式や解の判別について理解する。 ・2次方程式の解と係数の関係、2次式の因数分解について理解し、応用することができる。 	
5	3節 高次方程式	6	<ul style="list-style-type: none"> ・剰余の定理、因数定理について理解し、多項式の除法や因数分解に応用することができる。 ・さまざまな高次方程式を、因数分解や因数定理を用いて解くことができる。 	
5	4節 式と証明	9	<ul style="list-style-type: none"> ・恒等式について理解する。また、等式の性質をもとに、等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。 ・不等式の性質や実数の性質をもとに、不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。 	

6	2章 図形と方程式 1節 点と直線	10	<ul style="list-style-type: none"> 座標を用いて、数直線上、座標平面上の2点間の距離を表すことができる。 座標を用いて、数直線上、座標平面上の内分点・外分点の位置を表すことができる。 座標平面上の直線が1次方程式で表されることを理解する。また、与えられた条件を満たす直線の方程式を求めることができる。 座標平面上の2直線の関係について、方程式を用いて考察することができる。また、点と直線の距離や図形の性質についても、座標や方程式を用いて考察することができる。 	レポート ワークシート 提出物 ペーパーテスト などから、総合的に評価する。
6	2節 円	8	<ul style="list-style-type: none"> 座標平面上の円がどのように表されるかを理解する。また、与えられた条件を満たす円の方程式を求めることができる。 座標平面上の円と直線の位置関係について、方程式を用いて考察することができる。 座標平面上の2つの円の位置関係について、方程式を用いて考察することができる。 	
7	3節 軌跡と領域	9	<ul style="list-style-type: none"> 軌跡について理解し、さまざまな軌跡の方程式を求めることができる。 不等式の表す領域について理解し、不等式の表す領域を図示することができる。また、命題の証明に領域を応用することができる。 不等式の表す領域を日常の事象の問題解決に活用することができる。 	
8 9	3章 三角関数 1節 三角関数	13	<ul style="list-style-type: none"> 一般角および弧度法を理解し、弧度法を利用して扇形の弧の長さや面積を求めることができる。 三角比の拡張として三角関数の定義を理解し、三角関数の符号やとり得る値の範囲について考察することができる。 三角比の相互関係の拡張として三角関数の相互関係性を理解する。また、相互関係の公式を用いて簡単な式の値を求めたり、三角関数の性質について理解を深めたりすることができる。 単位円を利用して三角関数のグラフを考察し、その周期性や対称性について三角関数の性質と対応させて理解する。また、定数倍や平行移動や周期に着目して、様々な三角関数のグラフをかくことができる。 三角関数を含む方程式や不等式について単位円やグラフと関連させながらその解を求めることができる。 三角関数を、日常の事象の問題解決に活用することができる。 	

10	2節 加法定理	11	<ul style="list-style-type: none"> ・加法定理について理解し, ある加法定理を利用して他の加法定理を導くことができる。また, 15°, 75°, 105° などを2つの角の和や差と見なして三角関数の値を求めることができる。 ・加法定理の応用として2倍角の公式や半角の公式を導き, それらを方程式・不等式を解くときに利用することができる。 ・三角関数の合成について理解し, それを関数の最大値・最小値や方程式の解を求めるときに利用することができる。 ・三角関数を, 日常の事象の問題解決に活用することができる。 	レポート ワークシート 提出物 ペーパーテスト などから, 総合的に評価する。
11	4章 指数関数・対数関数 1節 指数関数	7	<ul style="list-style-type: none"> ・指数を整数の範囲に拡張しても指数法則が成り立つように, 指数が0や負の整数の場合について考察することができる。 ・累乗根の意味を理解し, 基本的な累乗根の計算ができる。 ・累乗の指数について, 整数から有理数, 実数の範囲に拡張できることを理解する。また, 指数法則を利用して累乗や累乗根を含む式を計算することができる。 ・指数関数の値の変化やグラフの特徴について, 表の観察や他のグラフとの比較を通して理解する。また, 指数関数を含む方程式や不等式を解くことができる。 	
12	2節 対数関数 1	10	<ul style="list-style-type: none"> ・指数関数と関連づけながら対数の定義を理解し, 指数法則と関連づけながら対数の基本的な性質について理解する。また, 対数を含む簡単な式の計算ができる。 ・対数関数の値の変化やグラフの特徴について, 指数関数のグラフと関連づけながら理解する。また, 対数関数を含む方程式や不等式を解くことができる。 ・よく用いられる対数として常用対数を理解し, 常用対数表を利用して自然数の累乗の桁数を求めたり日常に関する問題を解決したりすることができる。 ・常用対数の学習を振り返り, 自然数の累乗の値についてより詳しく調べる方法について考察する。 ・指数関数・対数関数を, 日常の事象の問題解決に活用することができる。 	
2	5章 微分と積分 1節 微分係数と導関数	7	<ul style="list-style-type: none"> ・平均の速さや瞬間の速さといった身の回りの事象と関連付けながら, 平均変化率や微分係数について, その図形的な意味も含めて理解する。 ・微分係数を関数的に捉えることで導関数の定義を理解し, 関数の定数倍, 和差の導関数について考察したり簡単な関数を微分したりすることができる。 	

2 3	2節 導関数の応用	9	<ul style="list-style-type: none"> ・微分係数を利用して、曲線の接線の方程式を求めることができる。 ・導関数の符号と関連づけて関数の増加・減少を調べることができる。さらに、関数の極値について理解し、増減表を用いてグラフをかくことができる。 ・増減表を利用して区間における関数の最大値・最小値を求めることができる。また、それを日常の事象の問題解決に活用することができる。 ・関数のグラフと x 軸や直線 $y=a$ の関係に着目し、方程式の解の個数を求めたり、不等式を証明したりすることができる。 ・微分を用いて箱の容積といった具体的な量を求める学習を振り返り、式と関連づけながら条件を変えた場合の量の変化について考察する。 	レポート ワークシート 提出物 ペーパーテスト などから、総合的に評価する。
3	3節 積分	13	<ul style="list-style-type: none"> ・微分法の逆演算として不定積分を理解し、定数倍、和・差の不定積分について考察したり、簡単な関数の不定積分を求めたりすることができる。 ・定積分の定義を理解し、定数倍、和・差の定積分の値を求めたり、定積分の性質について考察したりすることができる。また、定積分と微分の関係について理解する。 ・定積分の図形的な意味を理解し、曲線や直線で囲まれた図形の面積を定積分を利用して求めることができる。 	

計 128 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・单元ごとに单元テストを実施します。
- ・授業の中で振り返りシートを適宜提出してもらいます。
- ・授業の中でレポート等を提出してもらうことがあります。
- ・授業の中でグループワークを行い、成果物の提出を求めることがあります。
- ・提出物は ①授業ごとの課題、②週末課題、③考査課題、④長期休業課題、⑤考査等解き直し 等があります。

8 担当者からの一言

数学は積み重ねが大切な科目です。

- ・授業内容が1番重要です。毎時間関心を持ち意欲的に取り組んでください。
- ・数学の内容はつながっています。授業後はしっかり復習して、内容を定着させましょう。
- ・チャイムが鳴るまでに着席して授業の準備をし、前回までの内容を思い出しおきましょう。
- ・余裕があれば、家庭学習で次回にやる内容の予習をしておきましょう。

以上のことを意識して、授業に臨んでください。数学は積み重ねの科目ですから、途中が抜けると積み重ねられません。わからないことは、「すぐに」「どんどん」質問してください。

教科(科目)	数学（数学B）	単位数	1単位	学年	2学年（普通科）
使用教科書	東京書籍『数学B Advanced』				
副教材等	東京書籍『STAGE 数学II+B』 東京書籍『NEW ACTION FRONTIER 数学II+B』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2) 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。

(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3 指導の重点

- ・基礎・基本の徹底 基本的事項については、反復練習などによって全員が理解できるよう指導する。
- ・学習習慣の確立 課題を細かく出して点検することによって、毎日の家庭学習の習慣を確立させる。
- ・きめ細かな指導 基本的事項から発展的内容まで、個々に応じたきめ細かな指導を展開する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察している。 ・座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察している。 ・関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察している。 ・関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し数学を活用しようしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

5 評価方法

評 価 方 法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価する。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価する。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価する。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価する。 成績は100点法で評価する。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：3：3である。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数	学習活動(指導内容)	評価方法
4	1章 数列	19	・等差数列、等比数列について理解し、一般項や和を求めることができる。	レポート ワークシート 提出物 ペーパーテスト などから、総合的に評価する。
5	1節 数列		・和の記号 Σ について理解し、一般項が3次以下の多項式で表される数列の和を求めることができる。	
6			・階差数列について理解する。いろいろな数列の和や、群数列について考察することができる。	
7			・数列の和について学んだことを振り返り、数列の和の求め方について統合的・発展的に考察することができる。	
7	2節 漸化式と数学的帰納法	13	・漸化式について理解し、さまざまな事象の考察に応用することができる。	
8			・数学的帰納法について理解し、数学的帰納法を用いてさまざまな命題を証明することができる。	
9			・漸化式について学んだことを振り返り、多面的に考察することができる。 ・数列を日常の事象の問題解決に活用することができる。	

計32時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

- ・単元ごとに単元テストを実施します。
- ・授業の中で振り返りシートを適宜提出してもらいます。
- ・授業の中でレポート等を提出してもらうことがあります。
- ・授業の中でグループワークを行い、成果物の提出を求めることがあります。
- ・提出物は ①授業ごとの課題、②週末課題、③考査課題、④長期休業課題、⑤考査等解き直し 等があります。

8 担当者からの一言

数学は積み重ねが大切な科目です。

- ・授業内容が1番重要です。毎時間関心を持ち意欲的に取り組んでください。
- ・数学の内容はつながっています。授業後はしっかり復習して、内容を定着させましょう。
- ・チャイムが鳴るまでに着席して授業の準備をし、前回までの内容を思い出しておきましょう。
- ・余裕があれば、家庭学習で次回にやる内容の予習をしておきましょう。

以上のことを意識して、授業に臨んでください。数学は積み重ねの科目ですから、途中が抜けると積み重ねられません。わからないことは、「すぐに」「どんどん」質問してください。

教科(科目)	数学（数学C）	単位数	1単位	学年	2学年（普通科）
使用教科書	東京書籍『数学C Advanced』				
副教材等	東京書籍『STAGE 数学C』 東京書籍『NEW ACTION FRONTIER 数学C』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>
--

3 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の徹底 ・学習習慣の確立 ・きめ細かな指導 	<p>基本的事項については、反復練習などによって全員が理解できるよう指導する。</p> <p>課題を細かく出して点検することによって、毎日の家庭学習の習慣を確立させる。</p> <p>基本的事項から発展的内容まで、個々に応じたきめ細かな指導を展開する。</p>
---	--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察している。 ・座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察している。 ・関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察している。 ・関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し数学を活用しようしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価する。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価する。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価する。
内容のまとめりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価する。 成績は100点法で評価する。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：3：3である。			

6 学習計画

月	単元名	授業時数	学習活動(指導内容)	評価方法
10 11	1章 ベクトル 1節 平面上のベクトル	10	<ul style="list-style-type: none"> ベクトルの意味、相等などについて理解する。 ベクトルの和、差、実数倍、平行、分解について理解し、それらを図示したり求めたりすることができる。また、多項式の演算法則と関連付けて、ベクトルの演算法則を考察することができる。 ベクトルの成分表示について理解し、演算、分解、平行についての問題を成分表示を利用して解くことができる。 ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解し、様々な場面に应用することができる。 ベクトルの内積について学んだことを振り返り、平面図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりすることができる。 	レポート ワークシート 提出物 ペーパーテスト などから、総合的に評価する。
12 1	2節 ベクトルの応用	10	<ul style="list-style-type: none"> 位置ベクトルについて理解し、点の位置や図形の性質について考察することができる。 ベクトル方程式について理解する。また、条件を満たす点の存在範囲などについて考察することができる。 直線の法線ベクトルについて学んだことを振り返り、直線 $ax+by=c$ における定数 c が直線に関するどのような条件から定まるかについて考察することができる。 	
2 3	3節 空間におけるベクトル	12	<ul style="list-style-type: none"> 空間の座標について理解し、2点間の距離、座標平面に平行な平面の方程式を求めることができる。 空間におけるベクトルの意味や演算、内積などについて、平面の場合と関連付けながら理解する。 空間における位置ベクトルについて理解し、空間図形の考察に応用することができる。 空間における位置ベクトルについて学んだことを振り返り、四面体の性質を見いだしたり、多面的に考察したりすることができる。 ベクトルを日常の事象の問題解決に活用することができる。 	

計 32 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・单元ごとに单元テストを実施します。
- ・授業の中で振り返りシートを適宜提出してもらいます。
- ・授業の中でレポート等を提出してもらうことがあります。
- ・授業の中でグループワークを行い、成果物の提出を求めることがあります。
- ・提出物は ①授業ごとの課題, ②週末課題, ③考査課題, ④長期休業課題, ⑤考査等解き直し 等があります。

8 担当者からの一言

数学は積み重ねが大切な科目です。

- ・授業内容が1番重要です。毎時間関心を持ち意欲的に取り組んでください。
- ・数学の内容はつながっています。授業後はしっかり復習して、内容を定着させましょう。
- ・チャイムが鳴るまでに着席して授業の準備をし、前回までの内容を思い出しておきましょう。
- ・余裕があれば、家庭学習で次回にやる内容の予習をしておきましょう。

以上のことを意識して、授業に臨んでください。数学は積み重ねの科目ですから、途中が抜けると積み重ねられません。わからないことは、「すぐに」「どんどん」質問してください。

教科(科目)	数学（数学Ⅲ）	単位数	5単位	学年	3学年(普通科)
使用教科書	東京書籍『数学Ⅲ Advanced』				
副教材等	東京書籍『PRIME 数学Ⅲ』、東京書籍『NEWACTION FRONTIER 数学Ⅲ』 東京書籍『STAGE 数学Ⅲ』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。 ②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。 ③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。 ②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。 ③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。 ④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。 ⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

関数と極限、微分法、積分法について理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を育てる。

3 指導の重点

・理科系の大学、学部で充分合格できるレベルまで知識・理解を深めます。
・特に微分法とその応用、積分法とその応用に力を入れ、理解を深めます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察している。 いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統一的・発展的に考察したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 観察、実験、式やグラフでの表現の観察 レポートやワークシート、提出物などの内容の確認などから、評価します。 	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析などから、評価します。 	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析などから、評価します。
内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。 成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に4：3：3となります。			

6 学習計画

※ 評価の観点：a(知識・技能)，b(思考・判断・表現)，c(主体的に学習に取り組む態度)

月	単元名	授業 時数	学習活動(指導内容)	評価の 観点			評価方法
4	1章 関数と極限	[17]					
	2節 数列の極限	(9)					
	1 数列の極限	3	数列の極限の意味を理解し、計算することができる。	a	b		ワークシート
	2 無限等比数列	2	極限を計算することができる。	a			ワークシート
	3 無限級数	1	無限級数の意味を理解し、級数の和を求めることができる。	a	b		ワークシート
	4 無限等比級数	2	無限等比級数の和を求めることができ、循環小数を分数で表すことができる。	a			ワークシート
	5 いろいろな無限級数	1	無限級数の収束・発散を調べ級数の和を計算できる。	A	b		ワークシート
	3節 関数の極限	(8)					
	1 関数の極限	3	関数の極限の意味を理解し、計算できる。	a	b		ワークシート
	2 三角関数と極限	2	三角関数を含んだ関数の極限を計算できる。	a			ワークシート
	3 関数の連続性	2	関数の連続性の定義と中間値の定理を理解し方程式の解の存在に応用できる。	a	b		ワークシート
	[課題学習] 2つの関数の商と差の極限	1	$f(x)/g(x)$ 、 $f(x)-g(x)$ タイプの関数の極限の計算や感覚を考察することができる。			c	レポート
5	2章 微分	[20]					
	1節 微分法	(8)					
	1 導関数	2	微分可能性について理解し、定義に基づいて関数の導関数を求めることができる。また、導関数の基本的な性質を理解する。	a	b		ワークシート
	2 積・商の微分法	2	積、商の導関数について理解し、それらを用いて基本的な関数の導関数を求めることができる。	a			ワークシート
	3 合成関数の微分法	4	合成関数の微分法および逆関数の微分法について理解し、それらを用いていろいろな関数の導関数を求めることができる。	a	b		ワークシート
	定期考査	1		A	b	c	提出物 ペーパーテスト 振り返りシート
	2節 いろいろな関数の導関数	(12)					
	2 対数関数・指数関数の導関数	3	自然対数の底 e を導入し、対数関数の導関数について理解する。また、対数微分法を理解し、それを用いて、指数関数の導関数を求めることができる。	a	b		ワークシート
	3 いろいろな形で表される関数の微分	3	さまざまな曲線について、それを表す方程式を微分して考察することができる。また、媒介変数表示を理解し、媒介変数で表された関数を微分することができる。	a	b		ワークシート
	4 高次導関数	2	高次導関数について理解する。	a	b		ワークシート
	[課題学習] 対数微分法 の様々な利用	2	対数微分法について学んだことを振り返り、統合的・発展的に考察することができる。		b	C	レポート
	3章 微分の応用	[20]					
	1節 接線、関数の増減	(10)					
6	1 接線・法線の方程式	2	曲線の接線の方程式及び法線の方程式を求めることができる。	a	b		ワークシート
	2 平均値の定理	1	平均値の定理の意味を理解し、不等式の証明などに応用することができる。	a	b		ワークシート
	3 関数の増減	1	平均値の定理に基づいて関数の増減について考察することができる。また、関数の増減を調べることができる。	a	b		ワークシート

	4 関数の極大・極小	2	関数の値の変化を調べ、極値を求めることができる。	a	b		ワークシート
	5 第2次導関数とグラフ	3	第2次導関数と曲線の凹凸の関係について理解する。また、関数の増減、極値、グラフの凹凸、変曲点などを踏まえて、関数のグラフの概形をかくことができる。	a	b		ワークシート
	定期考査	1		a	b	c	提出物 ペーパーテスト 振り返りシート
	2節 微分のいろいろな応用	(10)					
7	1 最大・最小	2	微分法を用いて、関数の最大値、最小値を求めることができる。	a	b		ワークシート
	2 方程式・不等式への応用	3	不等式・方程式からつくられた関数の最大・最小やグラフを利用して、不等式・方程式を考察することができる。	a	b		ワークシート
	3 速度・加速度	2	運動する点の速度・加速度が導関数を用いて表現できることを理解する。さらに、いろいろな量の変化率について考察することができる。	a	b		ワークシート
	4 近似式	1	関数の局所的な変化に着目し、近似式の考え方について理解し、近似式や近似値を求めることができる。	a	b		ワークシート
	[課題学習]活用 缶詰の表面積と体積	2	関数の最大・最小について学んだことを問題解決に活用することができる。		b	c	レポート
8	4章 積分とその応用	[36]					
	1節 不定積分	(11)					
	1 不定積分とその基本公式	2	不定積分の基本的な性質について理解し、さまざまな関数の不定積分を求めることができる。	a		c	ワークシート
	2 置換積分法	2	置換積分法について理解し、これを用いてさまざまな関数の不定積分を考察することができる。	a	b	c	ワークシート
9	3 部分積分法	2	部分積分法について理解し、これを用いてさまざまな関数の不定積分を考察することができる。	a	b	c	ワークシート
	4 いろいろな関数の不定積分	2	目的に応じて式を変形するなどして、いろいろな関数の不定積分を考察することができる。	a	b		ワークシート
	[課題学習]不定積分 $\int e^x \sin x dx$, $\int e^x \cos x dx$ を求める	2	不定積分について学んだことを振り返り、統合的・発展的に考察することができる。		b	c	レポート
	定期考査	1		a	b	c	提出物 ペーパーテスト 振り返りシート
	2節 定積分	(14)					
	1 定積分	2	定積分の基本的な性質について理解し、さまざまな関数の定積分を求めることができる。	a		c	ワークシート
	2 定積分の置換積分法	2	定積分の置換積分法について理解し、これを用いてさまざまな関数の定積分を考察することができる。	a		c	ワークシート
	3 定積分の部分積分法	2	定積分の部分積分法について理解し、これを用いてさまざまな関数の定積分を考察することができる。	a		c	ワークシート
10	4 定積分で表された関数	2	積分と微分の関係について理解し、定積分で表された関数について考察することができる。	a	b		ワークシート
	5 定積分と区分求積法	2	区分求積法について理解し、数列の和の極限の考察に応用することができる。	a	b		ワークシート
	6 定積分と不等式	2	定積分と面積の関係を利用して、さまざまな不等式を証明することができる。	a			ワークシート

	〔課題学習〕無限級数 $\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^{\alpha}}$ の収束と発散	2	定積分と不等式について学んだことを振り返り、統合的・発展的に考察することができる。		b	c	レポート
	3節 面積・体積・長さ	(11)					
	1 面積	3	定積分と面積の関係について理解し、さまざまな図形の面積を考察することができる。	a	b	c	ワークシート
	2 体積	3	定積分と体積の関係について理解し、さまざまな図形の体積を考察することができる。	a	b		ワークシート
	3 曲線の長さとのり	2	定積分と極線の長さの関係について理解し、さまざまな曲線の長さを考察することができる。	a	b		ワークシート
	〔課題学習〕様々な断面による立体の求積	3	立体の求積について学んだことを振り返り、多面的に考察することができる。		b	c	レポート
11	個別学力試験 対策（基礎）	21	数学Ⅲの基礎的な問題と、数学ⅠAⅡBCのつながりを意識しながら問題を解くことができる。	a	b	c	ワークシート 振り返りシート
12	定期考査	1		a	b	c	提出物 ペーパーテスト 振り返りシート
12 1 2	個別学力試験 対策（発展）	45	数学Ⅲの応用的な問題を通じて、問題を解く際に記述しなければいけないものについて意識しながら問題を解くことができる。	a	b	c	ワークシート 振り返りシート

計 160 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

期限と内容を示した予定表を配布します。

8 担当者からの一言

難易度が高くなり、進度も速くなります。予習・復習をしっかりやって主体的に取り組むことが大切です。細かい記述にも気を配ってください。

教科(科目)	数学 (数学探究)	単位数	5単位	学年	3学年 (普通科)
使用教科書	数学Ⅰ Advanced、数学Ⅱ Advanced、数学A Advanced、数学B Advanced、数学C Advanced (すべて東京書籍)				
副教材等	「ニューグローバルマーチ 数学ⅠAⅡBC」(東京書籍) 「共通テスト対策 実力養成 重要問題演習 数学」(ラーズ)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。 ②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。 ③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。 ②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。 ③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。 ④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。 ⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 (3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>
--

3 指導の重点

2年時までに学習した内容を総合的に復習することで理解を深め、他の単元と関連させた多角的な考察力を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 数学における概念や原理・法則、用語や記号などを体系的に理解し、知識を身に付けている。 自らの思考の過程やその結果を論理的に表現し、数学的に表現、処理する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を多様な単元や分野と関連させ、総合的に事象を考察している。 他者の考えを参考に多面的・発展的に考え、数学的な見方を身に付けている。 事象を数学的に考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に積極的に取り組んでいる。 日常生活の中から、自らの興味・関心に基づいた課題を見つけている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 観察、実験、式やグラフでの表現の観察 レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析 <p>などから、評価します。</p>

内容のまとめりごとに、各観点
「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」
で評価します。
内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。
成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に4：3：3となります。

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時 間	評価方法
4 5 6 7 8	「数と式」「集合と論証」「2次関数」「図形と計量」「データの分析」(I) 「場合の数と確率」「図形の性質」(A) 「方程式・式と証明」「図形と方程式」「三角関数」「指数関数・対数関数」「微分と積分」(II) 「数列」「統計的な推測」(B) 「ベクトル」(C)	a b c 20 時間 b c 45 時間	ニューグローバルマーチ	公式や定理の背景にある数学的な見方や考え方に触れるように心がける。身近な事象について関数で表すことを考える。その関数をコンピュータでグラフを表し、分析する。 他の単元との関連について考え、様々な別解を考えることで総合的かつ多角的に問題を扱う。	65 時間	授業態度 課題の提出 定期考査 小テスト
9 10 11 12	「数と式」「集合と論証」「2次関数」「図形と計量」「データの分析」(I) 「場合の数と確率」「図形の性質」(A) 「方程式・式と証明」「図形と方程式」「三角関数」「指数関数・対数関数」「微分と積分」(II) 「数列」「統計的な推測」(B) 「ベクトル」(C)	a b c 20 時間 b c 45 時間	ラーンズ 「共通テスト対策 実力養成 重要問題演習 数学」	公式や定理の背景にある数学的な見方や考え方に触れるように心がける。身近な事象についてデータを分析する。その際、統計的な推測をするように指導する。 また、グラフやチャートを用いてわかりやすく伝える工夫も行う。 他の単元との関連について考え、様々な別解を考えることで総合的かつ多角的に問題を扱う。	65 時間	授業態度 課題の提出 定期考査 小テスト
1 2 3	総合演習	a b c 30 時間		さまざまな分野・教科の知識・考え方が必要になる問題を扱う。	30 時間	授業態度 課題の提出 定期考査 小テスト

計 160 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

予定表を配付して、指示します。

8 担当者からの一言

解説に頼り、短期的な暗記による学習の進め方ではなく、自分で考える学習へ切り替えてください。

教科(科目)	数学 (数学総合)	単位数	2単位	学年	3学年 (普通科)
使用教科書	数学Ⅰ Advanced、数学Ⅱ Advanced、数学A Advanced、数学B Advanced、数学C Advanced (すべて東京書籍)				
副教材等	「ニューグローバルマーチ 数学ⅠAⅡB」(東京書籍) 「共通テスト対策 実力養成 重要問題演習 数学」(ラーズ)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。 ②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。 ③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。 ②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。 ③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。 ④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。 ⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>
--

3 指導の重点

2年時までに学習した内容を総合的に復習することで理解を深め、他の単元と関連させた多角的な考察力を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 数学における概念や原理・法則、用語や記号などを体系的に理解し、知識を身に付けている。 自らの思考の過程やその結果を論理的に表現し、数学的に表現、処理する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を多様な単元や分野と関連させ、総合的に事象を考察している。 他者の考えを参考に多面的・発展的に考え、数学的な見方を身に付けている。 事象を数学的に考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に積極的に取り組んでいる。 日常生活の中から、自らの興味・関心に基づいた課題を見つけている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 観察、実験、式やグラフでの表現の観察 レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析 <p>などから、評価します。</p>

内容のまとめりごとに、各観点
「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」
で評価します。
内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。
成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に4：3：3となります。

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5 6 7 8	「数と式」「集合と論証」「2次関数」「図形と計量」「データの分析」(I) 「場合の数と確率」「図形の性質」(A) 「方程式・式と証明」「図形と方程式」「三角関数」「指数関数・対数関数」「微分と積分」(II) 「数列」「統計的な推測」(B) 「ベクトル」(C)	a b c 10 時間 b c 15 時間	ニューグローバルマーチ	公式や定理の背景にある数学的な見方や考え方に触れるように心がける。 身近な事象について統計的な推測を行い分析する。また、その結果についてまとめて発表する。 他の単元との関連について考え、様々な別解を考えることで総合的かつ多角的に問題を扱う。	25 時間	授業態度 課題の提出 定期考査 小テスト
9 10 11 12	「数と式」「集合と論証」「2次関数」「図形と計量」「データの分析」(I) 「場合の数と確率」「図形の性質」(A) 「方程式・式と証明」「図形と方程式」「三角関数」「指数関数・対数関数」「微分と積分」(II) 「数列」「統計的な推測」(B) 「ベクトル」(C)	a b c 10 時間 b c 15 時間	ラーンズ 「共通テスト対策 実力養成 重要問題演習 数学」	公式や定理の背景にある数学的な見方や考え方に触れるように心がける。 デジタル教材を利用し、数式とグラフとのつながりをより実感させて、グラフの有用性に気づかせる。 他の単元との関連について考え、様々な別解を考えることで総合的かつ多角的に問題を扱う。	25 時間	授業態度 課題の提出 定期考査 小テスト
1 2 3	総合演習	a b c 14 時間		さまざまな分野・教科の知識・考え方が必要になる問題を扱う。	14 時間	授業態度 課題の提出 定期考査 小テスト

計 64 時間 (55 分授業)

6 課題・提出物等

予定表を配付して、指示します。

7 担当者からの一言

解説に頼り、短期的な暗記による学習の進め方ではなく、自分で考える学習へ切り替えてください。

教科(科目)	数学（数学B）	単位数	1単位	学年	3学年(普通科)
使用教科書	東京書籍『数学B Advanced』				
副教材等	東京書籍『PRIME 数学II+B』 東京書籍『NEW ACTION FRONTIER 数学II+B』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。

3 指導の重点

- ・基礎・基本の徹底 基本的事項については、反復練習などによって全員が理解できるよう指導する。
- ・学習習慣の確立 課題を細かく出して点検することによって、毎日の家庭学習の習慣を確立させる。
- ・きめ細かな指導 基本的事項から発展的内容まで、個々に応じたきめ細かな指導を展開する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・標本調査の考え方について理解している。 ・確率変数と確率分布について理解している。 ・二項分布と正規分布の性質や特徴について理解している。 ・正規分布を用いた区間推定及び仮説検定の方法を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・確率分布や標本分布の特徴を、確率変数の平均、分散、標準偏差などを用いて考察している。 ・目的に応じて標本調査を設計し、収集したデータを基にコンピュータなどで処理するなどして、母集団の特徴や傾向を推測している。 ・標本調査の方法や結果を批判的に考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事象を統計的な推測の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテストの分析 ・観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 <p>などから、評価します。</p>

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。
 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。
 成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に4：3：3となります。

6 学習計画

※ 評価の観点：a(知識・技能)，b(思考・判断・表現)，c(主体的に学習に取り組む態度)

月	単元名	授業 時数	学習活動(指導内容)	評価の 観点			評価方法
	2章 統計的な推測	[29]					
	1節 標本調査	(2)					
6	1 母集団と標本	2	標本調査の考え方について理解を深める。	a			ワークシート
	2節 確率分布	(12)					
	1 確率変数と確率分布	2	確率変数，確率分布の意味を理解し，確率分布を求めることができる。	a			ワークシート
	2 確率変数の平均と分散	4	確率変数の平均と分散，標準偏差の意味を理解する。また，確率変数 X と $aX + b$ におけるそれらの値の関係について理解し，求めることができる。	a			ワークシート
7	3 確率変数の和と積	3	確率変数の和の平均，および独立な確率変換の積の平均や和の分散を求めることができる。	a			ワークシート
	定期考査	1		a	b	c	提出物 ペーパーテスト 振り返りシート
	4 二項分布	3	二項分布の特徴を理解し，二項分布に従う確率変数 X が条件をみたす確率や， X の平均，分散を求めることができる。	a			ワークシート
	3節 正規分布	(5)					ワークシート
	1 正規分布	5	連続分布，正規分布について理解し，正規分布に従う確率変数が条件を満たす確率を求めることができる。また，正規分布に近似することで二項分布について考察することができる。	a	b		ワークシート
9	4節 統計的な推測	(10)					
	定期考査	1		a	b	c	提出物 ペーパーテスト 振り返りシート
	1 母集団の分布	1	母集団の平均，分散，標準偏差を求めることができる。	a			ワークシート
	2 標本平均の分布	2	母集団分布と標本分布の関係，および標本平均の分布の特徴について理解し，標本平均の平均と標準偏差や，標本平均が条件を満たす確率を求めることができる。	a	b		ワークシート
10	3 母平均の推定	3	得られた標本から母集団の特徴を表す値を推測する方法として，正規分布を利用した信頼区間の考え方を理解し，母平均および母比率を推定することができる。	a	b		ワークシート
	4 仮説検定の方法	3	得られた標本から母集団に関する主張が妥当かどうかを判断する方法として，正規分布を利用した仮説検定の考え方を理解し，母平均および母比率に関する主張について仮説検定することができる。	a			ワークシート
	定期考査	1		a	b	c	提出物 ペーパーテスト 振り返りシート

計32時間(55分授業)

7 課題・提出物等

期限と内容を示した予定表を配布します。

8 担当者からの一言

数学は積み重ねが大切な科目です。

- ・授業内容が1番重要です。毎時間関心を持ち意欲的に取り組んでください。
- ・数学の内容はつながっています。授業後はしっかり復習して、内容を定着させましょう。
- ・チャイムが鳴るまでに着席して授業の準備をし、前回までの内容を思い出しておきましょう。
- ・余裕があれば、家庭学習で次回にやる内容の予習をしておきましょう。

以上のことを意識して、授業に臨んでください。数学は積み重ねの科目ですから、途中が抜けると積み重ねられません。わからないことは、「すぐに」「どんどん」質問してください。『聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥』

教科(科目)	数学（数学C）	単位数	1単位	学年	3学年(普通科)
使用教科書	東京書籍『数学C Advanced』				
副教材等	東京書籍『PRIME 数学C』 東京書籍『NEW ACTION FRONTIER 数学C』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

3 指導の重点

- ・基礎・基本の徹底 基本的事項については、反復練習などによって全員が理解できるよう指導する。
- ・学習習慣の確立 課題を細かく出して点検することによって、毎日の家庭学習の習慣を確立させる。
- ・きめ細かな指導 基本的事項から発展的内容まで、個々に応じたきめ細かな指導を展開する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・数学的な表現の工夫について認識を深めている。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察している。 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしていたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテストの分析 ・観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に4：3：3となります。			

6 学習計画

※ 評価の観点：a(知識・技能)，b(思考・判断・表現)，c(主体的に学習に取り組む態度)

月	単元名	授業 時数	学習活動(指導内容)	評価の 観点			評価方法
	2章 平面上の曲線	[10]					
	1節 2次曲線	(5)					
4	3 双曲線	2	双曲線の方程式とその概形などについて考察し、双曲線の基本的な性質について理解する。	a			ワークシート
	4 2次曲線の平行移動	1	曲線の平行移動について理解し、 x, y についての2次方程式が表す曲線について調べることができる。	a			ワークシート
	5 2次曲線と直線	1	2次曲線と直線の位置関係について調べることができる。	a		c	ワークシート
5	6 2次曲線と離心率	1	離心率の値と2次曲線の関係について理解する。	a			ワークシート
	定期考査	1		a	b	c	提出物 ペーパーテスト 振り返りシート
	2節 媒介変数表示と極座標	(5)					
	1 曲線の媒介変数表示	2	曲線の媒介変数表示について理解し、媒介変数表示を用いて曲線を表現し処理することができる。	a			ワークシート
	2 極座標と極方程式	2	極座標による表し方やその意味、直交座標との関係について理解したり、極方程式が表す図形について調べたりすることができる。	a	b		ワークシート
	3 いろいろな曲線	1	媒介変数表示や極方程式で表された曲線を、作図ツールを利用して調べることができる。	a			ワークシート
6	定期考査	1		a	b	c	提出物 ペーパーテスト 振り返りシート
	3章 複素数平面	[10]					
	1節 複素数平面	(6)					
	1 複素数平面	2	複素数平面と、複素数の実数倍、和、差などの図形的な意味を理解する。	a		c	
	2 複素数の極形式	2	複素数の極形式、複素数の積、商の図形的な意味を理解する。	a	b		
	3 ド・モアブルの定理	2	ド・モアブルの定理について理解する。また、複素数の累乗根について考察することができる。	a	b		
	2節 図形への応用	(4)					
7	1 複素数平面上の図形	2	複素数平面において、さまざまな図形を考察することができる。	a	b	c	
	2 複素数と角	2	複素数平面における角について理解し、三角形の考察に応用することができる。	a	b		
	定期考査	1		a	b	c	提出物 ペーパーテスト 振り返りシート
	活用 遊園地のコーヒーカップが生	4	曲線の媒介変数表示を日常の事象の問題解決に活用することができる。		b	c	レポート

	みだす曲線						
	探究 複素数と三角形の形状	4	絶対値や偏角に着目して三角形の形状を求めたことを振り返り、発展的に考察することができる。		b	c	レポート

計32時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

期限と内容を示した予定表を配布します。

8 担当者からの一言

数学は積み重ねが大切な科目です。

- ・授業内容が1番重要です。毎時間関心を持ち意欲的に取り組んでください。
- ・数学の内容はつながっています。授業後はしっかり復習して、内容を定着させましょう。
- ・チャイムが鳴るまでに着席して授業の準備をし、前回までの内容を思い出しておきましょう。
- ・余裕があれば、家庭学習で次回にやる内容の予習をしておきましょう。

以上のことを意識して、授業に臨んでください。数学は積み重ねの科目ですから、途中が抜けると積み重ねられません。わからないことは、「すぐに」「どんどん」質問してください。『聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥』

教科（科目）	理科（生物基礎）	単位数	2単位	学年	1学年（普通科）
使用教科書	東京書籍「生物基礎」				
副教材等	第一学習社「スクエア最新図説生物2025」 東京書籍「ニューグローバル生物基礎」				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

3 指導の重点

- 教科書の基本的な内容の理解を深めるとともに、発展的な内容に対する興味・理解を高める。
- 観察・実験を多く取り入れ、探究の過程を重視した指導を進める。
- 問題演習に積極的に取り組み、学習の定着をはかるとともに、自ら学習の深化をはかる姿勢を育成する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
生物の共通性と多様性に関する基本的な概念・原理・法則などを理解し、定着している。	生物の共通性と多様性について、実証的・分析的・総合的に考察を進め、理解をしている。	生物の共通性と多様性に関する事物、現象について積極的に科学的探究を深めようとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシートなどの内容確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシートなどの内容確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシートなどの内容確認 などから、評価します。
	<p>内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価基準は授業で説明します。</p> <p>成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に4：4：2となります。</p>		

6 学習計画（1単位時間55分）

月	単元名	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
---	-----	-----	------------	----	------

4	1編 生物の特徴	生物の多様性・共通性 細胞の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 生物の種と分類・系統について理解を深める。 生物の基本的な特徴を理解する。 	16	<ul style="list-style-type: none"> 授業への取り組み レポート 定期考査 課題テスト 等をもとに、総合的に判断する。
5		生体とATP	<ul style="list-style-type: none"> 同化や異化の代謝の過程で生じるエネルギーの授受にATPが利用されていることを理解する。 		
6		生体内の化学反応 呼吸と光合成	<ul style="list-style-type: none"> 酵素の基本的な特徴を理解する。 光合成、呼吸の仕組みについて理解する。 		
7	2編 遺伝子とそのはたらき	生物と遺伝子 DNAの構造 DNAの複製と分配 タンパク質 DNAとタンパク質の合成 細胞分化と遺伝子	<ul style="list-style-type: none"> 生命現象には多種多様なタンパク質が関与していることを理解し、その構造についての理解を深める。 遺伝情報は、ATGCの4つの文字のみで表現されており、4文字の組み合わせによって遺伝情報を表現していることを理解する。 転写と翻訳のしくみについて理解する。 個体を構成する細胞は、同一の遺伝情報をもつが、それぞれの細胞で発現する遺伝子は、その細胞の機能により異なることを理解する。 	8	
8	3編 ヒトの体の調節	体内環境	<ul style="list-style-type: none"> 体内環境と体液の関係について理解する。 フィードバックによって、体内環境の恒常性が維持されていることを理解する。 人体のさまざまな器官とその役割や構造を知る。 神経細胞の構造と情報伝達のしくみについて理解を深める。 体内環境の維持と自律神経系による調節を関連付けて理解する。 	18	
9		神経系による情報伝達	<ul style="list-style-type: none"> 内分泌腺と分泌されるホルモン、その作用について知り、ホルモンが受容されるしくみを理解する。 免疫について分類や特性を理解するとともに、それを支えるリンパ球の種類と役割を理解する。 免疫記憶と二次応答について理解する。 アレルギー、を例に免疫機能の低下による疾患について理解する。 		
10		ホルモンによる情報伝達 血糖濃度の調節			
11		免疫のしくみ			
12		免疫記憶 免疫とさまざまな疾患			
1	4編 生物の多様性と生態系	植生とその環境	<ul style="list-style-type: none"> 環境要因と環境形成作用の関係について理解する。 森林の階層構造と光環境の関係について理解する。 環境要因としての土壌の構造や成り立ちについて理解する。 	19	
2		植生の遷移	<ul style="list-style-type: none"> 植生の遷移について、モデル的な過程とその要因を理解する。 バイオームと種多様性の関係について理解する。 食物網について理解する。 種多様性の高さが生態系全体のバランスを保つことを理解する。 		
3		遷移とバイオーム 生態系における生物の多様性 生態系における生物間の関係 生態系と攪乱 生態系の保全	<ul style="list-style-type: none"> 人為的攪乱、自然攪乱について生物の多様性との関係を理解する。 生物多様性と生態系サービスの関係について理解する。 		

3	結章 生物基礎と私たち	生物の特徴と私たち 遺伝子のはたらきと私たち 体内環境と私たち 生態系と私たち	・生物基礎の学習内容に関連するさまざまな活動を通して、生物基礎が日常のさまざまな場面で関わっていることを体感する。また、体感したことを表現し、他者に伝える。	3	
---	-------------	--	--	---	--

計 64 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・定期考査ごとにワークノートの提出があります。
- ・レポートの提出 (不定期)

8 担当者からの一言

医療や食糧生産など、21 世紀の私たちの生活の基盤を支える生命科学の基礎を学び、自然科学に対する興味関心を高めるとともに、科学的な見方、考え方を身につけてほしい。

令和7年度シラバス (理科)

学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科(科目)	理科(物理基礎)	単位数	2単位	学年	1学年(普通科)
使用教科書	第一学習社 『高等学校 新物理基礎』				
副教材等	第一学習社 『プログレス 物理基礎』 第一学習社 『セミナー物理基礎』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

- ・日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- ・物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする姿勢を養う。

3 指導の重点

- ・各物理量の定義を丁寧に伝える。
- ・数式や方程式を用いて導出した解に、どのような意味があるのかを考察する姿勢を養う。
- ・発問をし、生徒に疑問を抱かせる時間を作る。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

日常生活や社会との関連をはかりながら、物体の運動と様々なエネルギーについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的技能を身につけようとしている。	物体の運動と様々なエネルギーから問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究しようとしている。	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
---	--	---

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査等の分析 ・実験への取組、式やグラフでの表現方法の観察 ・実験レポート、提出物などの内容の確認や分析などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査等の分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・実験レポート、提出物などの内容の確認や分析などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・実験レポートやワークシートなどの内容確認などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。 成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：4：2となります。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 第2章 運動の法則	誤差と有効数字 1 速度 2 加速度 3 落下運動 1 力とそのはたらき 2 力のつりあい 1 学期中間考査まで	教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> 速度をベクトルとして取り扱うことができるようになる。 等加速度運動を、式・グラフを通して理解する。 等加速度運動の例として落体の運動を理解する。 力を図示できるようにする。 力のつりあいと作用・反作用を区別できるようにする。 	7	<ul style="list-style-type: none"> 授業への取り組み 実験レポート 定期考査 定期考査範囲課題への取組状況等をもとに、総合的に判断する。

6 7	第2章 運動の法則 第3章 仕事と力学的エネルギー	3 運動の法則 4 摩擦を受ける運動 5 液体や気体から受ける力 1 仕事 1 学期期末考査まで	教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・運動方程式を立てることができるようにする。 ・さまざまな摩擦力の違いや性質を理解する。 ・圧力の式とその単位について理解させ、アルキメデスの原理（浮力）を理解する。 ・仕事、エネルギーの定義を理解する。 	12	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み ・実験レポート ・定期考査 ・定期考査範囲課題への取組状況等をもとに、総合的に判断する。
7 8 9	第3章 仕事と力学的エネルギー	2. 運動エネルギー 3. 位置エネルギー 4. 力学的エネルギーの保存 2 学期中間考査まで	教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・運動エネルギーの式が導ける。 ・受けた仕事と運動エネルギーとの関係を理解させる。 ・仕事とエネルギーの関係を用いて、物体の運動を理解させる。 ・力学的エネルギーが保存する場合としない場合の違いを理解させる。 	14	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み ・実験レポート ・定期考査 ・定期考査範囲課題への取組状況 ・夏休み課題への取組状況等をもとに、総合的に判断する。
10 11	第2編 熱 第1章 熱とエネルギー 第3編 波 第1章 波の性質 第2章 音	1. 熱と熱量 2. 熱と物質の状態 3. 熱と仕事 4. 不可逆変化と熱機関 1. 波と媒質の運動 2. 波の伝わり方 1. 音の性質 2. 発音体の振動と共振・共鳴 2 学期期末考査まで	教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・熱運動の本質の理解、熱量保存則を式で表現できるようにする。 ・熱運動と、物質の状態変化の関係を理解する。 ・内部エネルギー、熱力学第一法則を理解する。 ・熱力学第二法則、熱効率を理解する。 ・波の性質を理解し、波の振動や波形をグラフや式で表す。 ・重ね合わせの原理をもとに、定常波など、波のいろいろな現象を正しく理解する。 ・音は縦波であることを理解する。 ・発音体の固有振動、共振・共鳴現象を関連づけて理解する。 	10	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み ・実験レポート ・定期考査 ・定期考査範囲 ・課題への取組状況 ・冬休み課題への取組状況等をもとに、総合的に判断する。

12	第4編 電気	1. 電気の性質	教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・静電気が引き起こす様々な現象について正しく理解させる。 ・電気回路におけるオームの法則（電流・電圧・抵抗）について正しく理解する。 ・消費電力および電気エネルギーについて定量的に正しく取り扱う。 ・発電機の仕組み、変圧器の性質を理解する。 ・電波の種類と、波の性質も理解する。 	21	授業への 取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・実験レポート ・定期考査 ・定期考査範囲 課題への取組 ・ 状況 等をもとに、総合的に判断する。
1	第1章 物質と電気					
2	抵抗	2. 電流と電気抵抗				
3		3. 電気とエネルギー				
	第2章 電流と電磁波	1. 交流				
		2. 電磁波				
	第5編 物理学と社会	1. エネルギーの移り変わり				
	第1章 エネルギーとその利用	2. エネルギー資源と発電				
	第2章 物理学が拓く世界	1. 摩擦をコントロールする				
		2. エネルギーを有効利用する				
		3. 見えないものを見る 学年末考査まで				

計 64時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

- ・単元ごとの演習プリント、実験プリントの提出。
- ・定期考査前の課題ノート（問題集等）の提出。
- ・連休および長期休業中の課題の提出。

8 担当者からの一言

物理で最も重要なのは、「速度」や「温度」などの定義を正しく理解することです。それらを用いれば、様々な現象をシンプルに表現することができます。

物理基礎を学習する上で重要なことは、1回の学習時間を最低1時間程度、確保することです。そして何よりも授業があった日に必ず復習をしてください。

わからないことをわからないままにせず、友達と積極的に議論しあうこと、そしてどうしてもわからないことがあれば遠慮なく質問をするようにしてください。

令和7年度シラバス (理科) 学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科 (科目)	理科(化学)	単位数	2単位	学年	普通科 (2学年、理系)
使用教科書	数研出版『化学』				
副教材等	第一学習社『セミナー 化学基礎+化学』 文英堂『必修整理ノート 化学』 浜島書店『新訂版リピートノート化学③』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを实践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

<p>化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3)化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>

3 指導の重点

<p>①思考力・判断力・表現力のもとになる、基礎事項の理解の徹底を図る。</p> <p>②応用事項についての理論構築ができる力を身につけさせる。</p> <p>③問題解決的な演習にも取り組み、化学的な思考力、判断力、表現力を養成する。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
化学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身につけている。	化学的な事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	化学的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

5 評価方法

評価は次の観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査等の分析 ・観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・レポート、提出物などの内容の確認や分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査等の分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポート、提出物などの内容の確認や分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポート、提出物などの内容の確認や分析 などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、次観点で評価します。 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 内容のまとめりごとの評価規準は授業等で説明します。 成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：4：2となります。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
10	固体の構造		教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・原子の電子配置と価電子の意味、イオンは希ガス型の電子配置で安定化していることを理解する。 ・イオン結晶の種類と性質、構造を理解する。 ・共有結合を理解する。配位結合や電気陰性度と極性、分子結晶について学ぶ。 ・共有結合の結晶について理解する。 ・結晶格子について種類や密度、アボガドロ定数との関係を理解する。 	8	授業への取組 レポート 定期考査 課題テスト 等をもとに、総合的に判断する。
	物質の状態変化		教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・粒子の熱運動について、熱運動から大気圧を理解する。 ・三態の変化とエネルギーについて、状態変化には熱の出入りがあることを学ぶ。また、融点・沸点が同種の物質どうしでどのように変化するか、分子間力や化学結合の強弱から考える。 ・気液平衡の概念と蒸気圧、蒸発と沸騰の違い、沸点について学ぶ。 	4	
11	気体		教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・気体の体積と圧力・温度との関係について学ぶ。 ・気体の状態方程式を導き、その使い方を学ぶ。気体の分子量を測定できることを学ぶ。 ・混合気体の圧力について理解する。 ・理想気体とは何かを学び、実在気体との違いを理解する。 	10	

	溶液		教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・溶解の定義、物質の溶解のしくみの違いを学ぶ。 ・溶解度について、飽和溶液の溶質と溶媒についての量的関係を学び、計算方法を体得する。 ・希薄溶液の性質について、沸点上昇・凝固点降下を学ぶ。また、浸透圧を利用して分子量の測定ができることを学ぶ。 ・コロイド溶液について、コロイドの定義と性質を学ぶ 	10	
	定期考査				1	
12	化学反応とエネルギー		教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・化学反応と熱について、化学反応の種類と反応エンタルピーおよび状態変化に伴う熱などの種類と定義を学び、これらを化学反応式とエンタルピー変化で表すことができること、またヘスの法則を用いて、未知の熱量を計算で求められることを学ぶ。さらに、共有結合の結合エネルギーについても学ぶ。 ・化学反応は光によっても引き起こされるものがあること、反応に伴って光を発する現象について学ぶ。また、光触媒や光合成についても学ぶ。 	8	授業への取組 レポート 定期考査 課題テスト 等をもとに、総合的に判断する。
1	電池と電気分解		教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・電池について、電池の電極における反応について知る。また、電池には充電のできない一次電池と充電のできる二次電池があることを理解する。 ・電気分解について、水溶液を電気分解したときにどのような物質が生成するかを理解する。また、ファラデーの法則を学び、電気分解における反応物・生成物の量は流れた電気量と密接に関連していることを、演習を通して体得する。 ・電気分解を利用した物質の工業的製法について学ぶ。 	8	
2	定期考査				1	

	化学反応の速さとしくみ		教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・化学反応の速さについて、化学反応には、瞬間的に進む反応と長時間かかる反応があることと反応の速さの表し方を学ぶ。反応条件によって、反応の速さが変化するかなどを学ぶ。また、触媒により反応が速くなるしくみを学ぶ。 ・反応条件と反応速度について、反応速度式の表し方を学んだ後、反応物の濃度・温度・触媒によって反応速度がどのように変化するかを学ぶ。 	6	授業への取組 レポート 定期考査 課題テスト 等をもとに、総合的に判断する。
3	化学反応の速さとしくみ		教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・触媒の工業的な利用について学ぶ。 ・化学反応のしくみについて、化学反応がどのように進行するかについて活性化エネルギーを考えることで理解する。 	4	

計60時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

- ・单元ごとの演習プリント，実験プリントの提出
- ・定期考査前の問題集ノートの提出
- ・連休および長期休業中の課題

8 担当者からの一言

化学は、物質の性質などを知識として覚える面と化学反応の仕組みなどを理論的に理解していく面の二つの面があり、全体を結びつけて考えられるようになるまでに時間がかかります。それまでは、日々の授業を大切に、少しずつ知識と理解を積み重ねるといふ地道な努力を続けてほしい。その際、自分で考えたり感じたりすることが何より大切です。授業中に疑問に思ったことは、その場で質問してください。理解を深め、知識を整理するには自主的・主体的な学習が不可欠です。

令和7年度シラバス (理科) 学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科 (科目)	理科 (化学基礎)	単位数	2単位	学年	2学年 (普通科、文系)
使用教科書	数研出版『化学基礎』				
副教材等	第一学習社『セミナー 化学基礎』 文英堂『必修整理ノート 化学基礎』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p>

	②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。 ③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。 ④リーダーシップを育成し、協働的な学びを实践する学校行事を行います。 ⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。
--	--

2 学習目標

物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3)物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
--

3 指導の重点

①思考力・判断力・表現力のもとになる、基礎事項の理解の徹底を図る。 ②応用事項についての理論構築ができる力を身につけさせる。 ③問題解決的な演習にも取り組み、化学的な思考力、判断力、表現力を養成する。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査等の分析 ・観察、実験、式やグラフでの表現の観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査等の分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポート、提出物などの内容の確認や分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査等の分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポート、提出物などの内容の確認や分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、次観点を評価します。 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 内容のまとまりごとの評価規準は授業等で説明します。 成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：4：2となります。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	物質の構成		教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・混合物と純物質について、物質は混合物と純物質に分類されることを理解する。混合物から純物質を得る方法についても理解する。 ・物質とその成分について、元素は元素記号で表されることを理解し、元素の種類により単体や化合物に分類されることを理解する。 ・物質の三態と熱運動について、物質の三態と絶対温度の定義について理解する。 	4	授業への取組 レポート 定期考査 課題テスト 等をもとに、総合的に判断する。
5	物質の構成粒子		教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・原子とその構造において、原子を構成している粒子 (陽子, 中性子, 電子) について理解し、同位体と放射能の関連性を理解する。 	4	
	定期考査				1	
	粒子の結合		教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・原子の電子配置・価電子および安定な貴ガス原子の電子配置について理解し、イオンが生じるしくみを理解する。 ・イオン式の理解と定着を図る。 ・元素の性質から考え出された周期律と周期表との関係を理解する。また、価電子の数やイオン化エネルギーの周期性についても、周期表と関連しながら理解する。 	4	授業への取組 レポート 定期考査 課題テスト 等をもとに、総合的に判断する。
6	粒子の結合		教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・イオン結合について原子や原子団がどのようにして電気を帯びるか、さらにその電気を帯びた粒子がどのような力によって結合するかを理解する。さらに、イオンからなる物質の種類や表し方 (組成式)・特徴的な性質の理解と定着を図る。 ・共有結合のしくみを理解する。また、分子式をはじめ電子式や構造式および分子の形を理解する。さらに、配位結合と錯イオンについて理解する。 	6	授業への取組 レポート 定期考査 課題テスト 等をもとに、総合的に判断する。
	定期考査				1	
7	粒子の結合		教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・電気陰性を理解し、共有結合では電子の偏りが生じること、分子の形によって分子全体として極性が生じること理解する。 ・分子からなる物質の固体である分子結晶や共有結合の結晶について、性質が大きく異なることを理解する。 ・金属結合について理解し、身のまわりで使われている金属について学ぶ。 	4	授業への取組 レポート 定期考査 課題テスト 等をもとに、総合的に判断する。

8	物質と化学反応式		教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> 原子量・分子量・式量について、原子の質量はきわめて小さいため、原子量という概念によって異なる元素の原子の質量が比較しやすくなることを理解する。 	2	
9	物質と化学反応式		教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> 物質についてそれを単位として扱うほうが便利であることを理解し、物質の概念を学ぶ。 物質は化学全体にわたって必須の概念なので、数値的な扱い方を体得する。また、気体については物質と体積も重要な関係があるのであわせて理解する。 溶液の濃度について、パーセント濃度やモル濃度の定義を学び、扱いに慣れる。 化学反応式と物質について、化学変化を化学反応式やイオン反応式で表すことを学び、それをもとにして量的関係が把握できるように理解する。 	6	
	定期考査				1	
10 ・ 11	酸と塩基の反応		教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> 酸と塩基の定義（アレニウスの定義、ブレンステッドの定義）を理解する。 水は一部が電離していること、水溶液の酸性や塩基性の程度をpHにより表すことができることを理解する。 酸と塩基が中和するときの量的関係を理解する。 塩の定義と分類の方法、塩の水溶液の性質を理解する。 	13	授業への取組 レポート 定期考査 課題テスト 等をもとに、総合的に判断する。
	定期考査				1	
12 ・ 1	酸化還元反応		教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> 酸化・還元の定義を理解し、さらに原子の酸化数の決め方について学ぶ。酸化数より酸化還元の指摘ができる。 酸化剤・還元剤のはたらきとそのときに起こる化学変化を化学反応式で表せるようになる。それをもとに酸化還元の量的関係も理解する。 金属が水溶液中でイオンとなることは、酸化還元反応の一つであり、金属のイオン化傾向は、金属の種類によって異なることを理解する。また、金属のイオン化傾向が異なると、金属単体の性質が大きく異なることを理解し、金属の化学的性質と密接に関係していることを理解する。 電解質水溶液と金属を利用するこ 	13	授業への取組 レポート 定期考査 課題テスト 等をもとに、総合的に判断する。

				とによって電池ができることを学び、金属を鉱石から得る精錬の手法についても酸化還元反応と関連しながら理解する。		
2	定期考査				1	
2 3	化学と人間生活			・人間生活の中の化学における、日常にあふれる様々な物質について、その分類や性質をとらえる。 ・化学とその役割について、化学の果たすべき役割について理解する。	3	授業への取組 レポート 定期考査 課題テスト 等をもとに、総合的に判断する。

計64時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

- ・単元ごとの演習プリント、実験プリントの提出
- ・定期考査前の問題集ノートの提出
- ・連休および長期休業中の課題

8 担当者からの一言

化学は、物質の性質などを知識として覚える面と化学反応の仕組みなどを理論的に理解していく面の二つの面があり、全体を結びつけて考えられるようになるまでに時間がかかります。それまでは、日々の授業を大切に、少しずつ知識と理解を積み重ねるといふ地道な努力を続けてほしい。その際、自分で考えたり感じたりすることが何より大切です。授業中に疑問に思ったことは、その場で質問してください。理解を深め、知識を整理するには自主的・主体的な学習が不可欠です。

令和7年度シラバス (理科) 学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科 (科目)	理科(化学基礎)	単位数	2単位	学年	2学年(普通科、理系)
使用教科書	数研出版『化学基礎』				
副教材等	第一学習社『セミナー化学基礎+化学』 文英堂『必修整理ノート化学基礎』 浜島書店『新訂版リピートノート化学①②』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを实践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

3 指導の重点

- ① 思考力・判断力・表現力のもとになる、基礎事項の理解の徹底を図る。
- ② 応用事項についての理論構築ができる力を身につけさせる。
- ③ 問題解決的な演習にも取り組み、化学的な思考力、判断力、表現力を養成する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

5 評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査等の分析 ・観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・レポート、提出物などの内容の確認や分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査等の分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポート、提出物などの内容の確認や分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポート、提出物などの内容の確認や分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、次観点で評価します。 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 内容のまとまりごとの評価規準は授業等で説明します。 成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：4：2となります。		

6 学習計画 (週4単位で授業を実施して9月末までに履修を終了する)

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	物質の構成		教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・混合物と純物質について、物質は混合物と純物質に分類されることを理解する。混合物から純物質を得る方法についても理解する。 ・物質とその成分について、元素は元素記号で表されることを理解し、元素の種類により単体や化合物に分類さ 	4	授業への取組 レポート 定期考査 課題テスト 等をもとに、総合的に判断する。

				<p>れることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物質の三態と熱運動について、物質の三態と絶対温度の定義について理解する。 		
	物質の構成粒子		教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・原子とその構造において、原子の構造について理解する。また、同位体・電子配置・価電子について原子の構造と関連させながら理解する。 ・イオンの電子配置が貴ガス型をとり安定化していることを理解。 ・元素の性質から考え出された周期律と周期表との関係を理解する。また、価電子の数やイオン化エネルギーの周期性についても、周期表と関連しながら理解する。 	4	
	粒子の結合		教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・イオン結合について原子や原子団がどのようにして電気を帯びるか、さらにその電気を帯びた粒子がどのような力によって結合するかを理解する。さらに、イオンからなる物質の種類や表し方・特徴的な性質を理解する。 	2	
5	粒子の結合		教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・共有結合のしくみを理解する。また、分子式をはじめ電子式や構造式を理解する。さらに、配位結合と錯イオンについて理解する。 ・電気陰性度を理解し、共有結合では電子の偏りが生じること、分子の形によって分子全体として極性が生じることを理解する。 	4	
	定期考査				1	
	粒子の結合		教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・分子からなる物質の固体である分子結晶や共有結合の結晶について、性質が大きく異なることを理解する。 ・金属結合について理解し、身のまわりで使われている金属について学ぶ。 	3	授業への取組 レポート 定期考査 課題テスト
	物質質量と 化学反応式		教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・原子量・分子量・式量について、原子の質量はきわめて小さいため、原子量という概念によって異なる元素の原子の質量が比較しやすくなることを理解する。また、物質質量についてそれを単位として扱うほうが便利であることを理解し、物質質量の概念を学ぶ。 ・物質質量は化学全体にわたって必須の概念なので、数値的な扱い方を体得する。また、気体については物質質量と体積も重要な関係があるのであわせて理解する。 	5	等をもとに、総合的に判断する。

6	物質と化学反応式		教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・溶液の濃度について、パーセント濃度やモル濃度の定義を学び、扱いに慣れる。 ・化学反応式と物質について、化学変化を化学反応式やイオン反応式で表すことを学び、それをもとにして量的関係が把握できるように理解する。 	7	
	酸と塩基の反応		教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・酸と塩基の定義（アレニウスの定義、ブレンステッドの定義）を理解する。 ・水は一部が電離していること、水溶液の酸性や塩基性の程度をpHにより表すことができることを理解する。 	6	
	定期考査				1	
7	酸と塩基の反応		教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・酸と塩基が中和するときの量的関係を理解する。 ・塩の定義と分類の方法、塩の水溶液の性質を理解する。 	7	授業への取組 レポート 定期考査 課題テスト 等をもとに、総合的に判断する。
	酸化還元反応		教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化・還元の定義を理解し、さらに原子の酸化数の決め方について学ぶ。酸化数より酸化還元の指摘ができる。 	4	
8 ・ 9	酸化還元反応		教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化剤・還元剤のはたらきとそのときに起こる化学変化を化学反応式で表せるようになる。それをもとに酸化還元の量的関係も理解する。 ・金属が水溶液中でイオンとなることは、酸化還元反応の一つであり、金属のイオン化傾向は、金属の種類によって異なることを理解する。また、金属のイオン化傾向が異なると、金属単体の性質が大きく異なることを理解し、金属の化学的性質と密接に関係していることを理解する。 ・電解質水溶液と金属を利用することによって電池ができることを学び、金属を鉱石から得る精錬の手法についても酸化還元反応と関連しながら理解する。 	12	
	化学と人間生活		教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・人間生活の中の化学における、日常にあふれる様々な物質について、その分類や性質をとらえる。 ・化学とその役割について、化学の果たすべき役割について理解する。 	3	
	定期考査				1	

計64時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

- ・単元ごとの演習プリント、実験プリントの提出
- ・定期考査前の問題集ノートの提出
- ・連休および長期休業中の課題

8 担当者からの一言

化学は、物質の性質などを知識として覚える面と化学反応の仕組みなどを理論的に理解していく面の二つの面があり、全体を結びつけて考えられるようになるまでに時間がかかります。それまでは、日々の授業を大切に、少しずつ知識と理解を積み重ねるという地道な努力を続けてほしい。その際、自分で考えたり感じたりすることが何より大切です。授業中に疑問に思ったことは、その場で質問してください。理解を深め、知識を整理するには自主的・主体的な学習が不可欠です。

教科(科目)	理科(生物)	単位数	2単位	学年	2学年(理系)
使用教科書	『生物』(東京書籍)				
副教材等	「スクエア最新図説生物2024」(第一学習社)		「ニューグローバル生物」(東京書籍)		

1 学習目標

生物や生物現象を更に広範に取り扱い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けさせるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めさせ、科学的な自然観を育てる。

2 指導の重点

- 教科書の基本的な内容の理解を深めるとともに、発展的な内容に対する興味・理解を高める。
- 観察・実験を多く取り入れ、探究の過程を重視した指導を進める。
- 問題演習に積極的に取り組み、学習の定着をはかるとともに、自ら学習の深化をはかる姿勢を育成する。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生物の進化について、生命の起源と細胞の進化の基本的な概念・原理・法則などの理解・定着がなされている。	生物の進化について、実証的・分析的・総合的に考察を進め、理解を深めようとしている。	生命の起源と細胞の進化に関する事象、現象について積極的に科学的探究を深めようとしている。

4 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシートなどの内容確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシートなどの内容確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組・実験などでの積極性 ・レポートやワークシートなどの内容確認 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。 成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に4：4：2となります。		

5 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4月	1編 生物の進化 1章 生命の起源と細胞の進化	教科書 副教材 プリント	生命の起源について理解し、地球上で生活する生物の多様性は、進化の結果生じたものであることについての理解を深める	6	・授業への取り組み ・レポート ・定期考査

5月	2章 遺伝子変化と進化のしくみ	教科書 副教材 プリント	DNA の塩基配列に変化が生じたときに形質に変異が起こるしくみを理解し、遺伝子の変化と進化のしくみについて理解を深める。	11	・課題テスト 等をもとに、総合的に判断する。
6・7月	3章 生物の系統と進化	教科書 副教材 プリント	形態や生態的特徴に基づく生物の分類について理解し、人類の出現と変遷についての理解を深める。	11	
8・9月	2編 生命現象と物質 1章 細胞と物質	教科書 副教材 プリント	細胞を構成する成分や細胞小器官について理解するとともに、生体内で重要な役割をはたすタンパク質について理解する。	10	
10・11月	2章 代謝とエネルギー	教科書 副教材 プリント	生物がエネルギーを獲得し、利用するしくみ(呼吸や発酵、光合成等)について、理解を深める。	14	
12・1月	3編 遺伝情報の発現と発生 1章 遺伝情報とその発現	教科書 副教材 プリント	遺伝子の本体であるDNAの構造と複製のしくみ、転写、翻訳について理解を深める。	6	
2月	2章 発生と遺伝子発現	教科書 副教材 プリント	遺伝子の発現調節のしくみや、動物の配偶子形成とウニ、カエルの発生について理解を深める。	6	

計64時間 (55分授業)

6 課題・提出物等

各休業時や定期考査時には課題を提出することとなります。
授業内において、確認テストや小テストを行います。
実験・観察に際しては、レポートを提出することとなります。

7 担当者からの一言

現在最もめざましい展開をみせる生命科学、そして今後の地球環境の基盤を支える生物界についての理解を、意欲的に進めてほしい。

教科(科目)	理科(物理)	単位数	2単位	学年	2学年(理系)
使用教科書	第一学習社『高等学校物理』				
副教材等	第一学習社『セミナー物理』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

- ・物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につけるようにする。
- ・観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- ・物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

3 指導の重点

- ① 物理量に関する定義などの基本事項を正しく理解させる。
- ② 授業を通して、具体的な物理現象と理論とを結びつけて理解させる。
- ③ 授業での学習内容を受けて、教科書の例題、問、練習問題、章末問題を自力で解かせるようにする。
- ④ 日々の自宅学習において、担当者の配布する練習問題および問題集の基本問題を確実に解かせる。
- ⑤ ④を繰り返すことで基礎の定着を図り、応用問題にも積極的に取り組ませる。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
物理学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身につけようとしている。	物理的な事物・現象から問題を見だし、見通をもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を身につけようとしている。	物理的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

5 評価方法

評	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査等の分析 ・実験への取組、式やグラフでの表現方法の観察 ・レポート、提出物などの内容の確認や分析などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査等の分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポート、提出物などの内容の確認や分析などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシートなどの内容確認などから、評価します。
	<p>内容のまとめりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。 成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：4：2となります。</p>		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 ～ 5	第I章 運動とエネルギー 第1節 平面運動と放物運動	1. 平面運動 2. 放物運動 1学期中間考査まで	教科書 副教材	・平面内の運動(速度・加速度)をベクトルとして扱うことができるようになる。	6	・授業への取組み ・実験レポート ・定期考査 ・定期考査範囲課題への取組状況等をもとに、総合的に判断する。
5 ～ 7	第2節 剛体のつりあい 第3節 運動量の保存	1. 剛体にはたらく力とその合力 2. 剛体の重心とつりあい 1. 運動量と力積 2. 運動量保存の法則 3. 反発係数 1学期期末考査まで	教科書 副教材	・大きさのある物体のつりあいを理解する。 ・重心のさまざまな求め方を理解する。 ・運動量と力積が同値であることを理解する。 ・物体が衝突や分裂をする際の運動量、力積、運動量の保存などを理解する。	13	・授業への取組み ・実験レポート ・定期考査 ・定期考査範囲課題への取組状況等をもとに、総合的に判断する。
7 ～ 9	第4節 円運動と単振動	1. 円運動 2. 慣性力と遠心力 3. 単振動 4. 万有引力による運動 2学期中間考査まで	教科書 副教材	・円運動、単振動など物体にはたらく力の大きさや向きが一定でない運動について、それらの規則性を理解する。	15	・授業への取組み ・実験レポート ・定期考査 ・定期考査範囲課題への取組状況 ・夏休み課題への取組状況等をもとに、総合的に判断する。

9 ～ 10	第5節 気体の性質と 分子の運動	1. 気体の法則 2. 気体の分子運動 3. 気体の内部エネルギーと仕事 2学期期末考査まで	教科書 副教材	・気体について成り立つ法則、微視的な立場から見た物質の熱的な性質及び気体についての熱力学第一法則を理解する。	11	授業への取り組み ・実験レポート ・定期考査 ・定期考査範囲課題への取組状況
11 ～ 13	第II章 波動 第1節 波の性質 第2節 音波 第3節 光波	1. 正弦波 2. 波の伝わり方 1. 音の伝わり方 2. ドップラー効果 1. 光の性質 2. レンズ 学年末考査まで	教科書 副教材	・水面波、音や光など、波の伝わり方や干渉、回折などについて理解する。 ・音の干渉、回折及びドップラー効果について基本的な性質を理解する。 ・	19	授業への 取り組み ・実験レポート ・定期考査 ・定期考査範囲課題への取組状況 ・冬休み課題への取組状況等をもとに、総合的に判断する。

7 課題・提出物等

- ① 授業で課す課題を一定期間ごとに提出。
- ② 長期休業前に課題を指示し、新学期開始時に提出。
- ③ 外部模試の実施前に、対策用として過去の問題を配布。

8 担当者からの一言

予習について … 授業前に教科書をよく読む。

授業について … 授業をよく聞き、考えながら板書事項をノートに書き取る。不明な点は、必ず教科担当者に質問をして解決を図ること。

復習について … 教科書・ノートで授業内容の再確認を行い、配布されたプリントの未解答の問題に取り組むこと。問題集の問題は授業と並行しながら進め、時期をおいて繰り返し行うこと。内容の定着こそ実力アップの鍵である。

実力向上 … 自分にあった参考書や問題集を早期に見つけ演習を何度も繰り返す。外部模試は良問の宝庫。過去の問題も含めて復習は不可欠。

物理は、個々の物理法則を言葉・式・グラフなどで表現でき、その成立条件を明確に把握し、他者に説明できるようになってはじめて完全に理解したこととなる。この域に達すれば物理の「おもしろさ」「奥深さ」が分かり、問題も容易に解くことができるようになる。覚えるべき内容は他教科に比べ決して多くないので、一つひとつの物理概念に対する理解を深める努力をしてもらいたい。

教科 (科目)	理科 (化学)	単位数	4単位	学年 (コース)	3学年 (普通科、理系)
使用教科書	数研出版『化学』				
副教材等	第一学習社『セミナー化学基礎+化学』 文英堂『必修整理ノート 化学基礎』 文英堂『必修整理ノート 化学』 浜島書店『新訂版リピートノート 化学①～⑤』 数研出版『チェック&演習 化学』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。 ②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。 ③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。 ②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。 ③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。 ④リーダーシップを育成し、協働的な学びを实践する学校行事を行います。 ⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。

2 学習目標

化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探求する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。

3 指導の重点

大多数の生徒が大学進学を希望していることから、

- ①基礎事項の理解の徹底を図る。
- ②応用事項についての理論構築ができる力を身につけさせる。
- ③国公立大学の個別試験および私立大学入試に対応できる学力を養成する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
化学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身につけている。	化学的な事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	化学的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査等の分析 ・観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・レポート、提出物などの内容の確認や分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査等の分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポート、提出物などの内容の確認や分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポート、提出物などの内容の確認や分析 などから、評価します。
	<p>内容のまとめりごとに、次観点で評価します。 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 内容のまとめりごとの評価規準は授業等で説明します。 成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：4：2となります。</p>		

6 学習計画

月	単元名		教材	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4 5	化学平衡		教科書 副教材 プリント	<ul style="list-style-type: none"> ・化学反応には正逆いずれの方向にも進行するものがあること、その多くの場合、反応物も生成物も同時に存在する平衡状態に達することを学ぶ。また、その状態は平衡定数で表されることを学び、それをもとにして質量作用の法則を理解する。 ・ル・シャトリエの原理について学び、濃度・圧力・温度の変化とどのような関係があるのかを学ぶ。 ・平衡の状態を数値化（平衡定数）して表す、その取り扱い方を学ぶ。平衡定数を使えば、様々な状態が数値計算によって求められることを知る。また、平衡定数には濃度平衡定数と圧平衡定数があることを学ぶ。 ・電解質水溶液の化学平衡について、電解質の水溶液でも化学平衡が成り立つことを知り、代表的な弱酸や弱塩基について、濃度と電離度・電離定数などの関係を学ぶ。また、化学基礎で学んだpHをさらに深く学習し、電離定数を用いたpHの求め方を、演習を通して体得する。さらに、塩の加水分解、弱酸・弱塩基の遊離、緩衝液、難溶性電解質の電離平衡についても学ぶ。 	9	定期テスト 小テスト 授業の取組
5	定期テスト				1	

6	非金属元素		教科書 副教材 プリント	・非金属元素の無機物質各論について学習する。周期表の同族元素ごとに学習し、同族元素の性質の共通性や隣り合った族の元素の相違点を整理しながら、学習する。	8	定期テスト 小テスト 授業の取組
	非金属元素		教科書 副教材 プリント	・非金属元素の無機物質各論について学習する。周期表の同族元素ごとに学習し、同族元素の性質の共通性や隣り合った族の元素の相違点を整理しながら、学習する。	2	定期テスト 小テスト 授業の取組
	典型金属元素		教科書 副教材 プリント	・典型金属元素の無機物質各論について学習する。周期表の同族元素ごとに学習し、同族元素の性質の共通性や隣り合った族の元素の相違点を整理しながら、学習する。	7	定期テスト 小テスト 授業の取組
	遷移元素		教科書 副教材 プリント	・遷移金属元素の無機物質各論について学習する。周期表の同族元素ごとに学習し、同族元素の性質の共通性や隣り合った族の元素の相違点を整理しながら、学習する。	7	定期テスト 小テスト 授業の取組
	定期テスト				1	
7	有機化合物の分類と分析		教科書 副教材 プリント	・有機化合物の定義にふれ、炭素原子の結合の仕方によって様々な構造をもつことができる有機化合物について、正しく分類できるようにする。 ・有機化合物の分析の手順、方法を学ぶ。	2	定期テスト 小テスト 授業の取組
	脂肪族炭化水素		教科書 副教材 プリント	・脂肪族炭化水素について、単純な組成の炭化水素について学習し、性質の共通点を中心に理解を進める。	6	定期テスト 小テスト 授業の取組
8	定期テスト				1	
8 9	アルコールと関連化合物		教科書 副教材 プリント	・酸素を含む有機化合物について学習し、各分類された有機化合物の性質について共通点、特異点をおさえながら、学習する。	10	定期テスト 小テスト 授業の取組
9	芳香族化合物		教科書 副教材 プリント	・ベンゼン環をもつ有機化合物について学習する。単純な芳香族炭化水素から複雑な組成の芳香族化合物について学習し、各分類された有機化合物の性質について共通点、特異点をおさえながら、学習する。	8	定期テスト 小テスト 授業の取組
	定期テスト				1	
10	高分子化合物の性質		教科書 副教材 プリント	・高分子化合物とは何か、まずその特徴や性質について学ぶ。	2	定期テスト 小テスト 授業の取組

	天然高分子化合物		教科書 副教材 プリント	・有機高分子化合物の単量体である、単糖について学び、それらが縮合してできる二糖についても学ぶ。また、それらの性質についても学習する。 ・有機高分子化合物の単量体である、アミノ酸について学び、それらがどのような性質をもつかを学習する。また、それらが縮合重合してどのように高分子を形成し、どのような性質をもつかを学習する。	8	定期テスト 小テスト 授業の取組
	合成高分子化合物		教科書 副教材 プリント	・合成繊維・合成樹脂・ゴム・機能性高分子について、それぞれの単量体、それらが縮合重合してどのように高分子を形成し、どんな性質をもつようになるかを学習する。また、人工的に様々な機能をもつ高分子をどのようにつくっているかを学ぶ。	8	定期テスト 小テスト 授業の取組
11	総合演習		教科書 副教材 プリント	化学基礎～化学の全分野の総合演習	14	
12	定期テスト				1	
12	共通テスト対策		問題集	・共通テストに向けて各分野が理解されているか確認する。	12	授業の取組
1	共通テスト対策		問題集	・共通テストに向けマーク問題の演習を行い、実践力をつける。	10	授業の取組
2	国公立大学の個別試験および私立大学入試対策		問題集	・記述試験に対応できる応用力をつける。	10	授業の取組

計 128 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・ 单元ごとの演習プリント, 実験プリントの提出
- ・ 定期考査前の問題集ノート
- ・ 連休および長期休業中の課題

8 担当者からの一言

化学は、物質の性質などを知識として覚える面と化学反応の仕組みなどを理論的に理解していく面の二つの面があり、全体を結びつけて考えられるようになるまでには時間がかかります。それまでは、日々の授業を大切に、少しずつ知識と理解を積み重ねるという地道な努力を続けてほしい。その際、自分で考えたり感じたりすることが何より大切です。授業中に疑問に思ったことは、その場で質問すること。理解を深め、知識を整理するには自主的・主体的な学習が不可欠です。

教科(科目)	理科(生物)	単位数	4単位	学年	3学年(理系1・理系2)
使用教科書	『生物』(東京書籍)				
副教材等	「スクエア最新図説生物neo」(第一学習社)		「リードα生物」(数研出版)		

1 学習目標

生物や生物現象を更に広範に取り扱い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けさせるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めさせ、科学的な自然観を育てる。

2 指導の重点

- 教科書の基本的な内容の理解を深めるとともに、発展的な内容に対する興味・理解を高める。
- 観察・実験を多く取り入れ、探究の過程を重視した指導を進める。
- 問題演習に積極的に取り組み、学習の定着をはかるとともに、自ら学習の深化をはかる姿勢を育成する。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生物の環境への応答や生態系について、その基本的な概念・原理・法則などの理解・定着がなされている。	生物の環境への応答や生態系について、実証的・分析的・総合的に考察を進め、理解を深めようとしている。	生物の環境への応答や生態系に関する事物、現象について積極的に科学的探究を深めようとしている。

4 評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシートなどの内容確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシートなどの内容確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察、実験などへの積極性 ・レポートやワークシートなどの内容確認 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。 成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に4：4：2となります。		

5 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 ・ 5 月	3編第2章 発生と遺伝子発現 3章 遺伝子を扱う技術	教科書 副教材 プリント	染色体に遺伝子が存在することを学習する。有性生殖では、減数分裂と受精によって多様な遺伝子の組み合わせが生じることを理解させる。 動物の配偶子形成・受精と初期発生の過程を学習する。 細胞の分化や形態形成のしくみについて、誘導現象を中心に理解させる。 前後軸形成のしくみと形態形成を調節する遺伝子について学習する。	30	・授業への取組み ・レポート ・定期考査 ・課題テスト 等をもとに、総合的に判断する。

4 ・ 5 月			植物の配偶子形成・受精と胚発生の過程を学習し、器官分化における遺伝子のはたらきについて理解させる。		
6 ・ 7 月	4編1章 総物の刺激の需要と反応 2章 動物の行動	教科書 副教材 プリント	ニューロン（神経細胞）の基本的な構造とそのはたらきを理解させる。 受容器で受け取られた刺激（情報）が、神経系を介して、効果器へと至る経路を学習する。刺激の受容に関しては視覚器と聴覚器を、効果器に関しては筋肉を中心に学習する。 動物の行動については、神経系における情報の流れと関連づけながら学習する。	38	
8 月	3章 植物の環境応答	教科書 副教材 プリント	植物は成長を調節するなどして環境に応答していることを理解させる。 環境応答にはさまざまな植物ホルモンや光受容体が関与していることを学習する。	10	
9 ・ 10 ・ 11 月	5編 生態と環境	教科書 副教材 プリント	個体群や生物群集について、それぞれの特徴を学習する。 生物群集はさまざまな個体群の集まりによって構成されており、それぞれの個体群は、生態系内で特定の役割を果たしていることを理解させる。 生態系における物質生産について学習する。いくつかの生態系の物質生産の特徴や各栄養段階とエネルギー効率の関係について学習する。 生物多様性に影響を与える要因を理解させ、生物多様性の重要性を学習する。	50	
12 ・ 1 月	まとめ 入試対策	プリント	2年間で学んだ生物および生物基礎の内容について復習するとともに、センター試験や個別試験に向けた演習を行う。	32	

計160時間（55分授業）

6 課題・提出物等

各休業時や定期考査時には課題を提出することとなります。
授業内において、確認テストや小テストを行います。
実験・観察に際しては、レポートを提出することとなります。

7 担当者からの一言

現在最もめざましい展開をみせる生命科学、そして今後の地球環境の基盤を支える生物界についての理解を、意欲的に進めてほしい。また、2年間で学んだ生物の知識を通じて、今後の社会に科学的発信力を持てるようになって欲しい。

教科(科目)	理科(物理)	単位数	4単位	学年	3学年(理系)
使用教科書	第一学習社『高等学校物理』				
副教材等	第一学習社『セミナー物理』 数研出版『大学共通テスト対策 チェック&演習 物理』 数研出版『2025 物理重要問題集-物理基礎・物理-』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

- ・物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につけるようにする。
- ・観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- ・物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

3 指導の重点

- ① 物理量に関する定義などの基本事項を正しく理解させる。
- ② 授業を通して、具体的な物理現象と理論とを結びつけて理解させる。
- ③ 授業での学習内容を受けて、教科書の例題、問、練習問題、章末問題を自力で解かせるようにする。
- ④ 日々の自宅学習において、担当者の配布する練習問題および問題集の基本問題を確実に解かせる。
- ⑤ ④を繰り返すことで基礎の定着を図り、応用問題にも積極的に取り組ませる。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
物理学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身につけようとしている。	物理的な事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を身につけようとしている。	物理的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

5 評価方法

評	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査等の分析 ・実験への取組、式やグラフでの表現方法の観察 ・レポート、提出物などの内容の確認や分析などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査等の分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポート、提出物などの内容の確認や分析などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシートなどの内容確認などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。 成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：4：2となります。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 ～ 5	第Ⅰ章 運動とエネルギー 第5節 気体の性質と分子の運動 第Ⅱ章 波動 第1節 波の性質 第2節 音波	3. 気体の内部エネルギーと仕事 1. 正弦波 2. 波の伝わり方 1. 音の伝わり方 2. ドップラー効果 1学期中間考査まで	教科書 副教材	・熱力学第1法則を理解する。 ・各状態変化に伴う仕事を学習し、熱力学第1法則を適用できるようにする。 ・熱機関の熱効率を復習し、気体の状態変化と関連させて理解する。 ・波の伝わり方、干渉、回折などを理解する。 ・音の干渉、回折及びドップラー効果について基本的な性質を理解する。	10	・春課題考査 ・授業への取り組み ・実験レポート ・定期考査 ・定期考査範囲課題への取組状況等をもとに、総合的に判断する。
5 ～ 7	第3節 光波 第Ⅲ章 電気と磁気 第1節 電場と電位	1. 光の性質 2. レンズと鏡 3. 光の回折と干渉 1. 静電気力 2. 電場 3. 電位 4. コンデンサー 1学期期末考査まで	教科書 副教材	・光の伝わり方、レンズ、鏡の性質について理解する。 ・光の回折、干渉について理解する。 ・電荷が相互に及ぼす力、電気量の保存、電場の性質、電気力線、静電誘導、電荷の移動と仕事の関係などを理解する。	26	・授業への取り組み ・実験レポート ・定期考査 ・定期考査範囲課題への取組状況等をもとに、総合的に判断する。

7 ～ 9	<p>第2節 電流</p> <p>第3節 電流と磁場</p>	<p>4. コンデンサー</p> <p>1. 電流と抵抗 2. 直流回路 3. 半導体</p> <p>1. 磁場 2. 電流がつくる磁場 3. 電流が磁場から受ける力 4. ローレンツ力</p> <p>2学期中間考査まで</p>	教科書 副教材	<p>・コンデンサーの充電と放電、電気容量、空気中に置かれた平行板コンデンサーの性質を理解する。</p> <p>・コンデンサーに蓄えられたエネルギーやコンデンサーを含む回路のスイッチの切り換えなどの問題を理解する。</p> <p>・キルホッフの法則、抵抗率の温度変化、電池の起電力と内部抵抗など、電気回路について理解する。</p> <p>・ホイートストンブリッジ、メートルブリッジ、電位差計などの機器の測定回路を理解する。</p> <p>・半導体、ダイオード、トランジスタなどについて理解する。</p> <p>・直線電流のまわり、円形電流の中心、ソレノイドの内部にどのような磁場ができるか理解する。また電流が磁場から受ける力を著す式を扱い、ローレンツ力についても理解する。</p>	26	<p>・授業への取り組み</p> <p>・実験レポート</p> <p>・定期考査</p> <p>・定期考査範囲課題への取組状況</p> <p>・夏休み課題への取組状況等をもとに、総合的に判断する。</p>
9 ～ 12	<p>第4節 電磁誘導と交流</p> <p>第IV編 原子 第1節 電子と光</p> <p>第2節 原子と原子核</p>	<p>1. 電磁誘導 2. 自己誘導と相互誘導 3. 交流 4. 電磁波</p> <p>1. 電子 2. 光の粒子性 3. X線 4. 粒子の波動性</p> <p>1. 原子の構造 2. 原子核と放射線 3. 核反応とエネルギー 4. 素粒子と宇宙</p> <p>2学期期末考査まで</p>	教科書 副教材	<p>・コイルを貫く磁束が変化するとき及び導線が磁束を横切るときに生じる誘導起電力、自己誘導、相互誘導、交流発電機の仕組みなどを理解する。</p> <p>・電磁波の基本的な性質や電波がどのように利用されているかを理解する。</p> <p>・電子の比電荷、電気素量を理解する。</p> <p>・光電効果、光量子仮説、電子波回折、物質波などを扱い、X線についても理解する。</p> <p>・スペクトルの波長に規則性があることや、ボーアの原子モデルなどを理解する。</p> <p>・原子核の構成、原子核の崩壊及び核反応について理解する。</p> <p>・素粒子については、クォークとレプトンなどの存在を知り、基本的な力などについて知る。</p>	26	<p>・授業への取り組み</p> <p>・実験レポート</p> <p>・定期考査</p> <p>・定期考査範囲</p> <p>・課題への取組状況等をもとに、総合的に判断する。</p>

12 ～ 3	まとめ 総復習 入試対策	1次特編授業 センター試験対策 2次特編授業 個別試験対策	教科書 副教材	問題演習を通して、大学入試などの答えのある高度な問題解決能力を身につける。	40	

7 課題・提出物等

- ① 授業で課す課題を一定期間ごとに提出。
- ② 長期休業前に課題を指示し、新学期開始時に提出。
- ③ 外部模試の実施前に、対策用として過去の問題を配布。

8 担当者からの一言

予習について … 授業前に教科書をよく読む。

授業について … 授業をよく聞き、考えながら板書事項をノートに書き取る。不明な点は、必ず教科担当者に質問をして解決を図ること。

復習について … 教科書・ノートで授業内容の再確認を行い、配布されたプリントの未解答の問題に取り組むこと。問題集の問題は授業と並行しながら進め、時期をおいて繰り返し行うこと。内容の定着こそ実力アップの鍵である。

実力向上 … 自分にあった参考書や問題集を早期に見つけ演習を何度も繰り返す。外部模試は良問の宝庫。過去の問題も含めて復習は不可欠。

物理は、個々の物理法則を言葉・式・グラフなどで表現でき、その成立条件を明確に把握し、他者に説明できるようになってはじめて完全に理解したこととなる。この域に達すれば物理の「おもしろさ」「奥深さ」が分かり、問題も容易に解くことができるようになる。覚えるべき内容は他教科に比べ決して多くないので、一つひとつの物理概念に対する理解を深める努力をしてもらいたい。

令和7年度シラバス (理科) 学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科 (科目)	理科 (化学生物総合)	単位数	4単位	学年 (コース)	3学年(文系)
使用準教科書	東京書籍『生物基礎』 数研出版『化学基礎』				
副教材等	数研出版『チェック&演習 生物基礎』 文英堂『必修整理ノート化学基礎』 第一学習社『標準セミナー 化学基礎』 数研出版『チェック&演習 化学基礎』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを实践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

生物や生物現象および化学的な事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、生物学的および化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学および化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、豊かな自然観を醸成し、将来遭遇する様々な事象に対して科学的な態度で解決に立ち向かう姿勢を育成する。

3 指導の重点

大多数の生徒が大学進学を希望していることより、

① 生物基礎と化学基礎の探究活動や発展内容を活用し、興味関心を高めるとともに、科学的素養を育成する。

② 生物および化学の課題解決学習を通して、科学的思考力・判断力を育成する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査等の分析 ・観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・レポート、提出物などの内容の確認や分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査等の分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポート、提出物などの内容の確認や分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポート、提出物などの内容の確認や分析 などから、評価します。

<p>内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」「B：おおむね満足できる」「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価基準は授業で説明します。</p> <p>成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に4：4：2となります。</p>
--

6 学習計画

月	単元名	教材	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	生物の特徴 化学と人間生活	教科書 副教材 プリント	<ul style="list-style-type: none"> 生物の分類と系統、細胞の活動とタンパク質、細胞の構造とはたらきについて既習事項を復習し、発展的な内容の学習を行う。細胞の観察を通して、理解を深める。 化学と人間生活とのかかわり 物質の探究 	12	定期テスト 小テスト 提出物
5	生物の特徴 化学と人間生活	教科書 副教材 プリント	<ul style="list-style-type: none"> 4月のつづき 	4	定期テスト 小テスト 提出物
	定期テスト			1	1
	生物の特徴 物質の状態と平衡	教科書 副教材 プリント	<ul style="list-style-type: none"> 酵素のはたらき、光合成、呼吸と発酵、生命の起源について既習事項を復習し、発展的な内容の学習を行う。 酵素反応の観察や光合成に関する探究を行う。 物質の状態とその変化 	8	定期テスト 小テスト 提出物
6	生物の特徴 物質の構成	教科書 副教材 プリント	<ul style="list-style-type: none"> 5月のつづき 物質の構成粒子 物質と化学結合 	14	定期テスト 小テスト 提出物
	定期テスト			1	1
7	遺伝子とそのはたらき 無機物質の性質と利用	教科書 副教材 プリント	<ul style="list-style-type: none"> DNAやタンパク質の構造と性質、複製と転写・翻訳、遺伝子の発現調節について、既習事項を復習し、発展的な内容の学習を行う。 DNAの抽出やパフの観察などの実験を通して理解を深める。【実験】パフの観察 無機物質と人間生活 	12	定期テスト 小テスト 提出物

8	遺伝子とそのはたらき 物質の変化	教科書 副教材 プリント	・7月のつづき ・物質と化学反応式 【実験】化学反応の量的関係	4	定期テスト 小テスト 提出物
9	生物の体内環境の維持 物質の変化	教科書 副教材 プリント	・体液、腎臓、肝臓、神経、ホルモン、免疫について、既習事項を復習し、発展的な内容の学習を行う。 ・8月のつづき	1 2	定期テスト 小テスト 提出物
	定期テスト			1	1
10	生物の多様性と生態系 物質の変化	教科書 副教材 プリント	・植生やバイオームについて既習事項を復習し、発展的な内容の学習を行う。 ・中和反応 ・酸化還元反応 【実験】金属のイオン化傾向	1 4	定期テスト 小テスト 提出物
11	生物の多様性と生態系 化学変化とエネルギー	教科書 副教材 プリント	・生態系の成り立ち、物質循環とエネルギーの流れ、生態系と生物多様性について、既習事項を復習し、発展的な内容の学習を行う。 ・まとめ学習を行う。問題解決学習を行う。 ・電池、電気分解	1 4	定期テスト 小テスト 提出物
	定期テスト			1	1
12	課題解決学習	プリント	生物に関する課題解決学習 化学に関する課題解決学習	1 2	提出物
1	課題解決学習	プリント	生物に関する課題解決学習 化学に関する課題解決学習	1 0	提出物
2	課題解決学習	プリント	生物に関する課題解決学習 化学に関する課題解決学習	8	提出物

計128時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

- ・観察や実験のレポート
- ・単元ごとの小テスト
- ・春、夏季休業中の課題

8 担当者からの一言

目的意識をもった自発的学習がより重視されています。文系においても豊かな自然観と科学的思考が求められています。基礎的事項をしっかりと理解し、様々な事象を解決していける考え方を身につけてほしい。また、考える過程がより重視されています。記憶に頼る学習ではなく、解決法を見出す意識で学習することが大切です。

教科(科目)	保健体育(体育)	単位数	3単位	学年	1学年(普通科)
使用教科書	大修館 「現代高等保健体育」保体701				
副教材等	ステップアップ 高校スポーツ2025				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>体育・スポーツに親しみ、積極的に体力の充実をはかり、自信をもって学校生活を送ることのできる気魄ある人間を育成する。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	<p>運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。</p>
思考・判断・表現 b	<p>生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>
主体的に学習に取り組む態度 c	<p>運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養おうとしている。</p>

5 評価方法

1年間の評定は、1学期～3学期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

	評価方法	
知識・技能	<p>以上の観点を踏まえ、行動観察、体育日誌、体育週番、技能テストなどから、評価します。</p>	<p>内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」「B：おおむね満足できる」「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：3：3となります。</p>
思考・判断・表現	<p>以上の観点を踏まえ、行動観察、体育日誌、体育週番、学習カード、ワークシートなどから、評価します。</p>	
主体的に学習に取り組む態度	<p>以上の観点を踏まえ、行動観察、体育日誌、自主的・協調性のある取組、記録会・ゲーム・試合・発表会の結果、学習カード、ワークシートなどから、評価します。</p>	

6 学習計画（1単位時間 55分）

合計 96時間	4月 (8時間)	5月 (9時間)	6月 (11時間)	7月 (8時間)	8月 (3時間)	9月 (11時間)	10月 (8時間)	11月 (11時間)	12月 (8時間)	1月 (8時間)	2月 (8時間)	3月 (3時間)
男女	リエンテーション(1) 体づくり運動(10) 陸上競技(5) 短距離走		陸上競技(12)・水泳(12) (男女入れ替えて実施)			陸上競技 持久走 (10)	領域選択Ⅰ(16) バスケットボール バドミントン 柔道		体育 理論 (6)	領域選択Ⅱ(16) ダンス バレーボール 器械運動		水泳以外の 領域選 択(8) 計 96時間

単元名	学習活動(指導内容)	評価方法
集団行動	仲間と協力し、統制の取れた動きを実現するために、練習の仕方や号令のかけ方を工夫しようとしている。	行動観察 体育日誌
学校体操	本校伝統の学校体操。運動の特性を理解し、協力しながら全員が覚えて行動しようとしている。	行動観察 テスト、技能テスト
体づくり運動	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、自己の体力や生活に応じた継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てようとしている。	行動観察 体育日誌 学習カード、ワークシート等
体育理論	スポーツの意義や歴史、文化的特徴や、現代スポーツを取り巻くさまざまな問題について理解を深めようとしている。	行動観察 プリント、学習カード レポート、ワークシート等
陸上競技	記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を身につけようとしている。	行動観察 体育日誌、学習カード 記録、技能テスト
球技選択	勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できる。	行動観察 体育日誌、学習カード テスト、技能テスト
器械運動	技がよりよくできたり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、「自己に適した技で演技する」ことができる。	行動観察 体育日誌 発表会、学習カード
水泳	記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、「自己に適した泳法を身につけ、その効率を高めて泳ぐ」ことができる。	行動観察 体育日誌、学習カード 記録、技能テスト
柔道	基本動作と基本となる技を用いて攻防を展開できるようにし、勝敗を競ったり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、得意技などを用いた攻防を展開することができる。	行動観察 体育日誌、学習カード
ダンス	感じを込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったり、自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、それぞれ特有の表現や踊りを身につけて交流や発表をしようとしている。	行動観察 体育日誌 発表会、学習カード

計96時間（1単位時間 55分）

7 課題・提出物等

学校体操、体育週番日誌、体育理論レポート、学習カード、ワークシート

8 担当者からの一言

柏高体育に早く慣れ、本校の教育目標にある「気魄ある人間」になれるよう積極的に体を動かし運動に親しみましょう。

教科(科目)	保健体育(体育)	単位数	2単位	学年	2学年
使用教科書	大修館 「現代高等保健体育」 保体701				
副教材等	ステップアップ 高校スポーツ2024				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。</p> <p>(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>体育・スポーツに親しみ、積極的に体力の充実をはかり、自信をもって学校生活を送ることのできる気魄ある人間を育成する。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	<p>運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけている。</p>
思考・判断・表現 b	<p>生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>
主体的に学習に取り組む態度 c	<p>運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養おうとしている。</p>

5 評価方法

	評価方法	
知識・技能	<p>以上の観点を踏まえ、行動観察、体育日誌、体育週番、技能テストなどから、評価します。</p>	<p>内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」「B：おおむね満足できる」「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：3：3となります。</p>
思考・判断・表現	<p>以上の観点を踏まえ、行動観察、体育日誌、体育週番、学習カード、ワークシートなどから、評価します。</p>	
主体的に学習に取り組む態度	<p>以上の観点を踏まえ、行動観察、体育日誌、自主的・協調性のある取組、記録会・ゲーム・試合・発表会の結果、学習カード、ワークシートなどから、評価します。</p>	

1年間の評定は、1学期～3学期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

6 学習計画（1単位時間 55分）

合計 64時間	4月 (6時間)	5月 (6時間)	6月 (7時間)	7月 (5時間)	8月 (2時間)	9月 (7時間)	10月 (5時間)	11月 (7時間)	12月 (5時間)	1月 (6時間)	2月 (5時間)	3月 (3時間)
男女	リエンション(1) 体づくり運動(3) 陸上競技(8) スポーツ		領域選択Ⅲ(7) フットボール・サッカー 水泳(7) (男女入れ替えて実施)			陸上競技(6) 持久走	体づくり運動(2) 選択Ⅳ(8) バスケットボール バドミントン 器械運動		体育理論(6)	体づくり運動(2) 選択Ⅳ(8) ハンドボール バレーボール 柔道		水泳以外の領域選択(6) 計 64時間

単元名	学習活動(指導内容)	評価方法
体づくり運動	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくりの運動の行い方などを理解するとともに、実生活に役立てること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び体づくり運動に主体的に取り組むとともに、協力、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保しようとしている。	行動観察 体育日誌
体育理論	運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解している。	行動観察 レポート、学習カード ワークシート等
陸上競技	多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方などを理解するとともに、各種目特有の技能を身につけること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び陸上競技に主体的に取り組むとともに、公正、責任、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保しようとしている。	行動観察、技能テスト 体育日誌、学習カード、 記録会、ワークシート等
球技選択	多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方などを理解するとともに、仲間と連携しゲームを展開すること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び球技に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を育み、健康安全を確保しようとしている。	行動観察、技能テスト 体育日誌、学習カード、 記録会、ワークシート等
器械運動	多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方などを理解するとともに、自己に適した技で演技すること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び器械運動に主体的に取り組むとともに、公正、協力、共生などの意欲を育み、健康安全を確保しようとしている。	行動観察、技能テスト 体育日誌、学習カード、 記録会、ワークシート等
水泳	多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方などを理解するとともに、自己に適した泳法の効率を高めて泳ぐこと、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び水泳を主体的に取り組むとともに、公正、協力、共生などの意欲を育み、健康安全を確保しようとしている。	行動観察、技能テスト 体育日誌、学習カード、 記録会、ワークシート等
柔道	多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方などを理解するとともに、技の名称や行い方などを理解するとともに、攻防を展開すること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び武道を主体的に取り組むとともに、伝統的な行動の仕方、責任、共生などの意欲を育み、健康安全を確保しようとしている。	行動観察、技能テスト 体育日誌、学習カード、 記録会、ワークシート等
ダンス	多様な楽しさや喜びを味わい、ダンスの名称や用語などを理解するとともに、交流や発表をすること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及びダンスに主体的に取り組むとともに、協力、参画、共生などの意欲を育み、健康安全を確保しようとしている。	行動観察、技能テスト 体育日誌、学習カード、 記録会、ワークシート等

計64時間（1単位時間 55分）

7 課題・提出物等

体育週番日誌、選択体育ノート、選択授業相互評価用紙、体育理論レポート、ワークシート

8 担当者からの一言

心身ともに一番成長する学年です。より「自発的・積極的」に運動に取り組み、自分を磨きましょう。

教科(科目)	保健体育(体育)	単位数	2単位	学年	3学年(普通科)
使用教科書	大修館 「現代高等保健体育」 保体701				
副教材等	ステップアップ 高校スポーツ 2023				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。</p> <p>(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>体育・スポーツに親しみ、積極的に体力の充実をはかり、自信をもって学校生活を送ることのできる気魄ある人間を育成する。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	<p>運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけている。</p>
思考・判断・表現 b	<p>生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>
主体的に学習に取り組む態度 c	<p>運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養おうとしている。</p>

5 評価方法

1年間の評定は、1学期～3学期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

	評価方法	
知識・技能	<p>以上の観点を踏まえ、行動観察、体育日誌、体育週番、技能テストなどから、評価します。</p>	<p>内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」「B：おおむね満足できる」「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：3：3となります。</p>
思考・判断・表現	<p>以上の観点を踏まえ、行動観察、体育日誌、体育週番、学習カード、ワークシートなどから、評価します。</p>	
主体的に学習に取り組む態度	<p>以上の観点を踏まえ、行動観察、体育日誌、自主的・協調性のある取組、記録会・ゲーム・試合・発表会の結果、学習カード、ワークシートなどから、評価します。</p>	

6 学習計画（1単位時間 55分）

合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
64時間	(5時間)	(6時間)	(6時間)	(6時間)	(2時間)	(7時間)	(7時間)	(7時間)	(6時間)	(6時間)	(4時間)	(2時間)
男 女	オリエンテーション (1) 体づくり運動(3) 選択VI(10) 陸上競技 柔道 ダンス	体づくり運動(3) 選択VII(11) フットボール サッカー 水泳 器械運動				陸上競技 (6) (持久走)		体づくり運動 (3) 選択VIII(11) バスケットボール バレーボール バドミントン 卓球	水泳以外の 領域選択(10) 計 58時間			

単元名	学習活動(指導内容)	評価方法
体づくり運動	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくりの運動の行い方などを理解するとともに、実生活に役立てること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び体づくり運動に主体的に取り組むとともに、協力、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保しようとしている。	行動観察 体育日誌
体育理論	運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解している。	行動観察 レポート、学習カード ワークシート等
陸上競技	多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方などを理解するとともに、各種目特有の技能を身につけること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び陸上競技に主体的に取り組むとともに、公正、責任、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保しようとしている。	行動観察、技能テスト 体育日誌、学習カード、 記録会、ワークシート等
球技選択	多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方などを理解するとともに、仲間と連携しゲームを展開すること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び球技に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を育み、健康安全を確保しようとしている。	行動観察、技能テスト 体育日誌、学習カード、 記録会、ワークシート等
器械運動	多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方などを理解するとともに、自己に適した技で演技すること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び器械運動に主体的に取り組むとともに、公正、協力、共生などの意欲を育み、健康安全を確保しようとしている。	行動観察、技能テスト 体育日誌、学習カード、 記録会、ワークシート等
水 泳	多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方などを理解するとともに、自己に適した泳法の効率を高めて泳ぐこと、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び水泳を主体的に取り組むとともに、公正、協力、共生などの意欲を育み、健康安全を確保しようとしている。	行動観察、技能テスト 体育日誌、学習カード、 記録会、ワークシート等
柔 道	多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方などを理解するとともに、技の名称や行い方などを理解するとともに、攻防を展開すること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び武道を主体的に取り組むとともに、伝統的な行動の仕方、責任、共生などの意欲を育み、健康安全を確保しようとしている。	行動観察、技能テスト 体育日誌、学習カード、 記録会、ワークシート等
ダンス	多様な楽しさや喜びを味わい、ダンスの名称や用語などを理解するとともに、交流や発表をすること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及びダンスに主体的に取り組むとともに、協力、参画、共生などの意欲を育み、健康安全を確保しようとしている。	行動観察、技能テスト 体育日誌、学習カード、 記録会、ワークシート等

計 64 時間（1 単位時間 55 分）

7 課題・提出物等

体育週番日誌、選択体育ノート、選択授業相互評価用紙、体育理論レポート、学習カード、ワークシート

8 担当者からの一言

年間の集大成として、授業の計画から授業の運営、そして評価までを生徒自身で実践します。生涯スポーツにつなげるべく、楽しく安全にバラエティーに富んだ練習や競技会を企画し、運営方法を学んでいきましょう。また、困難に負けない体力と精神力を身につけ、学年全員で立ち向かう準備をしましょう。

教科(科目)	保健体育(保健)	単位数	1単位	学年	1学年(普通科)
使用教科書	大修館 「現代高等保健体育」保体701				
副教材等	大修館 「図説 現代高等保健」保体701				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

<p>保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>健康問題や社会の変化とともに、健康のとらえ方や健康問題への対策のありかたを学び、生活習慣や感染症、さらに薬物乱用、心の問題、交通安全など、現代の健康問題とその対策について理解を深める。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
<p>個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。</p>	<p>健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。</p>	<p>生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習を主体的に取り組もうとしている。</p>

5 評価方法

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	<p>以下の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・観察 <p>などから評価します。</p>	<p>以下の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・観察 ・提出物などの内容 <p>などから評価します。</p>	<p>以下の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・課題等の内容 ・定期考査 <p>などから評価します。</p>
	<p>内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。</p> <p>成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：3：3となります。</p>		

6 学習計画（1単位時間55分）

月	単元名	教材	学習活動（学習内容）	時間	評価方法						
4 5 6	1 現代社会と 健康	現代高等 保健体育	1 健康の考え方と成り立ち 2 私たちの健康のすがた 3 生活習慣病の予防と回復	10	観察 課題等の内容 定期考査						
7 8 9 10 11			図説 現代高等保健			4 がんの原因と予防 5 がんの治療と回復 6 運動と健康 7 食事と健康					
						8 休養・睡眠と健康 9 喫煙と健康 10 飲酒と健康 11 薬物乱用と健康 12 精神疾患の特徴 13 精神疾患の予防 14 精神疾患からの回復 15 現代の感染症 16 感染症の予防 17 性感染症・エイズとその予防 18 健康に関する意思決定・行動選択 19 健康に関する環境づくり	14	観察 課題等の内容 定期考査			
						12 1 2 3			2	8	観察 課題等の内容 定期考査
						1			1 事故の現状と発生要因 2 安全な社会の形成 3 交通における安全 4 応急手当の意義とその基本 5 日常的な応急手当 6 心肺蘇生法		

計32時間（1単位時間55分）

7 課題・提出物等

授業ノート、各種レポート、AED や心配蘇生法を実際に使えるようになる（課外I期に実施）

8 担当者からの一言

高校進学とともに、体も心も大きく成長する時期です。現代の健康問題や新しい時代の健康の考え方などについて学び、自ら実践できるようにしましょう。

教科(科目)	保健体育(保健)	単位数	1単位	学年	2学年(普通科)
使用教科書	大修館 「現代高等保健体育」保体701				
副教材等	大修館 「図説 現代高等保健」保体701				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

<p>保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりをめざし、明るく豊かな活力ある生活を営む態度を養う。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
<p>個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。</p>	<p>健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。</p>	<p>生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習を主体的に取り組もうとしている。</p>

5 評価方法

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	<p>以下の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・観察 <p>などから評価します。</p>	<p>以下の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・観察 ・提出物などの内容 <p>などから評価します。</p>	<p>以下の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・課題等の内容 ・定期考査 <p>などから評価します。</p>
	<p>内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。</p> <p>成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：3：3となります。</p>		

6 学習計画（1単位時間55分）

月	単元名	教材	学習活動（学習内容）	時間	評価方法			
4 5 6	3 生涯を通 じる健康	現代高等 保健体育	1 ライフステージと健康 2 思春期と健康 3 性意識と性行動の選択 4 妊娠・出産と健康 5 避妊法と人工妊娠中絶 6 結婚生活と健康	10	観察 課題等の内容 定期考査			
7 8			7 中高年期と健康 8 働くことと健康 9 労働災害と健康 10 健康的な職業生活	14		観察 課題等の内容 定期考査		
9 10 11	図説 現代高等 保健		1 大気汚染と健康 2 水質汚濁・土壌汚染と健康 3 環境と健康にかかわる対策 4 ごみ処理と上下水道の整備 5 食品の安全性 6 食品衛生にかかわる活動					
12 1 2 3			4 健康を支 える環境 づくり		7 保健サービスとその活用 8 医療サービスをその活用 9 医薬品の制度とその活用 10 さまざまな保健活動や社会的政策 11 健康に関する環境づくりを社会参加		8	観察 課題等の内容 定期考査

計32時間（1単位時間55分）

7 課題・提出物等

授業ノート、各種レポート

8 担当者からの一言

大人の心や体に近づく高校生の時期に、思春期から中高年期までの健康問題について学び、理解しましょう。
また、生涯を通じて健康を守るために必要な知識と実践力を身につけましょう。

教科(科目)	芸術(音楽Ⅰ)	単位数	2単位	学年	1学年(普通科)
使用教科書	教育芸術社『MOUSAⅠ』				
副教材等	教育芸術社『音楽の鑑賞資料と基礎学習』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

<p>音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>1 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけるようにする。</p> <p>2 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。</p> <p>3 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>学習目標を達成させるため、</p> <p>①歌唱や器楽などによる表現活動および鑑賞の幅広い学習を通して音楽への興味、関心を高めます。</p> <p>②自己のイメージを表現するための技能を身につけ、それを生かして創造的な音楽表現を目指します。</p> <p>③鑑賞を通して音楽文化の理解を深め、音楽を形作っている要素や要素同士の関連を学びます。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。</p> <p>・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。</p>	<p>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。</p>	<p>主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

5 評価方法

評 価 方 法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・振り返りテストの分析 ・ノートやワークシート、プリント等、 提出物などの内容の確認 ・実技試験 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・ノートやワークシート、プリント等、 提出物などの内容の確認 ・実技試験 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取り組みや発言、発表の内容の 観察 ・ノートやワークシート、プリント等、 提出物などの内容の確認 などから、評価します。
	内容のまとめりに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとめりにごとの評価規準は授業で説明します。 成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、3：3：4となります。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5 6 7	オリエンテーション	表現		・目標と学習内容を理解する。 ・自己紹介シート	1	・授業への取り組み
	歌唱 楽典	表現	校歌	・校歌の作詞・作曲者や歌詞の内容などを 知る。 ・曲想と音楽の構造や歌詞の関わりにつ いて理解する。 ・音名を理解する。	3	・ワークシート ・ノート学習・提出 ・歌唱テスト ・授業での取り組み
	楽典	表現	音符・休 符の読み 方・書き 方	・音符、休符の正しい読み方・書き方を 身につけ、表現に生かすようにする。	2	・ノート学習・提出 ・授業での取り組み
	器楽	表現	表現を工 夫してギ ターを弾 こう	・曲想とギターの色や奏法との関係を 理解し、曲にふさわしい奏法技能を身に 付けながらなどイメージを持って表現 を工夫して演奏する。	8	・ワークシート ・実技テスト ・授業での取り組み
	歌唱	表現	日本・イ タリア歌 曲	・曲の性格をとらえ、それぞれにふさわ しい表現になるよう工夫する。	6	・ワークシート ・ノート学習・提出 ・歌唱テスト ・授業での取り組み
	鑑賞	鑑賞	日本の伝 統音楽の 鑑賞	・さまざまな日本の伝統音楽について学 び、楽曲を鑑賞する。	4	・ワークシート ・授業での取り組み

8 9 10 11	器楽	表現	三味線 (または 三線)	・調絃や勘所の押さえ方など、三味線(または三線)の正しい奏法を身につけ、曲を演奏する。	10	・ワークシート ・実技テスト ・授業での取り組み
	楽典	表現	コードについて	・コードのしくみを理解し、コード進行をもとに簡単なメロディを創作する。	4	・ノート学習・提出 ・授業での取り組み
	器楽	表現	キーボードで伴奏を弾こう ギターで伴奏を弾こう	・前回学んだ楽典の内容を生かし、楽譜を見ながらコード伴奏を完成させる。 ・メロディに合わせて演奏する。 ・楽譜を見ながらコード伴奏を弾く。 ・メロディも覚え、ロずさみながら曲に合った奏法を理解し表現を工夫しながら演奏する。	12	・振り返りシート ・実技テスト ・授業での取り組み ・ワークシート ・実技テスト ・授業での取り組み
12 1 2 3	鑑賞	鑑賞	音楽の様々な要素を探ろう	・音楽を形作っている要素や働きに注目しながら曲を聴き、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解する。 ・根拠を持って曲や演奏を批評する。	4	・ワークシート ・授業での取り組み
	楽典	表現	リズムアンサンブル	・今まで学んだ楽典の内容を復習し、リズムの創作をする。 ・グループでリズムアンサンブル演奏を行う。 ・協働的に表現活動をしている。	10	・ワークシート ・演奏発表 ・授業での取り組み

計 64時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

- ・歌唱や器楽の実技テストを学期ごとに実施しています。
- ・歌唱や鑑賞で取り上げる作品についてはノートやワークシートを記入し、学習後は提出してもらいます。

8 担当者からの一言

音楽は好きだけれども楽譜が読めない、楽器演奏の仕方が分からない等を少しでも「わかる」「できる」ようにしていきます。また演奏、鑑賞を通して音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わりを学び、音楽的な見方・考え方を身につけていきましょう。真剣に取り組むようにしてください。

教科(科目)	芸術Ⅰ(書道Ⅰ)	単位数	2単位	学年	1学年(普通科)
使用教科書	書Ⅰ(教育図書)				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

<p>書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 書のおよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>

3 指導の重点

<p>(1) 漢字仮名交じりの書では、身近なことばや、詩歌などを題材として学習する。</p> <p>(2) 漢字の書では、楷書・行書を中心に、様々な書体や書風について学習する。</p> <p>(3) 仮名の書では、その成立を理解し、その美しさと技法を学習する。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。</p> <p>・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。</p>	<p>・書のおよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりしている。</p>	<p>・書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。</p>

5 評価方法

評	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・課題や作品の確認 ・レポートやプリントなどの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・課題や作品の確認 ・レポートやプリントなどの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・課題や作品の確認 ・レポートやプリントなどの内容の確認 などから、評価します。
	内容のまとめりに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとめりの評価規準は授業で説明します。 成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」 の順に、3：3：4となります。		

6 学習計画

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	導入 漢字仮名 交じりの書	ことばを 書く	書の伝統と文化 用具用材の理解 執筆法、用筆法	・書写から書道へ ・書の歴史 ・書美と書表現の理解	6	制作作品
5 6	漢字の書	楷書の古典 北魏・唐代 の楷書	楷書の鑑賞と臨書	楷書の多様な書風を鑑賞 し、用筆法や字形の違いを 理解する。	14	制作作品 鑑賞シート
7 8 9	漢字の書	行書の古典 蘭亭序など	行書の鑑賞と臨書	行書の特徴を理解し、その 表現の技能を身につける。	16	制作作品 鑑賞シート
10	漢字の書	創作作品	楷書と行書による創作	半紙以上の大きな紙面に、 楷書と行書による創作を行 う。	6	制作作品 制作シート
11	篆刻の学習	篆刻用具	落款印の作成	印の歴史を学び、篆刻の手 順と技法の理解を深める。	6	制作作品 制作シート
12	仮名の書	仮名の古典	仮名の成立と書美	仮名の成立を理解し、その 書美を実践する。	4	制作作品
1	漢字仮名 交じりの書	名言、詩	漢字仮名交じり の書と書表現	今までに習得してきた書表 現を生かし、身近なことば や詩文に親しむ。	6	制作作品
2 3	作品制作	古典臨書 創作作品	課題研究 書表現の実践	1年間の集大成として自主 課題の作品制作をする。	6	制作作品

計 64時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

・制作した作品。制作シート・鑑賞シートなど。

8 担当者からの一言

中学校までの「書写」とは違い、高校の芸術教科として学ぶ「書道」では、古典から様々な書体を学びます。それらは整っているものばかりではなく、多種多様です。書道を学ぶことで、それぞれの魅力を感じられる幅広い視野が養われ、表現力や感性を高めることができるでしょう。

教科(科目)	芸術（美術Ⅰ）	単位数	2単位	学年	1学年(普通科)
使用教科書	高校生の美術1（日本文教出版）				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

<p>美術の幅広い創造活動を通して造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じ表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>

3 指導の重点

<p>①美術の幅広い創造活動や鑑賞に親しみ、そして取り組む。</p> <p>②創造する事の価値を捉え、自己や他者の作品などに表れている創造性を尊重する態度の形成。</p> <p>③表現方法を創意工夫し、発想や構想したことを基に創造的に表す技能を身につける。</p> <p>④主題の生成から表現の確認及び完成に至る過程を通し、自分の良さを発見し喜びを味わう。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。</p> <p>・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。</p>	<p>造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発送や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。</p>	<p>美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>

5 評価方法

評 価 方 法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以下の観点を踏まえ、 ・授業内課題作品の確認 ・レポートや授業内プリントなどの内容の確認 などから、評価します。	以下の観点を踏まえ、 ・授業内の質問や発言の観察 ・授業内課題作品とそれに伴うエスキースの確認 などから、評価します。	以下の観点を踏まえ、 ・授業内の質問や発言の観察 ・授業内課題作品とそれに伴うエスキースの確認 ・レポートや授業内プリントなどの内容の確認 などから、評価します。
	<p>内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。 成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」 の順に、3：3：4となります。</p>		

6 学習計画

月	単元名	教材	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	ガイダンス 自己紹介 イラスト	デザイン	・美術とは何か ・自身を言葉ではなく絵で自己紹介する	2	提出作品（思考の確認） エスキース（記述の点検） 授業内態度（行動の確認）
4 ～ 6	色彩構成と 切り絵	色彩構成	・明暗、色彩、彩度対比を使用する ・色から感じ取れるイメージについて学ぶ ・色の対比やそれに伴う色の見え方を学ぶ	12	ワークシートと提出作品（練習用課題への取り組みと技能の確認） エスキース（思考の確認） （記述の点検） 授業態度（行動の確認）
6 ～ 8	鳥獣戯画	鑑賞 絵画	・鳥獣戯画や絵巻物を鑑賞し、学ぶ ・筆使いやタッチを学び、自身の作品へ取り入れる	10	提出作品（練習プリントによる実技と知識の確認と点検） エスキース（思考の確認と記述の点検） 授業態度（行動の確認）
8 ～ 10	アニメーション の基礎	映像 メディア	・フリップブックを用いてアニメーションの基礎を学ぶ ・映像表現における動きなどの視覚的要素について考え、創造的な表現の構想を練る	12	提出作品（練習作品による実技と知識の確認と点検） アイデアスケッチとエスキース（思考の確認と記述の点検） 授業態度（行動の確認）
10 ～ 12	ロゴデザイン	デザイン 絵画	・企業のロゴデザインを考える ・ロゴデザインの目的や条件、美しさについて学ぶ	10	提出作品（技能の確認） アイデアスケッチとエスキース（思考の確認と記述の点検） 授業態度（行動の確認）
12 ～ 2	自分の国と 建国記念切手	デザイン	・自身で新たな国を想像し、国旗や歴史などの詳細を考える ・記念切手を作成する際に、切手の役割に	10	提出作品（実技の確認） ワークシート（思考の確認と記述の点検）

			ついで考える ・作品の発表と鑑賞		授業態度（行動の確認）
2 ～ 3	自分を描く	絵画	・自分自身のパーツを一部デッサンし作品とする。 ・全身クロッキーを行い、素早くものの形を捉える目を養う。	8	提出作品（練習プリントによる実技と知識の確認と点検） エスキース（思考の確認と記述の点検） 授業態度（行動の確認）

計64時間（55分授業）

7 課題・提出物等

作品／クロッキー、アイデアスケッチ、ラフスケッチ／課題、感想、アンケート／鑑賞レポート／自習課題

8 担当者からの一言

高校の美術（芸術）の授業は、ほぼこの講座のみである。授業を通して創造力を養い、美術の楽しさや美術に親しむ心を育み、生涯にわたり美術を愛好し、心豊かに生活を送ることを心掛るとは何かについて学んで欲しい。

教科(科目)	外国語 (英語コミュニケーションⅠ)	単位数	4単位	学年	1学年(普通科)
使用教科書	HERTNING English Communication I (桐原書店)				
副教材等	教科書準拠ワークブック (桐原書店)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。 ②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。 ③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。 ②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。 ③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。 ④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。 ⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。

2 学習目標

英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語の言語活動（読むこと、聞くこと、話すこと[やり取り、発表]、書くこと）を通じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報や考えを的確に理解したり、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して適切に表現したりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。

3 指導の重点

- ア. 基本的な言語材料の定着を重視しながら、段階的に学習を行う。
- イ. 聞く・読む・話す[やり取り/発表]・書くの4技能5領域の統合的な学習活動を行う。
- ウ. 各レッスンにおいて、概要や要点をとらえたり、論理展開を確認したり、多面的・多角的に考察したりするなどして同じ英文に何度も触れて学びを深める。
- エ. 言語活動では、具体的に身近な使用場面を設定し、学んだことや経験したことに基づいて積極的にコミュニケーションを行う態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

5 評価方法

評	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

評価方法	以上の観点を踏まえ、 a 授業中の活動の取組の観察 (音読、発言、発表や討論など) b 提出物の内容の分析 c 小テスト・定期考査の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 a 授業中の活動の取組の観察 (音読、発言、発表や討論など) b 提出物の内容の分析 c 小テスト・定期考査の分析 d 振り返りシートの分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 a 授業中の活動の取組の観察 (音読、発言、発表や討論など) b 提出物の内容の分析 c 小テスト・定期考査の分析 d 振り返りシートの分析 などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	学期	範囲	課	単元名、学習内容と活動	時間	評価方法
4	1学期	中間	Lesson 1	デジタル時代における友だち作り【基本的な文構造】 (1)本文に関する写真を参考にしながらやり取りすることができる。 全 Part を通した本文の概要を把握することができる。 (2)各 Part の本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。また、 本文の内容を再生できる。 (3)本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。 (4)本文の内容を自分のことばで簡潔に伝えることができる。また、本文に関連したテーマの英文を聞いて、意見をやり取りすることができる。 (5)本文で扱った発音、読解スキル、文法を理解し、それを用いて正しく英文を表現できる。 以下の課についても(1)~(5)の要領で行う	7	a, b, c, d
5			Lesson 2	万博における日本の関わりと、未来の万博の役割【時制】	7	a, b, c, d
6		期末	Lesson 3	1人のアメリカ人女性を魅了した日本の伝統話芸の世界【助動詞・態】	12	a, b, c, d
7			Lesson 4	人々の行動をよい方向に変えるための「仕掛け」とは【不定詞・動名詞】	12	a, b, c, d
8	2学期	中間	Lesson 5	ルワンダ大虐殺を生き延びた1人の女性の物語【分詞】	14	a, b, c, d
9			Lesson 6	「測る」という行為を通して人類の進化の歴史をひも解く【関係代名詞】	14	a, b, c, d
10		期末	Lesson 7	野生動物の秘密に迫る「バイオロギング」【関係副詞】	14	a, b, c, d
11			Lesson 8	「オーバーツーリズム」とは何か、そしてその解決策を考える【仮定法】	14	a, b, c, d
12						
1	3学期	学年末	Lesson 9	玉石混交の膨大な情報から真実にたどり着くために何をすべきか	14	a, b, c, d
2			Lesson 10	「禅」の精神とは何か、そして現代の世界に与えた影響とは	14	a, b, c, d
3				総合問題	6	a, b, c, d

計 128 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・授業に積極的に参加し、主体的に日々学習に取り組みましょう。
- ・ワークシート、教科書のワークブック、単語・熟語の活用ワークブックは定期的に提出をします。締め切り間に合うように計画的に取り組んでください。

8 担当者からの一言

間違いを恐れずに、クラスメイトと英語で楽しく交流しましょう。
多様な話題を扱うので、様々な視点から現代社会について理解することができます。自他国の伝統・文化を尊重しながら、国際社会の平和や発展に寄与できる人物になりましょう。

教科(科目)	外国語 (論理・表現 I)	単位数	2 単位	学年	1 学年(普通科)
使用教科書	Advanced Vision Quest Logic and Expression I (啓林館)				
副教材等	Vision Quest 総合英語 (啓林館)、Vision Quest New English Grammar (啓林館)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

英語の言語活動 (話すこと[やり取り、発表]、書くこと) を通じて、コミュニケーションを図るために必要な基本的な発信能力を育成するとともに、論理の構成や展開を考察することで情報や考えなどを論理的に伝える基礎的な英語力を養う。

3 指導の重点

ア. 実用的な場面・状況を設定した Speaking・Writing のタスク活動を行い、必要性を実感しながら文法を学習することで、発信の基盤となる文法を体系的に理解し、活用を促す。

イ. Thinking Logically ではテーマに関連した話題について、ステップを踏みながら 80~100 語程度の論理的な意見文を書くことを目指す。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。</p> <p>[技能] コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して、伝え合い、話したり、書いたりする技能を身に付けている。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりしている。 - 論理性に注意して話したり、書いたりして伝えている。 	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を使用できる。</p>

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能 (40%)	思考・判断・表現 (40%)	主体的に学習に取り組む態度 (20%)
	<p>以上の観点を踏まえ、(a, b, c, d の評価方法から)</p> <p>a 活動の取組の観察</p> <p>c 小テスト・定期考査</p> <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <p>a 活動の取組の観察</p> <p>b パフォーマンステスト</p> <p>c 小テスト・定期考査</p> <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <p>a 活動の取組の観察</p> <p>b パフォーマンステスト</p> <p>d 自己評価シート</p> <p>などから、評価します。</p>
<p>内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」により評価します。</p> <p>内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。</p>			

6 学習計画

計64時間 (1単位55分)

	範囲	課	学習内容と活動	時間	評価方法
1 学 期	中 間	Lesson 1	I want to introduce my new friend. 応答や理由	10	a, b, c, d
		Lesson 2	How about joining our group? 賛成・反対する/聞き直す		
	期 末	Lesson 3	I' m planning a day trip this weekend. 予定する/励ます	10	a, b, c, d, e
		Lesson 4	Have you ever tried it before? 経験について述べる/経験を尋ねる		
2 学 期	中 間	Lesson 5	What do you want to do after school? 許可を求める/依頼する/義務・必要を表す	14	a, b, c, d
		Lesson 6	Did you hear about the new shop? 原因・影響を表す		
	期 末	Lesson 7	I' m happy to have you with us. 感謝/謝罪/弁解	14	a, b, c, d, e
		Lesson 8	What sport do you like playing? 誘う/申し出る/推薦する		
		Lesson 9	Digital media has come a long way. 描写/判断の根拠		
3 学 期	学 年 末	Lesson10	That' s why I decided to go back. 言い換え/経緯を説明	16	a, b, c, d
		Lesson11	Which do you prefer, cheaper beans or more expensive ones? 提案する/賞賛する		a, b, c, d, e
		Lesson12	If I were you, I would see it as a positive. 助言を求める/願望を述べる		

7 課題・提出物等

Workbook を予習、復習に使って学習しなさい。なお、学習アプリを使って定期的に課題を提出しなさい。

8 担当者からの一言

英語学習では、ペアーワークやグループワークを通して学び合います。お互いを尊重し、協力し合いながら、積極的にコミュニケーション活動を楽しみましょう。

教科(科目)	外国語 (英語コミュニケーションⅡ)	単位数	4単位	学年	2学年(普通科)
使用教科書	BLUE MARBLE English Communication II (数研出版)				
副教材等	BLUE MARBLE ワークブック (数研出版)、英単語・熟語 Bricks2 (いっすな)、Jet Reading 2 (数研出版)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語の言語活動（読むこと、聞くこと、話すこと[やり取り、発表]、書くこと）を通じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報や考えを的確に理解したり、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して適切に表現したりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。

3 指導の重点

ア. 基本的な言語材料の定着を重視しながら、段階的に学習を行う。

イ. 聞く・読む・話す[やり取り/発表]・書くの4技能5領域の統合的な学習活動を行う。

ウ. 各レッスンにおいて、概要や要点をとらえたり、論理展開を確認したり、多面的・多角的に考察したりするなどして同じ英文に何度も触れて学びを深める。

エ. 言語活動では、具体的に身近な使用場面を設定し、学んだことや経験したことに基づいて積極的にコミュニケーションを行う態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。</p> <p>・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。</p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p>

5 評価方法

評	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

評価方法	以上の観点を踏まえ、 a 授業中の活動の取組の観察 (音読、発言、発表や討論など) b 提出物の内容の分析 c 小テスト・定期考査の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 a 授業中の活動の取組の観察 (音読、発言、発表や討論など) b 提出物の内容の分析 c 小テスト・定期考査の分析 d 振り返りシートの分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 a 授業中の活動の取組の観察 (音読、発言、発表や討論など) b 提出物の内容の分析 c 小テスト・定期考査の分析 d 振り返りシートの分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。 成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：4：2となります。		

6 学習計画

	範囲	課	学習内容と活動	時間	評価方法
1学期	中間	Lesson 1	Leadership in Modern Times 現代社会において求められるリーダーシップ (1)本文に関する写真を参考にしながらやり取りすることができる。 全 Part を通した本文の概要を把握することができる。 (2)各 Part の本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。また、 本文の内容を再生できる。 (3)本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。 (4)本文の内容を自分のことばで簡潔に伝えることができる。また、本文に関連したテーマの英文を聞いて、意見をやり取りすることができる。 (5)本文で扱った発音、読解スキル、文法を理解し、それを用いて正しく英文を表現できる。 以下の課についても(1)～(5)の要領で行う	10	a, b, c, d
		Lesson 2	The Diversity of Traditional Houses 世界の伝統家屋の特徴と、それらが現在果たす役割	10	a, b, c, d
	期末	Lesson 3	Improving Society with Avatar Robots 社会の「孤独」を解消するため、1人の男性が生み出した「分身ロボット」	12	a, b, c, d
		Lesson 4	Approaches to Food Waste 食品ロスの現状と、私たちにできる身近な取り組みを考える	12	a, b, c, d
2学期	中間	Lesson 5	Animals as Indispensable Partners 私たちのよりよい暮らしと社会をサポートしてくれる動物たち	14	a, b, c, d
		Lesson 6	An Irish Poet on a Mission 翻訳を通して日本文学の美しさを世界に広めるアイルランド出身の詩人	14	a, b, c, d
	期末	Lesson 7	Be Free from Gender Bias 身近にひそむ男性/女性への偏見と、それをなくそうとする取り組み	14	a, b, c, d
		Lesson 8	The Diminutive Giant Who Fought for Refugees 難民保護に尽力した「小さな巨人」、緒方貞子の信念とは	14	a, b, c, d
3学期	学年末	Lesson 9	Tackling Global Warming 地球温暖化の新しい対応策、ジオエンジニアリングの利点・欠点を考える	14	a, b, c, d
		Lesson10	Keys to Finding Happiness 「幸せ」を自分で切り開く方法を科学的に見てみよう	14	a, b, c, d

学期

計 128 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・授業に積極的に参加し、主体的に日々学習に取り組ましましょう。
- ・ワークシート、教科書のワークブック、単語・熟語の活用ワークブックは定期的に提出をします。締め切りに間に合うように計画的に取り組んでください。

8 担当者からの一言

間違いを恐れずに、クラスメイトと英語で楽しく交流しましょう。
 多様な話題を扱うので、様々な視点から現代社会について理解することができます。自他国の伝統・文化を尊重しながら、国際社会の平和や発展に寄与できる人物になりましょう。

教科(科目)	外国語(論理・表現Ⅱ)	単位数	3単位	学年	2学年(普通科)
使用教科書	be English Logic and ExpressionⅡ				
副教材等	総合英語 be (い い ず な 書店)、be English Logic and ExpressionⅡ smart Workbook				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

英語の3つの領域の活動(話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くこと)を通じて、話し手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養うとともに、主体的、自立的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

3 指導の重点

ア. 日常的な話題について、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して、話したり、書いたり、伝え合ったりする能力の向上を図る。

イ. 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて一定の支援を活用すれば、スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどの活動において、意見や主張等を論理の構成や展開を工夫して詳しく話したり、書いたり、伝え合ったりする能力の向上を図る。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。</p> <p>[技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、論理生に注意して、伝え合う技能/話して伝える技能/書いて伝える技能を身に付けている。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、</p> <p>- 話して伝え合うやり取りを続けたり、論理生に注意して話して伝え合ったりしている。</p> <p>- 論理生に注意して話して伝えている/書いて伝えている。</p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて、伝え合おうと/話そうと/書こうとしている。</p>

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<p>a 活動の取り組みの観察</p> <p>b パフォーマンステスト</p> <p>c 小テスト・定期考査の分析</p> <p>d 提出物の内容の分析などから、評価します。</p> <p>以上の観点を踏まえ、などから、評価します。</p>	<p>a 活動の取り組みの観察</p> <p>b パフォーマンステスト</p> <p>c 小テスト・定期考査の分析</p> <p>d 提出物の内容の分析</p> <p>e 振り返りシートの分析などから、評価します。</p>	<p>a 活動の取り組みの観察</p> <p>b パフォーマンステスト</p> <p>c 小テスト・定期考査の分析</p> <p>d 提出物の内容の分析</p> <p>e 振り返りシートの分析などから、評価します。</p>
<p>各観点「A:十分満足できる」「B:おおむね満足できる」「C:努力を要する」で評価します。</p> <p>内容のまとまり(1話すこと[やりとり] 2話すこと[発表] 3書くこと)ごとに評価します。</p> <p>内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。</p> <p>成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4:4:2となります。</p>			

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	Daily Life	Lesson 1 Future plans	将来の夢について話す	4	a, b, c, d, e
		Lesson 2 Free Time at Home	家で過ごす時間について話す	4	a, b, c, d, e
5	The Workings of Society	Lesson 3 Student Life	学校生活について話す	4	a, b, c, d, e
		Lesson 4 What You ' ve learned through Experience	体験から学んだことを話す	4	a, b, c, d, e
6		Lesson 5 Modern Conveniences	現代社会の利便性について考える	4	a, b, c, d, e
		Lesson 6 The Information Society	情報社会について考える	4	a, b, c, d, e
7	The Nature of the Human Mind	Lesson 7 Language and Thought	ことばと思考について考える	8	a, b, c, d, e
8		Lesson 8 Emotions and the Workings of the Mind	感情と心のはたらきについて考える	8	a, b, c, d, e
9		Lesson 9 What Exactly Does Leadership Mean?	リーダーシップの意味を考える	8	a, b, c, d, e
10	Globalization and Identity	Lesson 10 Introducing Japan	日本を紹介する	8	a, b, c, d, e
11		Lesson 11 Making Innovation Happen	イノベーションについて考える	8	a, b, c, d, e
12		Lesson 12 Embracing Diversity in Society	多様性を受け入れる社会を考える	8	a, b, c, d, e
1	Towards a Sustainable Society	Lesson 13 Tourism and Japanese Society	観光と日本社会を考える	8	a, b, c, d, e
2		Lesson 14 Food and Health	食と健康について考える	8	a, b, c, d, e
3		Lesson 15 SDGs and Issues Facing the World	世界が抱える問題と SDGs を考える	8	a, b, c, d, e

計 96時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

計画的に予習・復習をしてください。配布のハンドアウトを利用して予習をし、自分の考えなどを英語で書いたものを決められた期限までに提出してください。

8 担当者からの一言

コミュニケーション活動をクラスメイトとともに、コミュニケーションの手段として実際に英語を使いながら学んでいきましょう。

教科 (科目)	外国語 (英語コミュニケーションⅢ)	単位数	4単位	学年	3 学年 理系
使用教科書	BLUE MARBLE English CommunicationⅢ (数研出版)				
副教材等	BLUE MARBLE ワークブック (数研出版)、チャンクで英単語 Advanced (三省堂)、Jet Reading Level 3 改訂版 (数研出版)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 指導目標

<p>英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語の言語活動 (読むこと、聞くこと、話すこと[やり取り、発表]、書くこと) を通じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報や考えを的確に理解したり、基本から応用的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して適切に表現したりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>ア. 基本的な言語材料の定着を重視しながら、段階的に学習を行う。</p> <p>イ. 聞く・読む・話す[やり取り/発表]・書く の4技能5領域の統合的な学習活動を行う。</p> <p>ウ. 各レッスンにおいて、概要や要点をとらえたり、論理展開を確認したり、多面的・多角的に考察したりするなどして同じ英文に何度も触れて学びを深める。</p> <p>エ. 言語活動では、具体的に身近な使用場面を設定し、学んだことや経験したことに基づいて積極的にコミュニケーションを行う態度を養う。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。</p> <p>・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。</p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p>

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<p>・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。</p> <p>・外国語の音声や語彙、表現、文法、</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話</p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーシ</p>

	言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	ョンを図ろうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 a 授業中の活動の取組の観察（音読、発言、発表や討論など） b 提出物の内容の分析 c 小テスト・定期考査の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 a 授業中の活動の取組の観察（音読、発言、発表や討論など） b 提出物の内容の分析 c 小テスト・定期考査の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 a 授業中の活動の取組の観察（音読、発言、発表や討論など） b 提出物の内容の分析 c 小テスト・定期考査の分析 d 振り返りシートの分析 などから、評価します。

成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：4：2となります。

6 学習計画

	範囲	課	学習内容と活動	時間	評価方法
1学期	中間	Lesson 1	A Chance for Everyone to Shine すべての人が輝くことができる社会とは (1)本文に関する写真を参考にしながらやり取りすることができる。 全Partを通した本文の概要を把握することができる。 (2)各Partの本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。また、本文の内容を再生できる。 (3)本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。 (4)本文の内容を自分のことばで簡潔に伝えることができる。また、本文に関連したテーマの英文を聞いて、意見をやり取りすることができる。 (5)本文で扱った発音、読解スキル、文法を理解し、それを用いて正しく英文を表現できる。 <i>以下の課についても(1)~(5)の要領で行う</i>	13	a, b, c, d
		Lesson 2	Protecting Our Brains from Smartphones スマートフォンの使いすぎによる弊害	13	a, b, c, d
	期末	Lesson 3	Wrapping: Reinventing a Cultural Tradition 「包装」文化とプラスチックごみ	15	a, b, c, d
		Lesson 4	Paving the way to a More 点字ブロックの誕生と今後の可能性	15	a, b, c, d
2学期	中間	Lesson 5	Discovering Your Answers Through Art Thinking これからの時代を生き抜くための「アート思考」とは	17	a, b, c, d
		Lesson 6	Super Sniffers Saving the World 人間の役に立つ動物たちの驚異的な能力	17	a, b, c, d
	期末	Lesson 7	Perceptions of Time in Different Cultures 文化によって異なる時間の感覚とは	17	a, b, c, d
		Lesson 8	The Thawing Permafrost Earth's Warning 永久凍土の融解とその影響	17	a, b, c, d
3学期	学年末	Lesson 9	How We Are Influenced by Advertising 身の回りにある広告が与える影響	17	a, b, c, d
		Lesson10	What Makes a Virtual Community 現代における仮想コミュニティとその影響	19	a, b, c, d

計160時間（1単位55分授業）

7 課題・提出物等

- ・授業に積極的に参加し、主体的に日々学習に取り組みましょう。
- ・ワークシート、教科書のワークブックは定期的に提出をします。締め切りに間に合うように計画的に取り組んでください。

8 担当者からの一言

間違いを恐れずに、クラスメイトと英語で積極的に話し合いをしよう。
多様な話題を扱うので、様々な視点から現代社会について理解することができます。自他国の伝統・文化を尊重しながら、国際社会の平和や発展に寄与するためにできることを考えよう。

令和7年度シラバス (外国語)

学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科 (科目)	外国語 (英語コミュニケーションⅢ)	単位数	4単位	学年	3 学年 理系
使用教科書	BLUE MARBLE English CommunicationⅢ (数研出版)				
副教材等	BLUE MARBLE ワークブック (数研出版)、リスニング問題集 Focus on Listening Pre-Advanced (エミル出版)、WORDBOX Advanced 英単語・熟語 (美誠社)、Clues to Reading 英文解釈 (数研出版)、Jet Reading Level3 改訂版 (数研出版)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 指導目標

英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語の言語活動(読むこと、聞くこと、話すこと[やり取り、発表]、書くこと)を通じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報や考えを的確に理解したり、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して適切に表現したりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。

3 指導の重点

- ア. 基本的な言語材料の定着を重視しながら、段階的に学習を行う。
- イ. 聞く・読む・話す[やり取り/発表]・書くの4技能5領域の統合的な学習活動を行う。
- ウ. 各レッスンにおいて、概要や要点をとらえたり、論理展開を確認したり、多面的・多角的に考察したりするなどして同じ英文に何度も触れて学びを深める。
- エ. 言語活動では、具体的で身近な使用場面を設定し、学んだことや経験したことに基づいて積極的にコミュニケーションを行う態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。</p> <p>・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図</p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている</p>

すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	る。
---	---	----

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。 	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。</p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p>
評価方法	以上の観点を踏まえ、 a 授業中の活動の取組の観察（音読、発言、発表や討論など） b 提出物の内容の分析 c 小テスト・定期考査の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 a 授業中の活動の取組の観察（音読、発言、発表や討論など） b 提出物の内容の分析 c 小テスト・定期考査の分析 d 振り返りシートの分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 a 授業中の活動の取組の観察（音読、発言、発表や討論など） b 提出物の内容の分析 c 小テスト・定期考査の分析 d 振り返りシートの分析 などから、評価します。

成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：4：2となります。

6 学習計画

	範囲	課	学習内容と活動	時間	評価方法
1学期	中間	Lesson 1	A Chance for Everyone to Shine すべての人が輝くことができる社会とは (1)本文に関する写真を参考にしながらやり取りすることができる。 全Partを通した本文の概要を把握することができる。 (2)各Partの本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。また、本文の内容を再生できる。 (3)本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。 (4)本文の内容を自分のことばで簡潔に伝えることができる。また、本文に関連したテーマの英文を聞いて、意見をやり取りすることができる。 (5)本文で扱った発音、読解スキル、文法を理解し、それを用いて正しく英文を表現できる。 以下の課についても(1)~(5)の要領で行う	10	a, b, c, d
		Lesson 2	Protecting Our Brains from Smartphones スマートフォンの使いすぎによる弊害	10	a, b, c, d
	期末	Lesson 3	Wrapping: Reinventing a Cultural Tradition 「包装」文化とプラスチックごみ	12	a, b, c, d
		Lesson 4	Paving the way to a More 点字ブロックの誕生と今後の可能性	12	a, b, c, d
2学期	中間	Lesson 5	Discovering Your Answers Through Art Thinking これからの時代を生き抜くための「アート思考」とは	14	a, b, c, d
		Lesson 6	Super Sniffers Saving the World 人間の役に立つ動物たちの驚異的な能力	14	a, b, c, d
	期末	Lesson 7	Perceptions of Time in Different Cultures 文化によって異なる時間の感覚とは	14	a, b, c, d
		Lesson 8	The Thawing Permafrost Earth's Warning 永久凍土の融解とその影響	14	a, b, c, d
3学期	学年末	Lesson 9	How We Are Influenced by Advertising 身の回りにある広告が与える影響	14	a, b, c, d
		Lesson10	What Makes a Virtual Community 現代における仮想コミュニティとその影響	14	a, b, c, d

計128時間（1単位55分授業）

7 課題・提出物等

- ・授業に積極的に参加し、主体的に日々学習に取り組みましょう。
- ・ワークシート、教科書のワークブックは定期的に提出をします。締め切りに間に合うように計画的に取り組んでください。

8 担当者からの一言

間違いを恐れずに、クラスメイトと英語で積極的に話し合いをしよう。
 多様な話題を扱うので、様々な視点から現代社会について理解することができます。自他国の伝統・文化を尊重しながら、国際社会の平和や発展に寄与するためにできることを考えよう。

令和7年度シラバス (外国語)

学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科(科目)	外国語(論理・表現Ⅲ)	単位数	2単位	学年	3学年(普通科)
使用教科書	Be English Logic and ExpressionⅢ				
副教材等	総合英語 be (いっずな書店)、be English Logic and Expression smart Grammar Book				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

英語の3つの領域の活動(話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くこと)を通じて、話し手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養うとともに、主体的、自立的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

3 指導の重点

ア. 日常的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを、相手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり、書いたり、伝え合ったりする能力の向上を図る。

イ. 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて支援をほとんど活用しなくても、スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどの活動において、相手を説得できるよう、意見や主張等を論理の構成や展開を工夫して詳しく話したり、書いたり、伝え合ったりする能力の向上を図る。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。</p> <p>[技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して、伝え合う技能/話して伝える技能/書いて伝える技能を身に付けている。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、</p> <p>- 話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりしている。</p> <p>- 論理性に注意して話して伝えている/書いて伝えている。</p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて、伝え合おうと/話そうと/書こうとしている。</p>

5 評価方法

評 価 方 法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	a 活動の取り組みの観察 b パフォーマンステスト c 小テスト・定期考査の分析 d 提出物の内容の分析 などから、評価します。	a 活動の取り組みの観察 b パフォーマンステスト c 小テスト・定期考査の分析 d 提出物の内容の分析 e 振り返りシートの分析 などから、評価します。	a 活動の取り組みの観察 b パフォーマンステスト c 小テスト・定期考査の分析 d 提出物の内容の分析 e 振り返りシートの分析 などから、評価します。
法	各観点「A：十分満足できる」「B：おおむね満足できる」「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまり（1話すこと [やりとり] 2話すこと [発表] 3書くこと）ごとに評価します。 成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：4：2となります。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	The World Around Us	Lesson 1 The Easiest City to Live in	住みやすい町について考える	3	a, b, c, d, e
		Lesson 2 The Value of Libraries	図書館の価値について考える	3	a, b, c, d, e
5		Lesson 3 Improving Our Town	魅力ある町づくりを考える	3	a, b, c, d, e
	1学期中間考査			1	a, b, c, d, e
	Arts and Entertainment	Lesson 4 Free Time	時間の過ごし方について考える	4	a, b, c, d, e
6		Lesson 5 New Sports and Entertainment	新しいスポーツや娯楽を考える	4	a, b, c, d, e
		Lesson 6 Enriching Our Lives	人生に必要なものについて考える	4	a, b, c, d, e
	1学期期末考査			1	a, b, c, d, e
7	Reflecting on the Natural World	Lesson 7 A Common Concern	人類共通の課題について考える	4	a, b, c, d, e
8		Lesson 8 Maintaining the Ecosystem	生態系の維持について考える	4	a, b, c, d, e
9		Lesson 9 A Sustainable Lifestyle	持続可能なライフスタイルについて考える	4	a, b, c, d, e
10	2学期中間考査			1	a, b, c, d, e
	Economies: Behind the Curtain	Lesson 10 The Evolving Japanese Workforce	変わりゆく日本の労働力のあり方を考える	4	a, b, c, d, e
11		Lesson 11 Inside Fairtrade	フェアトレードについて考える	4	a, b, c, d, e

12		Lesson 12 Volunteering to Help	ボランティア活動について考える	4	a, b, c, d, e
	2学期期末考査			1	a, b, c, d, e
1	Language and Identity	Lesson 13 Trends in Studying Abroad	留学について考える	4	a, b, c, d, e
2		Lesson 14 English as an Official Language	英語の公用語化について考える	5	a, b, c, d, e
	学年末考査			1	a, b, c, d, e
3		Lesson 15 Understanding Diversity	多様性について考える	5	a, b, c, d, e

計 64時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

計画的にワークブックで予習・復習をしてください。配布のハンドアウトを利用して予習をし、自分の考えなどを英語で書いた物を決められた期限までに提出してください。

8 担当者からの一言

コミュニケーション活動をクラスメイトとともに、コミュニケーションの手段として実際に英語を使いながら学んでいきましょう。

令和7年度シラバス (外国語)

学番61 新潟県立柏崎高等学校

教科 (科目)	外国語 (英語探究)	単位数	2単位	学年	3学年文系
使用教科書	BLUE MARBLE English Communication III (数研出版)				
副教材等	Viewpoint Standard 英文読解の着眼点 15 改訂版 (数研出版)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 指導目標

表現活動の基礎となる文法や構文の知識の確認や定着を図るとともに、長文の記述読解を通して、文構造を理解し、テーマへの理解を深める。

3 指導の重点

- ア. これまでに学んだ文法や構文の知識を確認し、重要例文や基本的表現を定着させる。
- イ. 記述問題に取り組み、正しい答えの導き方を学ぶ。
- ウ. 与えられた話題・テーマ、また他者の意見に対して、文のつながりや段落構成に気をつけて、自分の考えをまとめたり、意見を英語で表現したりする力を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。 	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。</p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p>
--	--	---

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	与えられた話題や他者の意見に対して、論理的に自分の意見を英語で表現している。	文法や構文の知識をもとに、概ね正確な英文を書いている。	コミュニケー主音に関心を持ち、積極的に自己表現活動に取り組んでいる。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 a 授業中の活動の取組の観察（音読、発言、発表や討論など） b 提出物の内容の分析 c 小テスト・定期考査の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 a 授業中の活動の取組の観察（音読、発言、発表や討論など） b 提出物の内容の分析 c 小テスト・定期考査の分析 d 振り返りシートの分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 a 授業中の活動の取組の観察（音読、発言、発表や討論など） b 提出物の内容の分析 c 小テスト・定期考査の分析 d 振り返りシートの分析 などから、評価します。

成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：4：2となります。

6 学習計画

	範囲	課	学習内容と活動	時間	評価方法
1学期	中間	Lesson1	愛の告白方法 - 名詞句を後ろから説明するカタマリを見抜く	4	a, b, c, d
		Lesson2	ブータンの農業の父 - 名詞句を後ろから説明するカタマリを見抜く	4	a, b, c, d
		Lesson3	コココーラの誕生 - and/but/ or は「同じ働きをする」語と語をつなぐ	4	a, b, c, d
	期末	Lesson4	ローフードのすすめ - 副詞の挿入に注意して、文構造を見抜く	4	a, b, c, d
		Lesson5	海洋哺乳類の睡眠 - that + 完全な文という「名詞のカタマリ」	4	a, b, c, d
		Lesson6	ネット検索の利点と欠点 - what 節という1つの「名詞のカタマリ」	4	a, b, c, d
2学期	中間	Lesson7	ストレスが習慣に与える影響 - and/but/ or は「同じ働きをする」節と節をつなぐ	5	a, b, c, d
		Lesson8	脳や神経が錯覚を起こすしくみ - 前置詞のあとにくる名詞のカタマリ	5	a, b, c, d
		Lesson9	完璧な紅茶の入れ方 - 名詞句と名詞句が連続すれば同格の関係	4	a, b, c, d
	期末	Lesson10	手を使わずに機会を動かす技術 - 省略表現	5	a, b, c, d
		Lesson11	食品の輸入が環境に与える影響 - 強調構文	5	a, b, c, d
		Lesson12	動物の意思伝達 - 後ろに続く語句を予測しながら、英文を読む	4	a, b, c, d
3学期	学年末	Lesson13	日本のシンドラリー杉原千畝 - 分詞構文を見抜く	4	a, b, c, d
		Lesson14	調理が脳の成長に与える影響 - 名詞構文を見抜く	4	a, b, c, d
		Lesson15	音楽療法の効果 - 倒置を見抜く	4	a, b, c, d

計64時間（1単位55分授業）

7 課題・提出物等

- ・授業に積極的に参加し、主体的に日々学習に取り組みましょう。
- ・定期的に配付される計画表で確認して下さい。

8 担当者からの一言

間違いを恐れずに、クラスメイトと英語で積極的に話し合いをしましょう。英語の語彙や文法を身につけ英語で表現しようとするのも大切ですが、そのためには、表現すべき自分自身の考えがなければなりません。様々な話題・テーマについて、自分なりの意見を持つことを心がけましょう。

教科（科目）	家庭（家庭基礎）	単位数	2単位	学年	2学年（普通科）
教科書	東京書籍 家庭基礎 自立・共生・創造				
副教材	東京書籍 家庭基礎学習ノート 第一学習社2025最新生活ハンドブック				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。 ②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。 ③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。 ②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。 ③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。 ④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。 ⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。

2 学習目標

生活の営みに関わる見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに関わる技能を身に付けるようにする。 (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見い出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。
--

3 指導の重点

①青年期の発達課題でもある自立に向けた準備を促します。近い将来に自立することを強く意識させ、そのために必要な知識の習得と実践する力を育みます。生徒自らが生活を創造していく主体であることを理解し、生活の充実向上を高めることを目指します。 ②地域の生活にも目を向け生徒自身が地域社会の一員であること、社会の中で共生していくことを理解させます。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに関わる技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見い出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家族、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の内容の確認 ・課題作品のできばえ などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、授業中の取組の観察、レポート、学習ノート、課題作品などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の取組の観察、レポートなどの内容の確認、学習ノート、課題作品、提出物の状況 などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。 成績は100点法で評価します。その内訳は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順に、4：3：3となります。		

6 学習計画

月	単元	授業時数	教材名	学習内容	時間	評価の観点と評価方法
---	----	------	-----	------	----	------------

		と領域				
4	生涯を見通す	2	東京書籍 家庭基礎 自立・共生・創造	・人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解する。生涯を見通して生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性を学ぶ。ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考え、生活設計を考える。	8	【1学期】 定期考査 課題作品 学習ノート レポート (記述の確認) 授業での取り組み、提出物の状況 (行動の確認)
5	人生をつくる これからの生活を創造する	4 2	東京書籍 家庭基礎学習ノート 第一学習社	・青年期の課題を理解し、家族・家庭の機能と家族関係、それを取り巻く社会環境の変化や課題について学ぶ。責任を持って行動すること、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性を学ぶ。		
6 7	子どもと共に育つ	10	2024最新生活 ハンドブック	・乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援について理解する。乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付ける。 ・子供を生み育てることの意義について考え、子供の健やかな発達のために親や家族及び地域社会の果たす役割の重要性を学ぶ。	10	
7	経済生活を営む	2		・消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて学ぶ。	2	【2学期】 定期考査 課題作品 学習ノート レポート (記述の確認) 授業での取り組み、提出物の状況 (行動の確認)
8	(夏期休業)		東京書籍 家庭基礎 自立・共生・創造	・ホームプロジェクト ・学校家庭クラブ活動		
9	経済生活を営む	8	東京書籍 家庭基礎学習ノート	自立した消費者として生活情報を活用し適切な意思決定に基づいて行動する責任ある消費について学ぶ。 ・持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について学ぶ。	8	
10 1 1	食生活をつくる	16	第一学習社 2024最新生活 ハンドブック	・栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について学ぶ。 ・おいしさの構成要素や食品の調理上の特質、食品衛生について理解し、目的に応じた調理に必要な技能を身に付ける。 ・食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画。健康や環境に配慮した食生活について考える。	16	
1 2 1	衣生活をつくる	12	東京書籍 家庭基礎 自立・共生・創造 東京書籍 家庭基礎学習ノート	・被服材料、被服構成及び被服衛生について理解し、被服計画・管理に必要な技能を身に付ける。 ・被服の機能と着装について理解する。 ・被服材料、被服構成及び被服衛生について理解し、被服計画・管理に必要な技能を身に付ける。 (作品製作)	12	【3学期】 定期考査 課題作品 学習ノート レポート (記述の確認) 授業での取り組み、提出物の状況 (行動の確認)
2	住生活をつくる	4	第一学習社	・住生活の特徴、防災など安全な環境に配慮した住居の機能について学ぶ。	4	
3	超高齢社会を共に生きる 共に生き、共に支える	4	2024最新生活 ハンドブック	・高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活や支援や介護について理解する。 ・家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解する。	4	

計64時間 (55分授業)

7 課題と提出物

- ・中間、学期末に学習ノートを提出する。
- ・長期休業にはホームプロジェクト、学校家庭クラブ等の課題を出す。

8 担当者から一言

柏崎高校で家庭科を学べるのは3年間の中でこの1年間だけです。みなさんがこれからどう生きるかに役立つ内容がぎっしり詰まっています。この授業を通し、家庭科の魅力と重要性を知ってほしいです。そして、自立した生活者へと成長していきましょう。

教科(科目)	情報 (情報 I)	単位数	2 単位	学年	1 学年(普通科)
使用教科書	東京書籍 『情報 I Step Forward!』				
副教材等	東京書籍 『情報 I Step Forward!学習ノート』 東京書籍 『ニュースステップアップ情報 I』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自ら課題を発見し、創造的に解決の道筋を探究していく果敢な生徒を育成します。</p> <p>②郷土の誇りを胸に他者と協働し、困難を克服していく気魄のある生徒を育成します。</p> <p>③目標を見極め、生きて働く知識・技能を身につける賢明な生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する教科指導を行います。</p> <p>②生徒がその資質・適正・志望に応じた進路先を自ら選択し、優位なリーダーを育成・輩出する進路指導を行います。</p> <p>③科学的リテラシー・探究力を有し、将来の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育活動を行います。</p> <p>④リーダーシップを育成し、協働的な学びを実践する学校行事を行います。</p> <p>⑤文武両道の実践を通して、常に向上心を持って仲間と高め合い、健全な心身を確立する部活動を実践します。</p>

2 学習目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成することを旨とするともに情報を発信する能力・技術を養う。

3 指導の重点

- ① 情報に関する法制度や個人の責任としての情報モラルなどを学び、情報や情報技術が社会に与える影響について、目的と状況に応じて自ら判断し、意思決定する力をつける。
- ② 情報技術の発達によってコミュニケーションの手段が変化し、情報の流通の範囲が拡大し、即時性や利便性が向上した状況を学び、多くの情報が流通するなかで、目的や受け手の状況に応じてわかりやすく伝える方法として、図表やピクトグラム、ページデザインなどの情報デザインの工夫ができる力をつける。
- ③ コンピュータの内部や情報通信ネットワークの仕組みなどを学ぶとともに、プログラミングやシミュレーションによって問題を見出し・解決する力をつける。
- ④ 情報通信ネットワークや情報システムによって提供されるサービスを活用することで、データを蓄積、管理、提供する方法や情報セキュリティを確保する方法を学び、アンケートの設計から収集データの統計的な分析、テキストマイニングなど、データ分析の力を身に付ける。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけるとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

8	3章 プログラミング		32 アルゴリズムの効率性 (問)探索アルゴリズムを考える (問)整列アルゴリズムを考える 33 プログラムの仕組み 34 プログラミング入門 35 プログラムの応用 (問)じゃんけんのプログラム (問)サイコロのシミュレーションのプログラム 実67 プログラムの改善 実68 My お天気キャスター	a c c a a a, b c c c a, b, c a, b, c a a, b a, b c a, b a, b c c a a, b a a, b c a a, b	
9					
10			36 問題のモデル化 37 モデル化の活用 38 シミュレーション 実70 シミュレーションをしよう 39 シミュレーションの活用 40 情報通信ネットワーク (問)ネットワーク接続した場合の機器の機能拡張 (問)家庭内LANを構築する 41 デジタル通信の仕組み 42 インターネットの利用 44 情報システム 45 さまざまな情報システム (問)身の回りの端末の情報システム 43 安全安心を守る仕組み 46 情報システムの信頼性		
11	4章 ネットワーク の活用				
	期末考査	1		a, b	考査、課題提出物
12	4章 ネットワーク の活用	11	47 データの活用とデータベース 48 データの管理 実73 コンビニデータベース 49 データの収集と種類 (問)データの種類と尺度を判断する 50 データの分析 (問)テキストマイニングでできることを考える 51 不確実な事象の解釈 52 2つのデータの関係 実72 高校生の実態調査	a a, b c a, b c a, b c a a, b c	授業の取組 課題提出物の内容
1					
2					
3					
3	学年末考査	1		a, b	考査、課題提出物

計64時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

- ・ 授業で使用するワークシート
- ・ 『情報 I Step Forward! 学習ノート』
- ・ 授業で指示された成果物 等

8 担当者からの一言

情報は他教科の基本となる教科です。常に他教科ではどのように活用できるかを考えて学習して欲しいものです。そのような意識で臨むことにより、いろいろな場面で役立つさまざまな技術や考え方を身に付けることができるようになるでしょう。